

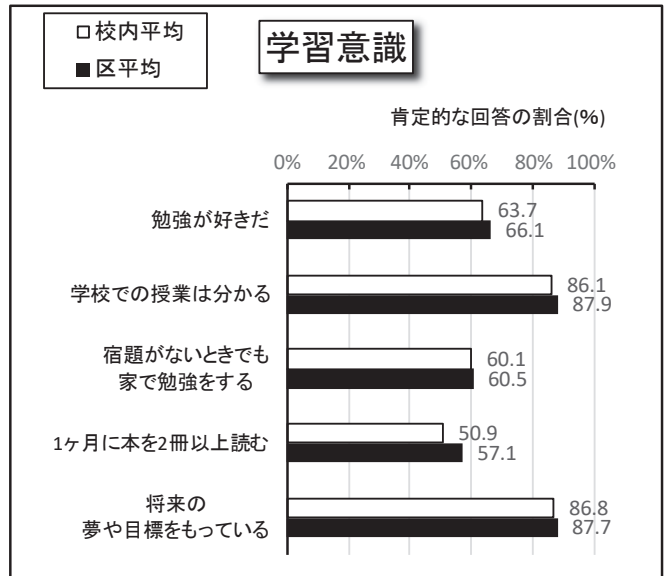
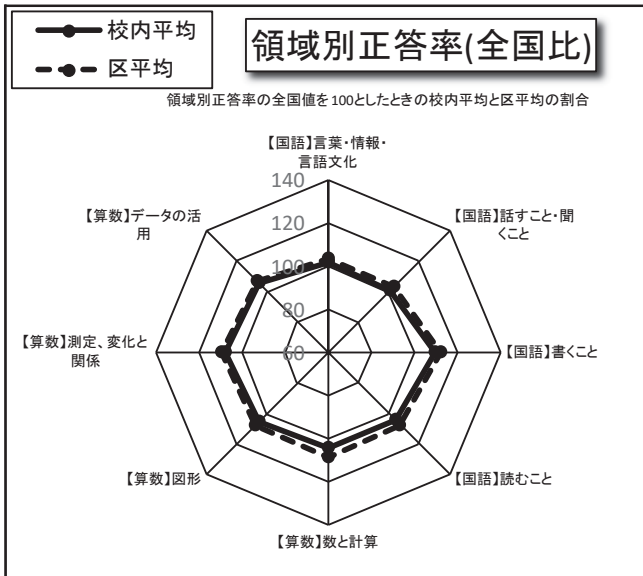
第2部

各校の調査結果概要と 学力向上への取り組み

1 小学校

青井 ……………	24	弘道 ……………	42	辰沼 ……………	60	東綾瀬 ……………	78
足立 ……………	25	弘道第一 ……	43	寺地 ……………	61	東伊興 ……………	79
足立入谷 ……	26	江北 ……………	44	舎人 ……………	62	東加平 ……………	80
綾瀬 ……………	27	古千谷 ……	45	舎人第一 ……	63	東栗原 ……………	81
伊興 ……………	28	皿沼 ……………	46	中川 ……………	64	東湊江 ……………	82
梅島 ……………	29	鹿浜五色桜 …	47	中川北 ……	65	平野 ……………	83
梅島第一 ……	30	鹿浜第一 ……	48	中川東 ……	66	湊江 ……………	84
梅島第二 ……	31	鹿浜未来 ……	49	中島根 ……	67	湊江第一 ……	85
桜花 ……………	32	島根 ……………	50	長門 ……………	68	保木間 ……	86
扇 ……………	33	新田 ……………	51	西新井 ……	69	宮城 ……………	87
大谷田 ……	34	関原 ……………	52	西新井第一 …	70	六木 ……………	88
興本 ……………	35	千寿 ……………	53	西新井第二 …	71	本木 ……………	89
加平 ……………	36	千寿桜 ……	54	西伊興 ……	72	弥生 ……………	90
亀田 ……………	37	千寿常東 ……	55	西保木間 ……	73		
北三谷 ……	38	千寿第八 ……	56	花畑 ……………	74		
栗島 ……………	39	千寿双葉 ……	57	花畑第一 ……	75		
栗原 ……………	40	千寿本町 ……	58	花畑西 ……	76		
栗原北 ……	41	竹の塚 ……	59	花保 ……………	77		

青井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.1	81.6	87.9	93.2	77.4	84.9	79.2	85.4	80.8	59.6	80.0	82.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	84.6	86.0	84.9	94.3	84.0	82.0	83.3	90.7	84.4	84.4	86.3	78.4
平均正答率(R5)	77.7	75.2	90.3	90.1	81.5	83.5	72.0	71.1	72.5	65.1	74.6	70.0
平均正答率(R4)	75.2	77.7	87.4	91.9	80.3	83.9	71.9	80.4	70.2	73.8	70.7	63.6

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

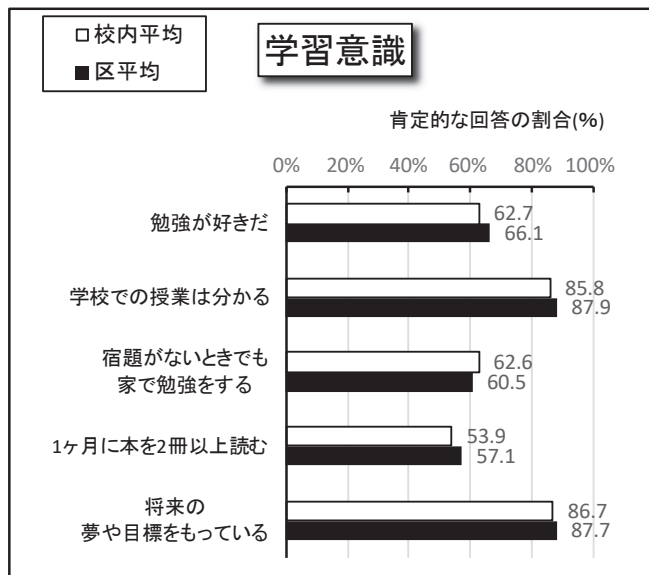
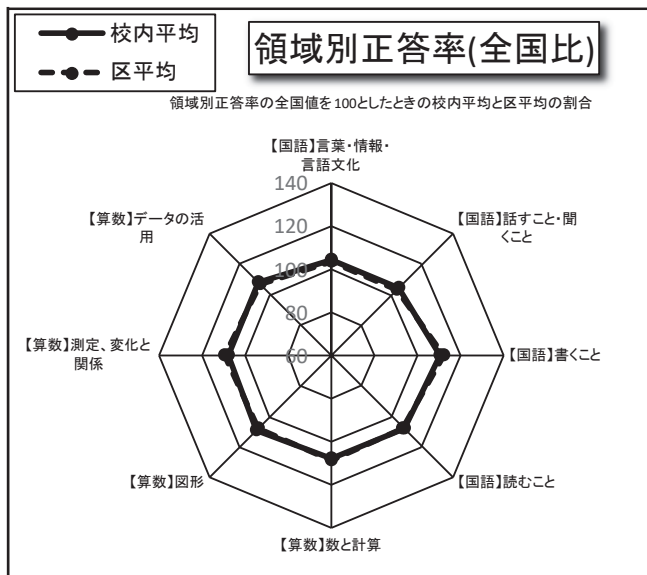
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体としての平均正答率は、国語77.7%、算数は75.2%であった。国語は、前年度よりも2.5ポイント上回っており、前年度の学習が身についているといえる。
- 目標値に対する通過率は国語81.1%、算数81.6%と前年度をやや下回る結果となっているが、概ね高い通過率を示している。
- 領域別正答率を見ると、すべての領域で区平均を下回ったが、算数「データの利活用」は、わずかではあるが、昨年度の自校数値を上回った。
- 学習意識調査の結果を見ると、「学校での授業は分かる」と回答した児童は86.1%と高い数値を示しており、楽しく分かりやすい授業を目指してきた成果が表れてきたと言える。より一層児童の考えが深まる授業展開ができるよう、日々の教材研究に力を入れて、「学校での授業は分かる」児童の増加をさらに図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 平成25年度より、「青井ゆうやけ教室」という放課後補習教室を、全教員で週に一度実施している。「弱点の克服」と「できる喜び」の2点をねらいとし、達成感を得た児童は、通常の授業でも高い意欲を示して学習するようになってきている。また、放課後自習教室「学Viva」を開設し、児童が学校内で宿題などに取り組むことのできる場を設け、学習習慣の定着を図っている。
- 学力定着度をはかる確認テストを年2回実施することで、児童の実態を把握し、日々の授業の改善を図っている。またその情報を学校全体で共有し、児童の実態に合った学習を展開している。
- 教育委員会が示している「足立スタンダード」を取り入れ、校内独自の教員研修を計画し、教員の指導力向上をめざしている。また、ICT活用した授業を各学年で検討しさまざまな教科で取り入れている。

足立小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.8	84.2	80.5	87.8	91.5	90.4	89.8	87.8	81.8	78.8	74.7	76.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.2	81.3	91.6	97.9	94.7	89.5	84.7	81.6	77.8	62.6	77.7	75.5
平均正答率(R5)	79.6	76.8	86.0	87.6	90.0	87.0	79.0	75.4	76.0	71.5	71.4	67.9
平均正答率(R4)	75.0	76.1	90.7	94.6	84.0	88.1	72.6	75.5	64.9	63.5	67.7	65.0

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

3・4年生は、国語・算数ともに通過率が区平均値よりも高い。昨年度、週4回のパワーアップタイムを活用し、国語・算数の基礎的・基本的な学習に取り組んだ。年3回のパワーアップテストを行い、算数のまとめ・国語の漢字ともに全国平均を上回ることを合格とし、80%以上の通過率を目指し取り組んだ。その結果、領域別正答率では、国語の「漢字の読み・書き」や算数「数と計算」で、区平均と同等の結果となった。

しかし、2・5・6年生は国語・算数ともに区平均値を下回り、A・B層とC・D層の学習の定着に差があり、積み重ね・学習の定着が弱いことがわかった。また、国語・算数ともに「応用」「活用」の部分や、国語「書くこと」、算数「図形」の領域に課題がある。

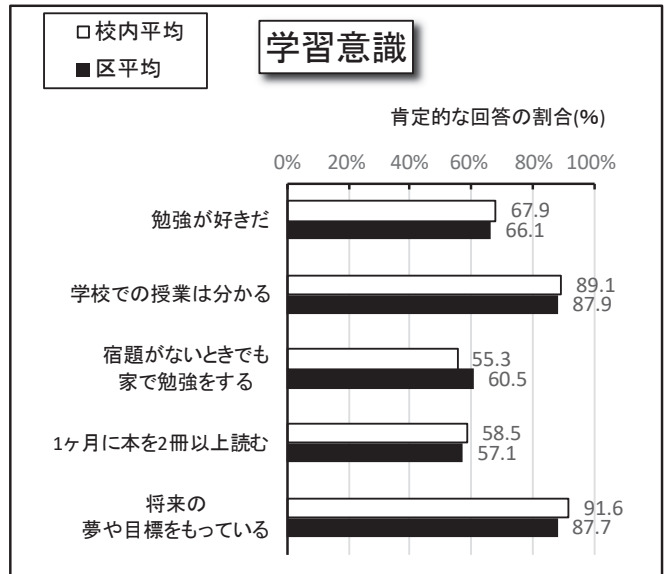
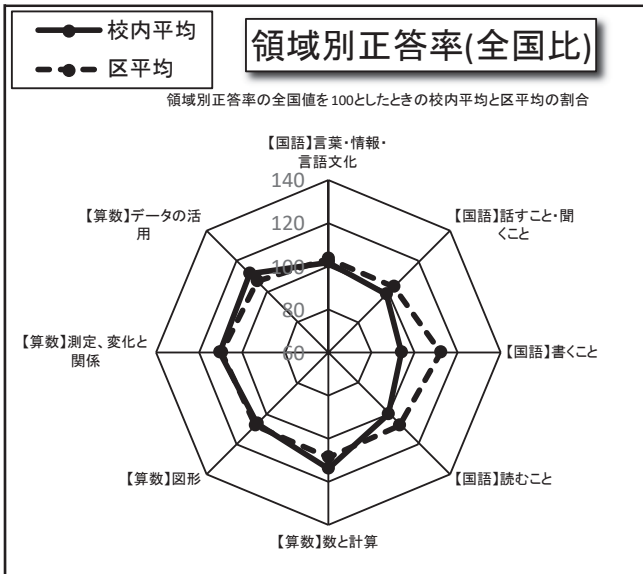
基礎的な知識・技能は定着しているものの、応用的な思考・判断・表現の力が伸びていない。C・D層の児童に対する個別指導・支援を充実させ、基礎的・基本的な学習の定着を図り、全校的に繰り返して学習する姿勢を続ける。また、足立スタンダードやICT活用による授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を高めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

漢字・計算の定着を図るために、年3回のパワーアップテスト合格者を1・2年生では、90%、3年生以上85%以上の通過率をめざして取り組む。未通過児童は通過するまでテストを行う。パワーアップタイムを活用し、月・木曜日に漢字、火・金曜日に計算を行い、漢字小テストやA Iドリル、プリント学習等で定着を図る。水曜日には、学力向上の時間を設定し、計画的に国語・算数のつまづきを解消する課題に取り組む。国語・算数共に、C・D層の定着が低いことから、毎週月曜日に、パワーアップテストと区学力調査未通過児童、単元テスト正答率70%以下の児童を対象に補習を行う。サマースクールでは、区学力調査の再テストで未通過の児童を対象とする。最終日に、区学力調査再テストで未通過児童の半数合格をめざし、個別指導を行う。学力向上の時間や補習等には、担任だけでなく副担任が入り込み指導を行い、全教職員で指導に当たる。

「家庭学習ぐんぐん週間」を年5回調査を行い、自己を振り返らせ、学習意欲を高めるように取り組む。家庭でも意識を高め、学習にすすんで、繰り返し取り組む姿勢を養う。

足立入谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	75.3	87.0	75.0	100.0	70.0	80.0	80.0	90.0	68.8	75.0	80.0	86.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	71.1	75.9	77.8	88.9	90.0	90.0	76.5	88.2	80.0	66.7	40.9	54.5
平均正答率(R5)	75.2	78.5	85.9	92.4	84.3	86.3	75.0	78.6	67.7	72.1	69.7	69.0
平均正答率(R4)	68.1	71.9	83.0	90.7	82.1	84.6	68.1	79.7	65.0	71.4	55.2	52.1

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

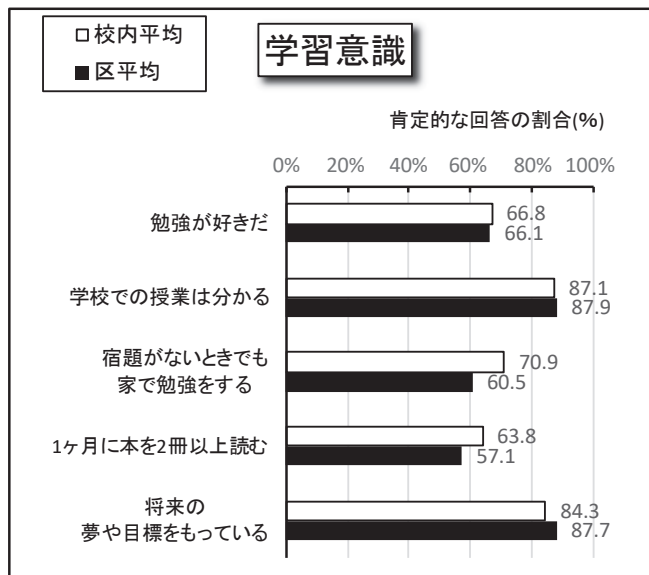
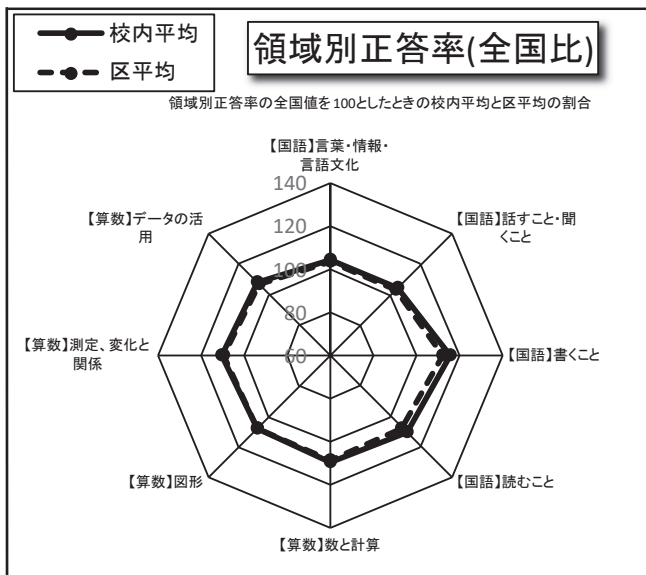
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体を昨年度と比較すると、通過率で国語4.2ポイント算数11.1ポイント、正答率で国語7.1ポイント算数6.6ポイント上昇したことから、全体的に学力が向上したといえる。
- ・上昇した要因として、日々の授業における児童の学習に取り組む態度と、自ら問題を見出し解決する児童を目指した校内研究の充実による教員の指導力向上が考えられる。
- ・国語の通過率に課題があるように見えるが、昨年度からの正答率上昇幅は算数以上であり、着実に向上している。ただし、領域別に見ると「書くこと」に関する正答率が全国平均を下回っており今後の課題となっている。
- ・このことは、昨年度から導入している「短作文(100文字程度作文)の取組」について、まだ十分な取り組みとなっていなかったため、効果が限定的だったと考えられる。
- ・「学習意識」に関する調査結果では、概ね肯定的な回答が区平均を上回っている。特に「将来の夢や目標をもっている」という設問では、区平均を約4ポイント上回っており、家庭と協力した働きかけにより、今後の学習意欲向上に結びつけられる可能性を示している。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・基礎的・基本的な学力のさらなる向上のために「漢字・計算検定」の改善を図る。「修行編」を経て検定をさせることにより合格への意欲を高める。また、不合格だった児童に対しては、教職員全員による放課後補習で合格するまでのフォローアップを行う。
- ・前年度までの学習定着が難しい児童に対しては、「学ぶ努力を諦めさせない」を合い言葉に、スモールステップ指導で達成感を得られる取り組みを充実させる。そのために、放課後補習、サマースクール、そだち指導、習熟度別指導の充実を図る。
- ・「自ら問題を解決することができる児童の育成」を研究主題とし、教職員全員で体験活動の工夫、充実を図り、他人任せにせず自分で問題解決できる児童を育成する。
- ・宿題とは別に自らの興味に即した自由課題による家庭学習に取り組ませることで、生涯に渡って学び続けられる人間としての基礎を培う。
- ・「リーディングDXモデル校」として教科指導でICTを効果的に活用することで「自分の考えと他者の考えを比較する」などのデジタルコミュニケーション力を育成する。

綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.2	83.6	91.0	97.2	86.9	84.6	78.9	78.0	87.6	73.6	85.8	82.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	82.9	82.7	89.0	90.6	89.5	83.1	81.0	78.4	74.4	76.8	80.3	84.4
平均正答率(R5)	81.2	78.4	90.7	92.6	87.3	84.5	75.5	75.1	78.2	70.0	75.5	71.9
平均正答率(R4)	75.4	78.0	86.8	91.1	82.9	84.3	70.9	74.6	68.8	72.0	70.6	71.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

2年生は、国語・算数ともに区平均正答率を上回った。算数は単元終わりに習熟を見る確認テストを行い定着が不十分な児童の補習教室などを行っていることが結果につながったと考える。

3年生は、区平均正答率と比べて国語は上回り、算数は下回った。平面図形の読み取りに課題があり、作図に関してA層とD層の差が大きく開きがあるため力をつけていきたい。

4年生は、国語と算数ともに区平均正答率を下回った。漢字テストを繰り返し行ったことで基礎基本の漢字の書きは成果につながったが漢字の読みの定着が不十分であった。

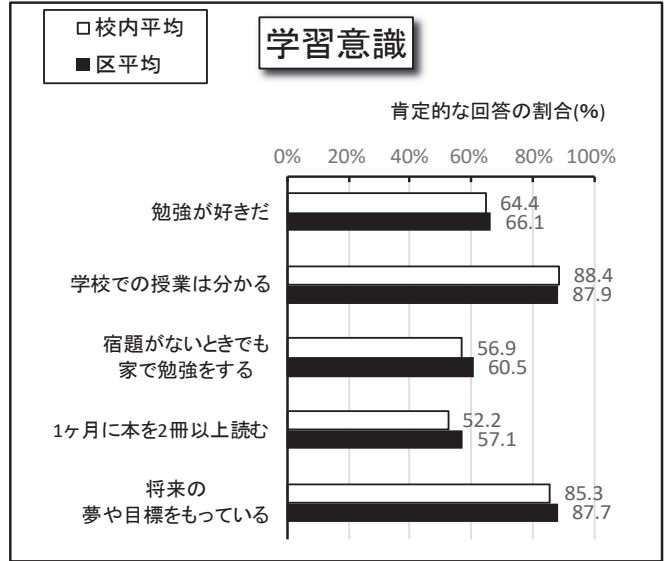
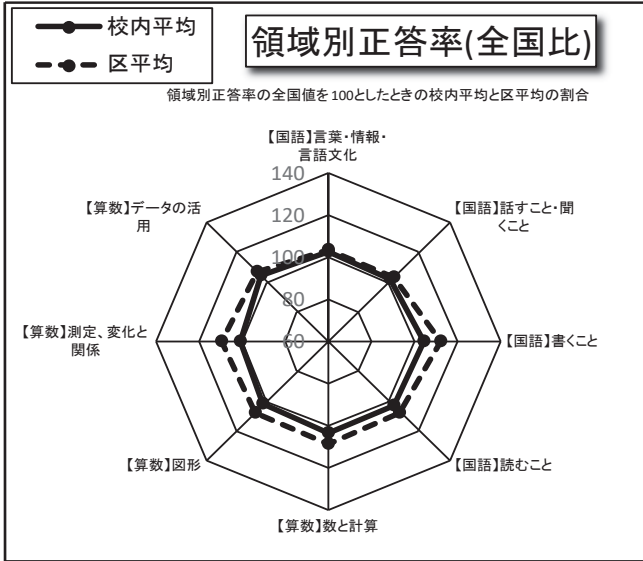
5年生は、国語は区平均正答率を上回っている。特に文学的な文章と、情報の扱い方が大きく上回った。算数は、全国値は上回っているが、区平均正答率を下回っている単元が多い。特に整数の計算、分数の計算、表やグラフの用い方が下回っている。

6年生は、国語と算数ともに区平均正答率を超えている。しかし算数では多くの単元で4層階層の開きが見られる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・「綾瀬スタンダード」足立スタンダードを踏まえて作成した綾瀬スタンダードを基にした授業の徹底及び算数の板書の書き方や、教室の環境設備と物品配置など全学級で統一した。
- ・「午前5時間制の実施」1コマ40分で授業を展開し、集中力の続く午前中に5コマ行うことで集中して学習に取り組むことができる。
- ・「スパイラルタイム」毎日午後12時20分間の時間を設け、曜日ごとに決められた教科の反復学習を行い、学力の向上、定着を図る。
- ・「充実した補習体制」放課後や長期休業中に単元別テストや足立区学力調査の結果で習熟が不十分だった児童は、課題に応じて補習を行い定着を図る。
- ・「教科担任制」中学年以上で実施している。担当教科(国・社・理・体)の授業を複数クラスで受けもつことで、授業での気づきや反省をすぐに他のクラスの授業に活かすことができる。また、教員にとってもより深い教材研究や指導法研究が可能になることで教科専門性が高まる。

伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	80.8	75.1	70.8	84.0	88.4	86.0	80.0	72.9	85.8	66.4	80.0	67.4
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	84.2	81.7	94.0	90.4	73.2	84.1	91.4	89.5	86.3	69.6	75.7	76.7
平均正答率(R5)	77.6	73.0	83.3	84.7	88.2	84.8	73.7	70.0	75.1	66.9	70.8	63.4
平均正答率(R4)	74.5	76.2	89.0	91.8	77.8	83.6	75.4	80.3	69.6	68.5	67.7	65.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○令和4年度と令和5年度における正答率及び通過率の結果から

国語の、学校全体の平均正答率は、昨年度と比べて若干の向上が見られた。通過率は、2年生を除くすべての学年が80%以上であったが、学年ごとに経年比較をすると4年生を除いた全学年が昨年度の結果より下がっている。

算数の、学校全体の平均正答率は、昨年度と比べて若干の低下が見られた。また、平均正答率を学年ごとに経年比較すると、4年生は-13.6ポイント、5年生は-13.4ポイントと大きく下がった。通過率は、80%を超えたのは2・3年生のみで、5・6年生は70%未満である。

○領域別正答率の結果から

国語では、「書くこと」の問題の正答率がどの学年も低く、特に記述式の問題の正答率が低く、無解答も多い。算数では、高学年が「図形」、低中学年が「測定」の正答率が低かった。

○学習意識の結果から

学校での授業内容は理解できているが、学習意欲の向上に課題が見られる。また、家庭での学習や読書に向かう意識が低い。

学校による学力向上への主な取り組み

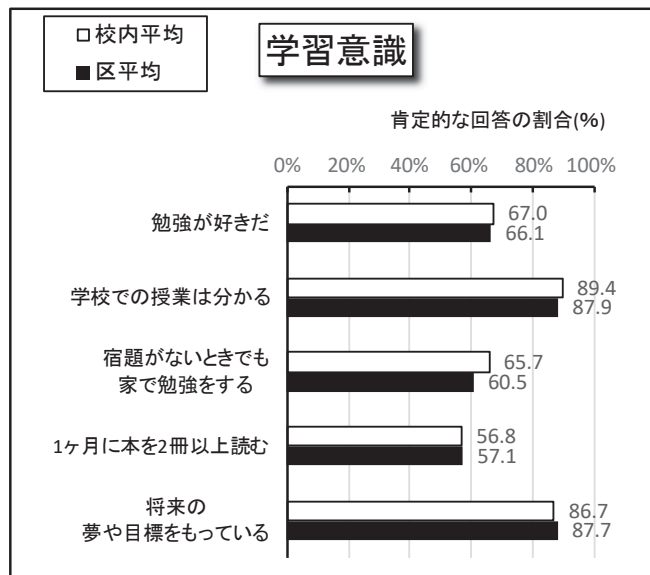
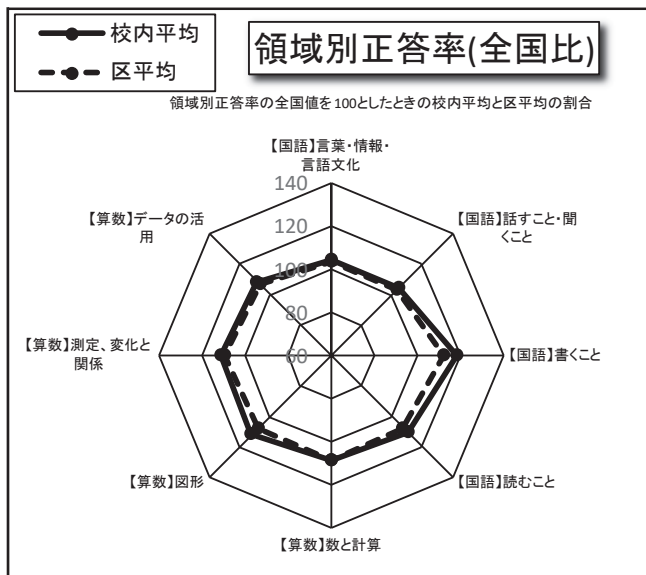
【国語】

- ・授業の振り返りで短作文に取り組み、書いた文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする技能の向上を図る。
- ・読書の時間には、読んだ本の内容の大体を記録させ、構造と内容の把握力向上を図る。

【算数】

- ・新しい単元に取り組む前や導入の段階で、前学年までの系統的学習内容に取り組みさせるなどして、下位の学力層でも知識・理解や学習意欲の向上を図れるようにする。
- ・長さの測定や作図等、具体的操作活動による実感を伴う学習体験によって、問題解決のために必要な情報を選択する学習内容を授業内で取り入れ、知識・技能の向上と共に、学習意欲の向上を図る。
- ・公式等の一般化・形式化された内容を覚えなければならない単元では、授業内で習熟を確かめる問題に取り組みさせ、知識の定着を図る。

梅島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.6	85.6	87.6	95.5	86.9	84.5	88.8	85.7	86.2	82.0	83.5	80.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	82.4	81.8	89.4	92.9	82.5	85.6	88.3	81.9	77.7	67.0	75.3	82.5
平均正答率(R5)	80.9	77.9	89.0	88.8	86.6	85.6	79.4	74.9	78.4	73.4	74.9	71.5
平均正答率(R4)	74.5	77.0	86.6	90.6	81.3	85.4	73.8	77.0	66.5	66.0	69.2	70.9

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

各学年において、平均正答率が国語、算数ともに目標値を10.0ポイント以上、上回った。また、通過率も80%以上となっており、基礎的な学習内容を多くの児童が身につけたと考えられる。学校全体の平均正答率も、両教科ともに昨年度を上回り、学力向上への取り組みが成果を上げていると推察できる。

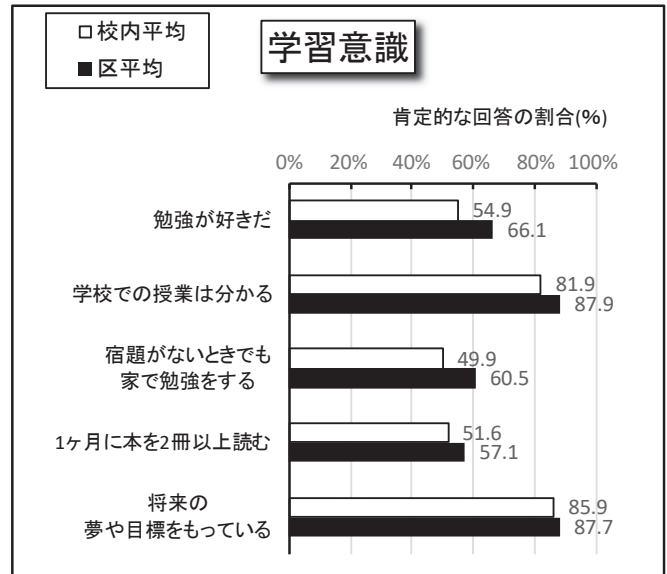
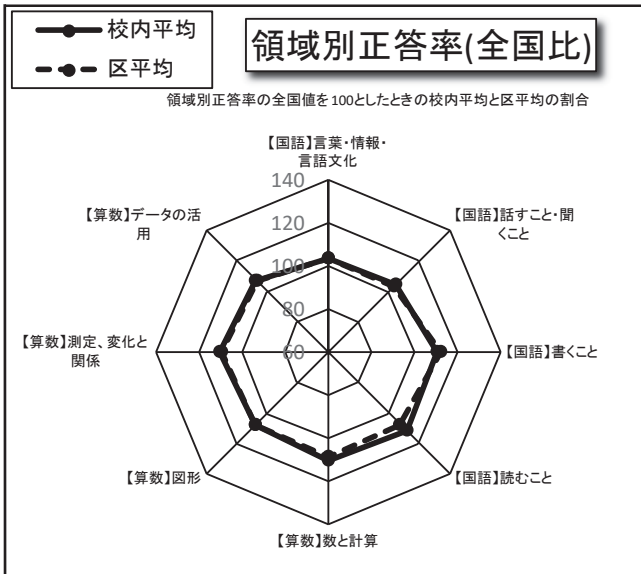
国語の領域において、2年生及び4～6年生の「書くこと」と2～5年生の「読むこと」が全国値より5.0ポイント以上高い結果となった。今後は放課後タイムなどを活用し、「言葉・情報・言語文化」の力を伸ばしていくようにしていく。算数の領域においては、全学年の「図形」が全国値よりも高い結果を示しており、本校児童の得意な領域が明確になった。「数と計算」では、5、6年生のみ高い結果となったが、他学年でも結果が出るように、基礎となる計算力を育成していく。

意識調査の平均スコアは、区平均を上回り、昨年度よりも学習意識を高くもつ児童が増加した。今後も児童がやる気をもち続けていけるよう、指導していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- パワーアップタイムを設け、現学年の漢字・計算などの基礎的・基本的な学習内容の確実な習得を目指して、すべての児童に取り組みさせる。
- 放課後タイム(放課後補習教室)で、現学年及び前学年の学習内容の確実な定着をめざして必要な児童に対して個別指導を行う。
- 家庭学習習慣の定着をめざして、家庭学習週間を設ける。「家庭学習カード」(自己評価カード)を活用して、目標をもたせて取り組ませることにより、習慣化をめざす。
- 足立スタンダードを取り入れた授業を展開し、振り返りの充実を図ったり、区学習定着度調査の分析を生かして、定着度の低い単元は重点的に指導したりする。
- A Iドリルにより習熟を図ったり、デジタル教科書を活用し児童の主体的な学習を支援したりするなど、ICT機器を活用する。
- 小中連携や校内研究を実施し、教科横断的な視点から9年間の学習の連続性を高め、確かな学力の定着を図る指導を行う。

梅島第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.6	85.6	98.0	100.0	81.6	84.2	87.2	84.6	91.7	78.3	80.5	80.5
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	86.3	82.5	86.1	88.9	87.5	85.0	86.2	82.8	88.1	76.2	83.3	80.6
平均正答率(R5)	81.2	77.9	91.8	91.2	84.0	83.3	78.9	75.7	81.9	73.3	70.5	69.1
平均正答率(R4)	75.3	77.6	84.9	88.8	81.9	86.1	75.2	77.7	67.0	69.9	71.4	69.5

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

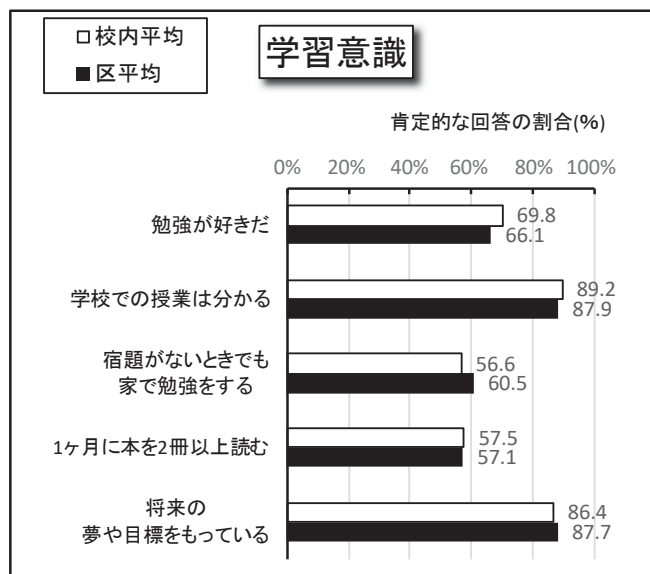
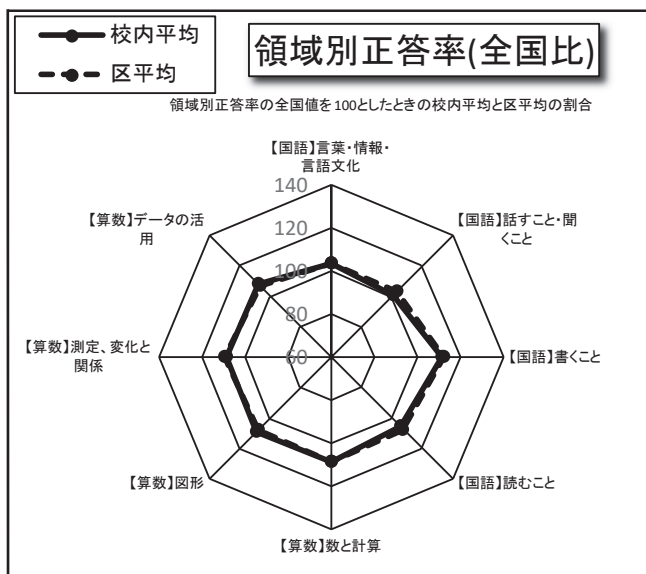
「学習定着度調査」分析結果

- 本校の領域別正答率は、全領域で区平均と同程度の数値であるが、国語の「読むこと」では区平均を上回っている。
- 通過率を学校全体で見ると、国語・算数いずれも昨年度より上昇している。学年別で見ると、3年生と6年生の国語・算数を除いて、令和4年度よりも通過率は上がっている。同児童比較では、3・4年生は国語・算数ともに下がっている。5・6年生は一方の教科が上がっていて、もう一方の教科が下がっている。
- 学習意識は、全項目で区の平均を下回っている。特に「勉強が好きだ」では、11.2ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」は10.6ポイントと大きく下回っており、家庭の協力体制を含めた学習意欲の向上策が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 教員の授業力向上
児童が「わかる」「できた」を実感できる授業の実践。校内全体で授業力向上に取り組み、互いの授業を見合う環境を整える。また、6年目までの教員は教科指導専門員による授業観察及び事後指導を通し授業力向上を図る。
- ICT機器を活用し、児童の学習意欲を高める
各教科でICT機器を効果的に活用し、授業改善を図る。児童が主体的に学習に取り組み、表現する楽しさが味わえるようにしていく。
- 読書活動の推進、言葉の力をつける
図書ボランティアや教員による読み聞かせ、読書記録カード等を活用し、本の好きな児童を育てる。
- A Iドリルを活用し、個に応じた指導の充実を図る
授業内や家庭学習等で活用し、各教科の学習内容の習熟を図る。また、放課後補習や長期休業中の補充教室で個別指導を充実させる。

梅島第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.5	85.7	87.8	91.8	91.7	89.6	87.5	89.6	92.0	78.0	73.5	79.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	82.9	82.9	83.7	97.7	86.7	86.7	88.9	88.9	79.6	71.4	76.1	71.7
平均正答率(R5)	78.8	77.0	88.5	87.2	89.6	87.5	74.0	79.2	76.7	69.2	69.2	66.6
平均正答率(R4)	73.2	76.8	86.0	93.2	80.3	85.7	73.4	78.4	66.5	70.0	65.3	63.3

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

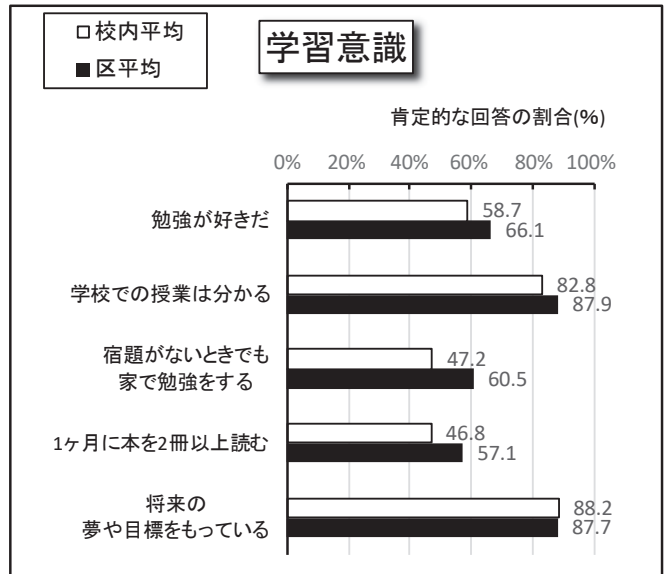
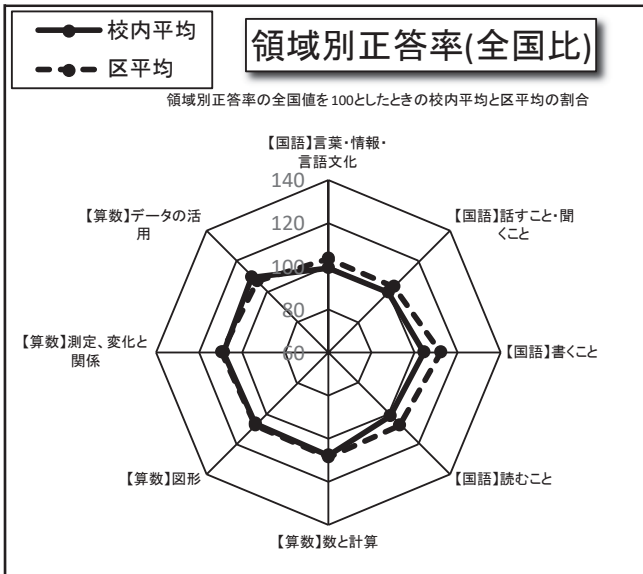
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、昨年度に引き続き80%を超えた。今年度は、国語で3.6ポイント、算数で2.8ポイントの伸びが見られた。国語においては2～5年生の通過率が80%を超え、2つの学年で90%を超えた。課題であった5・6年生の国語科の通過率の伸びが5年生で12.4ポイントと大きかった。昨年度の校内研究や学力向上の取り組みの成果だと考える。しかし、経年変化では伸びているものの、同学年比較では下がっている学年・教科もあり課題である。
- ・領域別正答率はレーダーチャートより、ほぼ100を超えている。全体的に正答率が上向きの傾向である。国語科も算数科もほぼ区平均と同等または上回っている。今後も引き続き学力向上に向けた取り組みを行っていく。
- ・学習意識の結果も肯定的な回答が多く、区平均を超えてきている。特に、「勉強が好きだ」の回答では、区平均を上回った。また「学校での授業は分かる」の回答でも区平均を上回り9割近い児童が肯定的な回答をしている。足立スタンダードの学習の推進、日常の授業の工夫の改善の取り組みの成果と考える。日常の授業の中では、自分の力で読むなど、自力でチャレンジする意識付けを心がけたり、スモールステップで児童に「できる」を実感させ、教員が褒める機会をたくさん作ったりしたことが成果につながっていると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・国語科では校内研で「言語能力の活用」を通し、知識を身につけさせる指導法を研究する。
- ・文字列を「語」として捉える、3分間視写、国語辞典の活用、「読み取る力」を身に付けさせる「αドリル」等に取り組む。
- ・低学年でMIM等を通し、文字の記号を意味言葉として捉えさせる指導を徹底する。
- ・算数科では、既習事項を活用させるために、掲示物を工夫する。
- ・自分で問いを見つけて、必要な情報を読み解く。アンダーラインを引き、立式へつなげる。
- ・答えを導き出す過程を説明する機会を設ける。話型を用い、順序立て説明する力をつける。
- ・家庭学習がんばろう週間を設定し、家庭と協力をして学年×10分の学習時間を定着させる。
- ・全学年で「自主学習」の取り組みを行う。自分の興味関心のある学習をすすんで行き、学び方や主体的に学ぶ力を身につけさせ、学ぶ楽しさを実感させる。

桜花小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	77.1	83.7	85.1	97.9	81.0	91.4	78.2	78.2	75.6	80.0	66.0	71.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	77.3	84.3	79.6	87.8	72.5	88.2	83.7	83.7	74.0	72.0	77.6	89.8
平均正答率(R5)	75.3	76.5	89.5	93.3	85.1	85.9	69.6	73.9	70.9	69.8	65.8	64.6
平均正答率(R4)	71.6	76.7	83.4	89.4	78.0	85.7	72.8	75.6	61.3	66.7	66.8	69.5

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

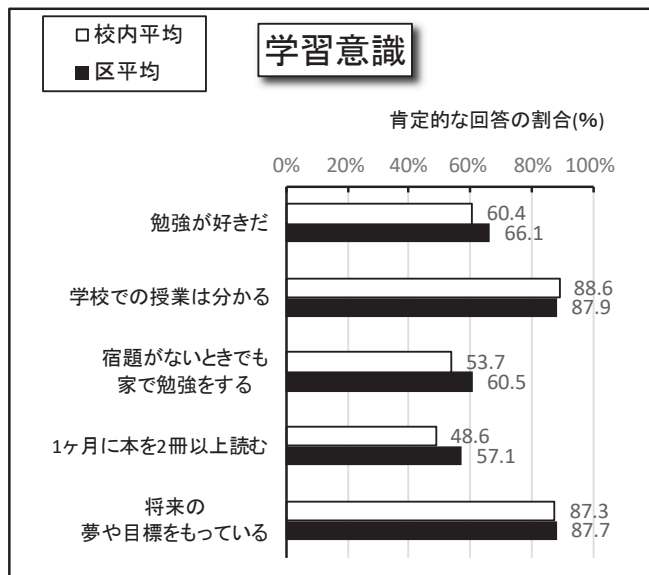
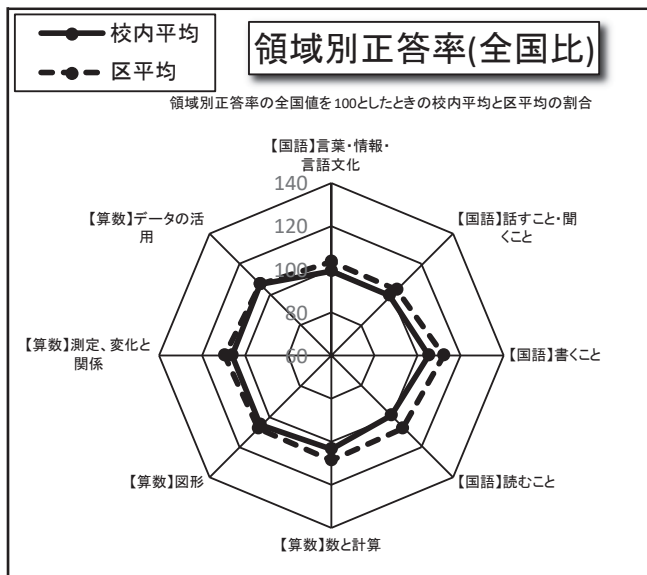
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は対前年度比で国語は0.2ポイント、算数は0.6ポイント下回った。また、学校全体の正答率は対前年度比で国語は3.7ポイント上回り、算数は0.2ポイント下回った。
- 学校全体の領域別正答率をみると、国語の「言葉・情報・言語文化」「書くこと」「読むこと」の領域に本校の課題がある。算数は全ての領域で全国平均をおおむね上回っている。
- 学習意識調査では、「勉強が好きだ」が区平均より7.4ポイント、「学校での授業がわかる」が区平均より5.1ポイント、それぞれ下回っているので、学校全体の授業の課題と考えられる。また、「宿題がないときでも家で勉強をする」は13.3ポイント「1ヶ月に本を2冊以上読む」は10.3ポイント、それぞれ区平均より下回っているので、課題があると考えられる。
- 学年別の課題として、4年生の国語の通過率が対前年度比で5.5ポイント、算数の通過率が対前年度比で5.5ポイント、それぞれ下回っている。また、6年生の国語の通過率が対前年度比で11.6ポイント、算数の通過率が対前年度比で18.1ポイント、それぞれ下回っている。以上のことから4年生と6年生に課題があると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 算数科では、領域全体の底上げを目指し、週3回(昨年度は週2回)の放課後学習を実施し、AIドリルや学校独自のプリントを活用している。
- 国語全体の力を支えるために、読書習慣の充実を目指している。1・2年生は1ヶ月5冊、3・4年生は1ヶ月3冊、5・6年生は1ヶ月2冊の読了を推進し、8割の児童が達成するように取り組んでいる。
- 国語科の「読むこと」を支える取り組みとして、「読解力の向上」を目的とした問題集、および「20文字程度の短文を理解する」ことを目的とした問題集を、朝学習や余剰時間に実施する。
- 週1時間、児童が主体的に活動できる時間として「クラスタイム」を実施して、各教科の課題を各自が見直す時間を確保している。

扇小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	76.7	77.9	81.8	93.2	79.1	80.6	86.0	90.0	70.2	66.0	66.0	60.0
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	75.7	82.6	79.7	90.6	94.1	92.2	66.0	78.7	69.2	65.4	66.7	84.4
平均正答率(R5)	75.6	74.8	86.7	89.5	84.2	83.2	79.5	79.6	65.9	65.7	64.5	59.6
平均正答率(R4)	71.3	77.3	83.2	90.6	85.2	90.0	65.7	73.6	60.2	63.4	63.0	69.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は76.7%で前年度よりも1ポイント上昇している。平均正答率は4.3ポイント上昇している。各学年で課題はそれぞれ違う。観点別で見ると、平均正答率が区平均値よりも15ポイント以上低い学年がある「読む力」が重点課題となる。

【算数】学校全体の通過率は77.9%で前年度よりも4.7ポイント下降している。また、平均正答率も2.5ポイント下降している。単元別に見ると課題は「数と計算」にあり、最大で11.9ポイント低い学年がある。また、この観点が高い学年は教科総合でも区平均より5ポイント近く低くなっている。

【学習意識】「学校での授業は分かる」が前年度より0.8ポイント上昇して、区平均値を少し上回った。しかし「勉強が好きだ」の項目では前年度より6.5ポイント下降している。児童が「わかる」「できた」を実感できる授業に努めてきたが、学習意欲を高めるには至っていない。また、「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目で前年度より10ポイント下降している。週1回の朝読書や年2回の読書旬間の取り組みを見直し改善しながら、読書好きの児童を増やしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

【学力調査結果等の分析に基づく補習及び授業改善】

- ・区学力調査の結果や国語・算数の各単元のテスト結果をSP表等を用いて分析し、課題のある学習内容を明確にする。課題のある児童を絞り込み、現在学習している内容についての補習(A補習)、既習事項についての補習(B補習)を並行して実施、基礎基本の定着を図る。

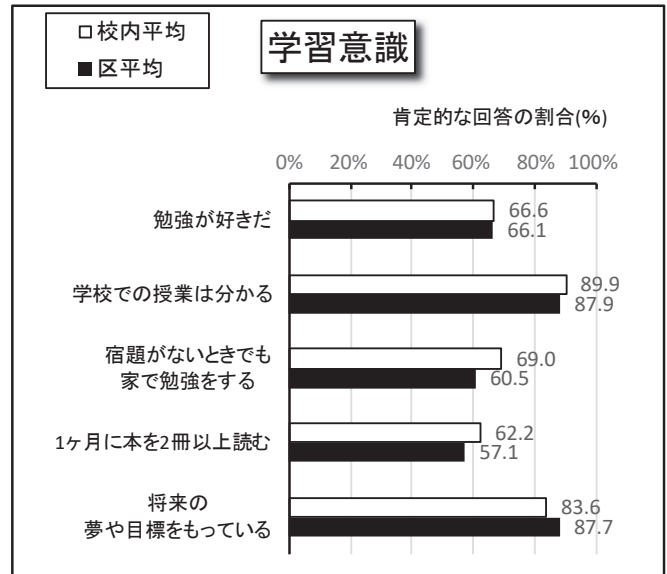
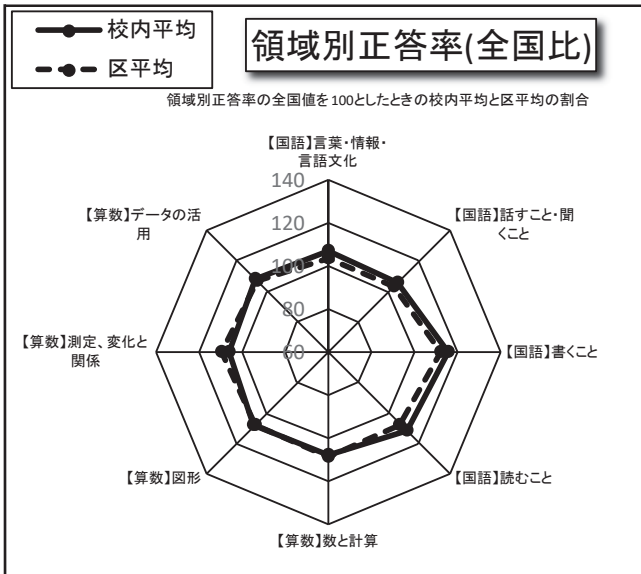
【教員の授業力向上】

- ・生活に関連する事象や身近な話題を取り入れるなど、児童の学習意欲を高められる授業の導入を工夫し、「できた」「わかる」を実感できる授業も実践する。校内全体でそのような授業に取り組むため、互いの授業を見合うなど授業改善のための環境を整える。また、9年目までの教員は教科指導専門員による授業観察及び事後指導を通し授業力向上を図る。

【読書活動の推進、言葉の力をつける】

- ・図書ボランティアや教員による読み聞かせ、読書記録カード等を活用することで、本に関わる機会を増やし本好きな児童を育てる。

大谷田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	89.4	83.2	94.4	96.3	92.0	88.0	88.7	84.9	86.8	73.7	84.0	69.4
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	88.2	84.8	94.2	92.3	89.1	89.1	86.8	86.8	82.6	74.5	86.8	78.9
平均正答率(R5)	82.6	77.6	92.1	90.3	90.3	85.4	79.5	77.8	79.5	68.0	73.6	67.3
平均正答率(R4)	78.2	80.2	90.9	92.5	83.3	87.6	77.9	81.1	68.5	73.9	70.9	65.2

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

(国語)

- 漢字の読みの正答率は97%と昨年度より7ポイント上がった。
- 「聞くこと」は、2～3年生は正答率が90%を超えている。4年生は、5ポイント下がったが、高学年は、80%以上になった。
- 「書くこと」は、昨年度と比べ65%の正答率で15ポイント上がった。特に記述問題の正答率はA層(上位層)は90%の正答率であるのに対し、D層(下位層)は20%以下の学年が多い。

(算数)

- 四則計算の正答率は昨年度と比べ13ポイント下がった。
- 区平均と比べると図形の正答率は0.34ポイント高いが他の領域と比べると低い。測定の正答率が区平均と比べると1.08ポイント低いいため、単位変換の定着が必要である。
- 単位量当たりの大きさは区平均と比べ、2.8ポイント低い。小数や分数のかけ算、わり算を学習する際に立式の習熟を図る必要がある。
- 表やグラフは区平均より1.9ポイント高い。

学校による学力向上への主な取り組み

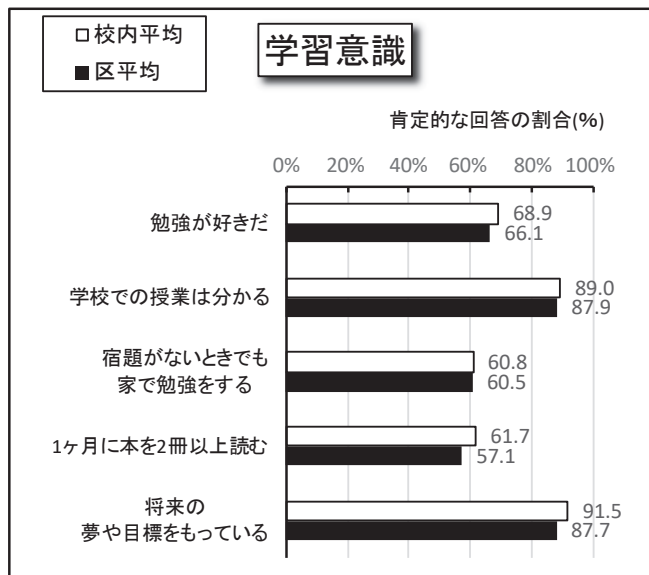
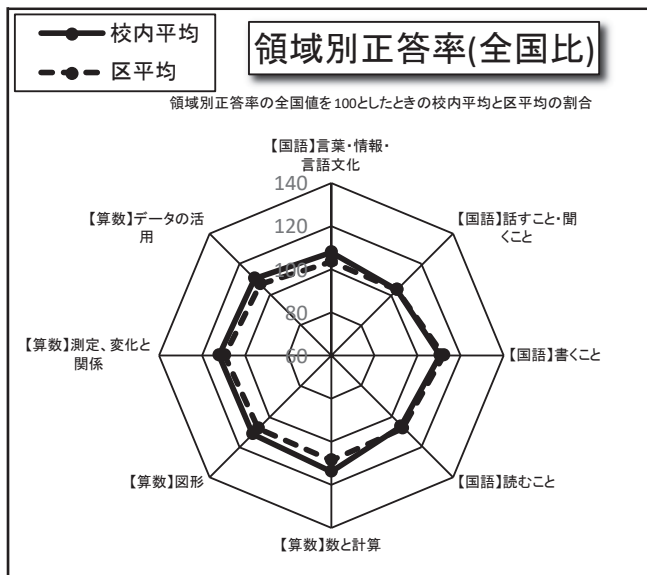
(児童への支援)

- 授業内でICT端末を活用する。
- 校内研究を行い、全教員で課題の分析を行い授業に活かす。
- 東京ベーシックドリルで定着度を確認し、A Iドリルで補充する。
- 低学年でM I M指導を行う。
- 3、4年生を対象にそだち指導を行う。
- 学級文庫を設置し、記録用個別カードを活用して進んで読書をする環境作りをする。

(家庭、地域との連携)

- 家庭学習の習慣(15分×学年)が定着するように家庭学習カードを活用する。
- 図書館支援員の活用と図書ボランティアの協力。

興本小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.6	90.1	83.1	93.2	96.7	98.4	92.5	88.1	85.0	88.3	80.6	83.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.6	87.5	94.9	100.0	95.2	93.7	89.8	89.8	77.9	82.4	72.9	74.3
平均正答率(R5)	80.8	80.2	87.0	90.5	90.4	90.2	79.4	78.3	77.8	75.5	73.6	71.7
平均正答率(R4)	74.4	78.5	89.0	93.4	83.7	89.2	74.4	82.0	67.9	72.8	64.6	63.6

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

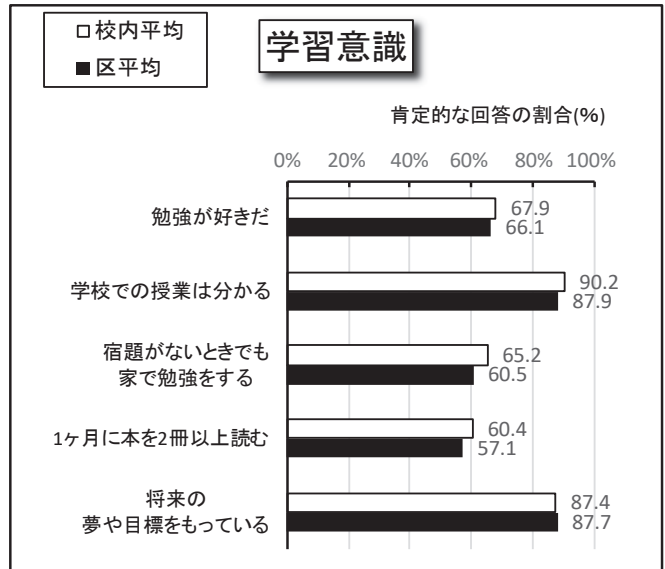
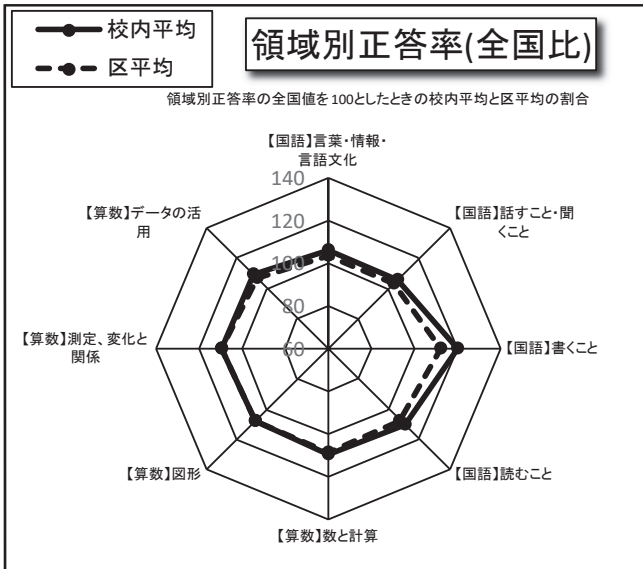
「学習定着度調査」分析結果

- 本校正答率は、区平均正答率を概ね上回った。2年生の算数は1.2ポイント、3年生の国語は3.7ポイント、算数は4.4ポイント、5年生の国語は2.6ポイント、算数は4.8ポイント、6年生の国語は1.8ポイント、算数は3.9ポイント区の平均よりも高かった。SP表により分析した一人ひとりのつまづきを明らかにして継続的に指導したことが学習の定着に結び付いたと考える。
- 学習意識については、「勉強が好きだ」「1ヶ月に本を2冊以上読む」で、区平均を上回り、学習への興味関心の高まりが見られた。「宿題がないときでも家で勉強をする」については、区平均とほぼ等しかった。教員一人ひとりが教材研究を充実させたことや、ICT機器を有効に活用したことが、学習意欲の向上や学力の向上につながったと考える。
- 2年生の国語の正答率は、区平均より1.2ポイント低かった。今後は、一人ひとりの課題を明確にして、個に応じた個別学習を充実させることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 小中連携研究の中でICTを活用した授業研究を年に4回実施し、系統的な指導を通して主体的に学習する児童を育成する。
- 国語の授業では、読みの指導に重点を置き、教科書の文章を正確に読み取る力を付ける。「興本扇の45冊」を選定するとともに、読書旬間を年に2回設定し、また中学生による読み聞かせにより本に親しむ習慣をつける。算数では自分の考えを表現する活動を多く取り入れる。
- 放課後補充教室を継続し、週に4回放課後の20分間、全教員が個別指導に当たっている。
- 小中一貫教育校の特色を生かして、1年生から4年生までは「0タイム」で中学生に年間6回の丸付けをしてもらい学習意欲を高める。5・6年生は放課後補充教室で中学生から分からないところを教えてもらう交流学习で継続的な取り組みをする。
- 「パワーアップタイム」で1年生から6年生まで、朝の10分間で音読・漢字・計算などに取り組む。

加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.1	86.0	89.7	96.9	82.3	75.0	92.9	86.9	87.6	83.5	87.7	87.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	87.0	87.7	78.2	87.5	88.3	92.6	89.9	88.9	89.7	83.5	88.8	85.0
平均正答率(R5)	82.1	78.3	90.8	91.6	84.8	79.4	81.8	75.9	78.4	71.6	76.3	74.7
平均正答率(R4)	77.9	80.0	83.5	90.0	83.1	89.1	77.6	78.0	73.5	74.0	72.9	71.0

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

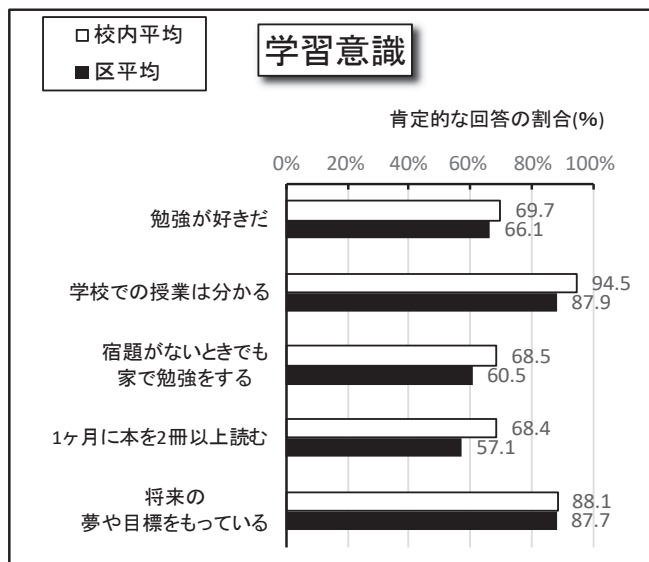
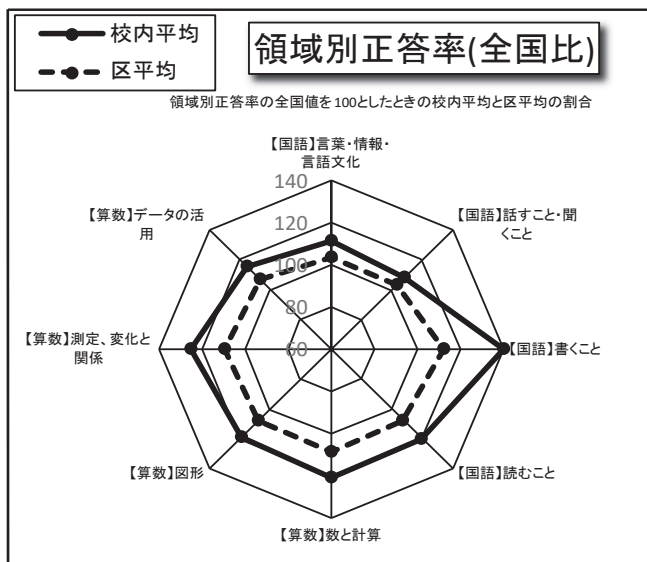
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率では、令和4年度と比較すると、国語は4.2ポイント上回り、算数は1.7ポイント下回った。学校全体の通過率では、国語、算数とも年度当初に目標とした通過率80%以上を達成した。
- 国語の領域別正答率では、3年生が全ての領域で区の平均を下回った。説明文の指導において、各段落に書かれていることを押さえたり要約したりする活動を丁寧に行う。また、ノート指導を徹底し、自分の考えや振り返りの書き方を指導し、定着を上げる。他学年でも授業で自分の考えを表現する機会を多く設けたり宿題で作文や日記を出したりしていく。
- 算数の領域別正答率では、区の平均を下回った領域は、3年生が全ての領域で、4年生が「数と計算」「図形」「測定」であった。筆算の仕方や単位の表し方について重点的に取り組む。また、文章問題では線分図に表して考えたり、立体図形の指導では、具体物やICT機器を操作して体験的理解につなげたりして授業を進める。
- 学習意識では、「将来の夢や目標をもっている」の項目が区の平均を0.3ポイント下回った。キャリア教育と合わせて学習とのつながりを意識させて向上をめざす。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習では、国語の基礎・基本の力をつける学習を中心として、1年生はMIM、2年生以上は漢字練習を計画的に実施している。
- ・読書タイムを昼休み後10分間実施し、本に親しむ時間と読書量を増やしている。
- ・放課後補充指導のほか、全教職員で指導にあたるパワーアップタイムを週に1回、低学年は40分間、高学年は30分間実施している。区学力調査の目標値を未通過している児童を中心に、つまづきを補充する個に応じた指導を行い、基礎学力の定着を図っている。
- ・家庭学習を低学年20分以上、中学年40分以上、高学年60分以上としている。宿題では全学年共通課題で漢字練習、計算練習、音読や適宜AIドリルを活用して毎日取り組ませている。
- ・中学年を中心に学習の初めに既習事項のおさえや復習問題に取り組み、授業を進めている。
- ・年3回以上授業公開をし、年6回以上授業を各教員が参観をして言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する授業展開の工夫を行い、授業力の向上をめざしている。

亀田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	95.4	95.2	100.0	96.9	98.9	100.0	96.7	97.5	94.6	96.4	89.4	88.0
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	93.5	93.9	94.6	100.0	100.0	99.2	96.3	94.4	91.0	90.3	88.3	89.6
平均正答率(R5)	86.2	85.5	94.8	93.8	95.0	93.5	85.4	86.6	82.7	82.4	80.4	78.4
平均正答率(R4)	80.3	84.5	91.9	96.9	87.8	94.0	79.6	84.8	75.3	80.8	75.3	76.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

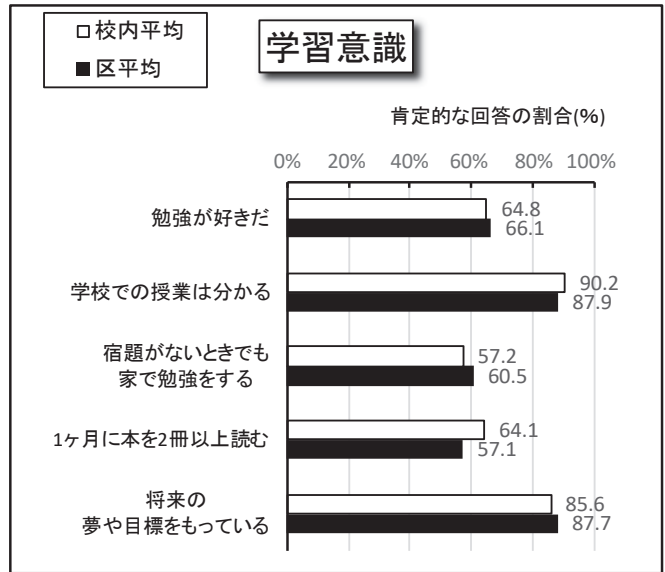
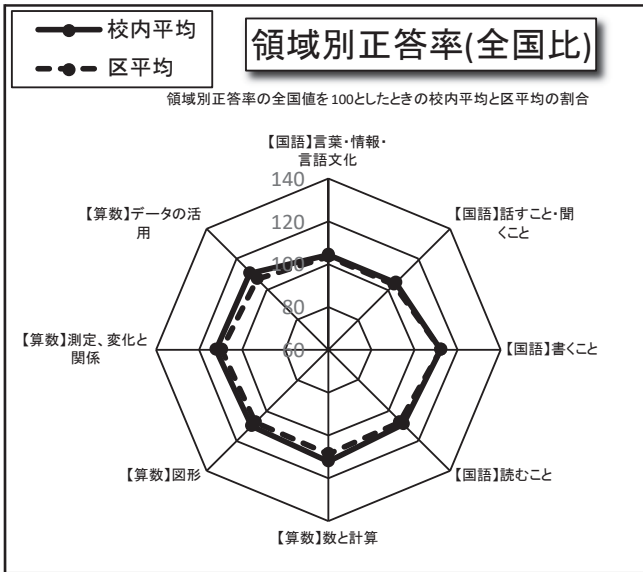
「学習定着度調査」分析結果

- 過去の結果と比較すると、全体の平均正答率・通過率のポイントが高くなっている。授業改善、パワーアップタイム、放課後補充教室、ステップ学習の取り組みの成果が表れている。
- 高学年の学びに対する意識が高い。自主学習や課題解決学習に多く取り組んでいる成果が表れている。
- 算数より国語の方が平均正答率が高い傾向にある。昨年度、国語の読解力に重点を置いて指導してきた成果が確実に表れている。引き続き、低学年では、短い文章を初見で正確に音読できるように練習に取り組んでいく。
- 高学年になるにつれて国語の記述式問題の未記入が多い傾向がある。問題で問われていることを的確に読み取る力、キーになる言葉やセンテンスを見つけられる力を育成していく。
- 算数は、活用力を高める必要がある。文章問題の題意を的確に捉えられるよう、数字に印を付けたり、キーとなる言葉に線を引いたりする技能を定着させる。発展的な問題に取り組ませ、活用力を高められるようにする。

学校による学力向上への主な取り組み

- 週1回の放課後補充教室の取り組み(管理職含む教職員全員で取り組んでいる。)
 - ・前学年までの学習内容の定着が十分でない児童が対象。
- 週2回、始業前の時間を使ったパワーアップタイムの取り組み
 - ・A Iドリルの活用(家庭学習でもA Iドリルを活用できるように授業内でも活用している)
 - ・初見音読や、短い文章の読解問題、新聞コラムなど読解力を向上させるための取り組み。
- ステップ学習の取り組み(管理職含む教職員全員で取り組んでいる。)
 - ・スキルの内容ではなく、発展的な学習に取り組ませる。
 - ・区学力調査の結果を基に、学年ごとに指導重点課題を分析し、学習材を選定する。習熟度別に指導を行い、当該学年の学習内容の定着率を高められるようにする。
- 全員が目標値を通過できるように全教職員が共通意識をもって日々の授業に取り組んでいる。
- 読書時間の確保(年2回、読書旬間を設置し、読書習慣を定着させる。)
 - ・図書館を利用した調べ学習を推進していく。

北三谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.4	86.5	87.5	96.9	93.6	91.5	90.3	93.5	85.4	68.3	82.1	85.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	88.3	89.7	93.8	100.0	93.8	93.8	82.5	85.0	85.2	75.9	87.8	95.9
平均正答率(R5)	79.3	79.0	89.8	90.6	87.3	86.8	81.1	80.9	74.0	69.8	72.2	74.0
平均正答率(R4)	76.5	81.3	89.1	95.2	85.4	90.9	72.0	78.7	69.1	71.8	73.2	77.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は0.9ポイント下がったが、平均正答率は2.8ポイント上がった。領域別では、「書くこと」のみ区平均を下回っており、「応用」と「記述式の設問」について課題がある。

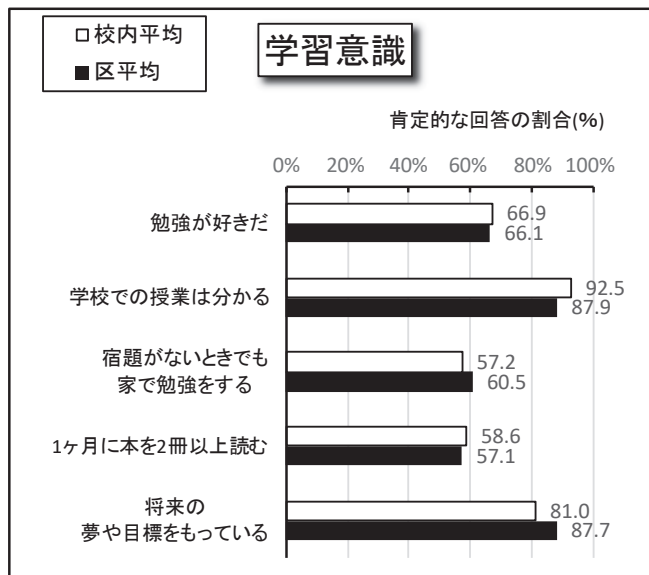
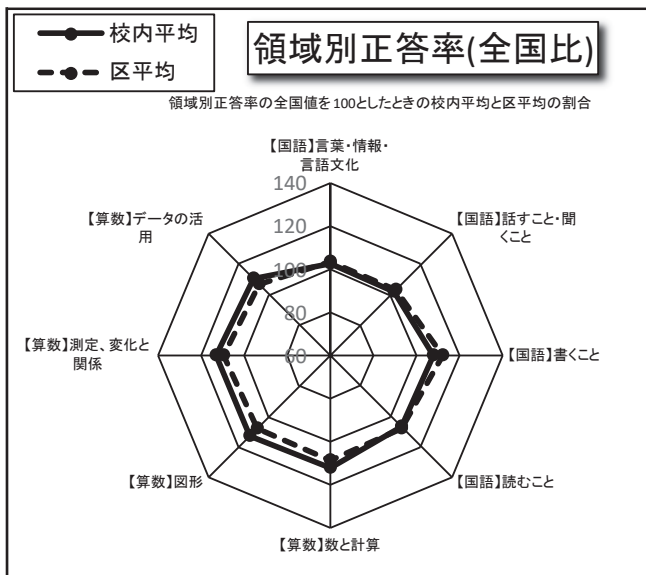
【算数】学校全体の通過率は昨年度より3.2ポイント、平均正答率は2.3ポイント下がった。領域別では4項目とも区平均を上回っているが、「測定」領域は、平均正答率が他より低いことから、既習事項の定着が不十分な児童のフォローアップを徹底していく。

【学習意識】「1ヶ月に本を2冊以上読む」は区平均を7.0ポイント上回る一方で、「勉強が好きだ」「宿題がないときでも家で勉強をする」「将来の夢や目標をもっている」は区平均を下回った。特に、「勉強が好きだ」は、昨年度から学校全体で4.9ポイント下がっており、児童の学ぶ意欲を高められる授業改善に努める必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 各学力調査等の結果を分析し、全体的な傾向や個々の状況の把握に努め、定着の十分でない学習内容を明確にし、パワーアップタイム(週2、3回朝15分間)を計画的に実施する。
- 管理職による授業観察、教科指導専門員制度の活用を通して、「北三谷スタンダード」に基づく授業の共通実践を徹底する。
- 東京ベーシック・ドリルを年3回実施・分析し、算数の計算スキルの確実な定着を図る。
- 日常的な放課後補習と個人面談期間の放課後を活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- 3・4年生では、「そだち指導」を効果的に活用し、担当指導教員との連携を図りながら個別指導を徹底し、つまずきの改善を図る。
- 1年生では、多層指導モデル(MIM)に基づく特殊音節の指導とアセスメントの確実な実施を通して、「流暢な読み」の確実な定着を図る。
- 年間2回、家庭学習強化週間を設定し、家庭と連携を図りながら家庭学習の習慣化を図る。
- A Iドリルを授業内や家庭学習等で活用し、各教科の学習内容の習熟を図る。
- 読書活動の推進として、各学年の目標数値の設定、年3回の読書旬間、本の紹介活動に取り組む。

栗島小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.7	88.8	83.3	94.4	87.5	91.7	83.0	90.6	82.5	84.2	82.1	84.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	82.7	83.8	71.7	89.1	90.6	81.3	83.9	89.3	81.0	81.0	82.8	79.3
平均正答率(R5)	78.5	79.7	87.6	91.7	87.8	88.0	77.6	78.9	73.5	73.0	70.7	73.0
平均正答率(R4)	75.7	77.7	83.2	89.2	83.7	84.5	75.3	79.5	69.4	73.9	68.7	66.0

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○区平均との差についての分析

区平均正答率と校内平均正答率を比べると、区平均と同レベル程度であるものの国語がやや低い。今後は国語の読む力の向上を目指し、下位層への個別指導と授業力の向上に努める。

○自校の課題となる点・伸ばしていきたい点

昨年度に比べ、算数の通過率が上がっている。しかし、5年生は同一学年で見ると昨年度よりも通過率が低く、前学年の学習内容の理解が十分でないことが伺える。学習意識では、自主学習の意欲が低いことが課題である。授業の中で子どもの学びたい、知りたいという気持ちを引き出し、家庭と相談・連携するなど、宿題以外の学習にも自主的に取り組めるようにする。

○令和4年度の取り組みからの改善点

放課後学習の内容の見直しと改善、算数の授業における掲示カード、学習や板書の流れの統一を全学級が徹底している。また、併せて、東京ベーシックドリルや詩文の暗唱テストなどを活用して学力の向上を目指している。

学校による学力向上への主な取り組み

○【朝学習・昼学習の充実】

朝学習では「東京ベーシックドリル」(算数科)や漢字学習、詩の暗唱を通し、学力向上の充実を図る。また、昼学習では「昼読書」や「百人一首」を行い、語彙力の向上を図る。

○【放課後補習の充実】

2～6年生の対象児童へ、毎週火曜日に30分間放課後学習教室を行う。学習のつまずきを解消する為、ICTを活用するなど、国語と算数の復習を基本に学力定着の基盤をつくる。

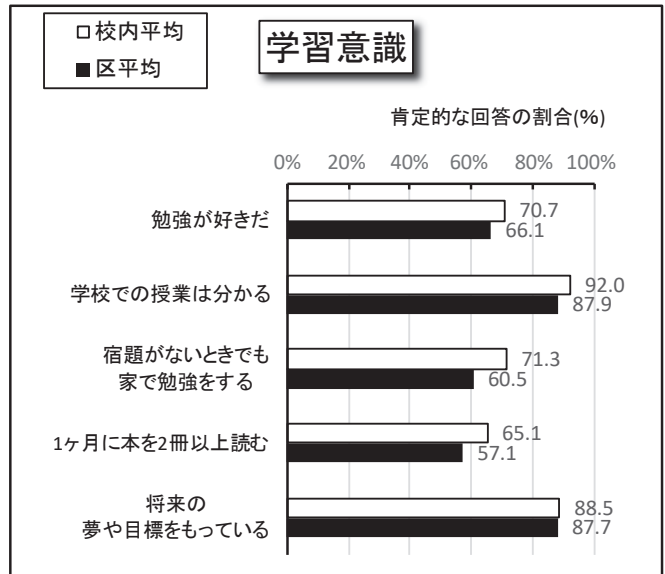
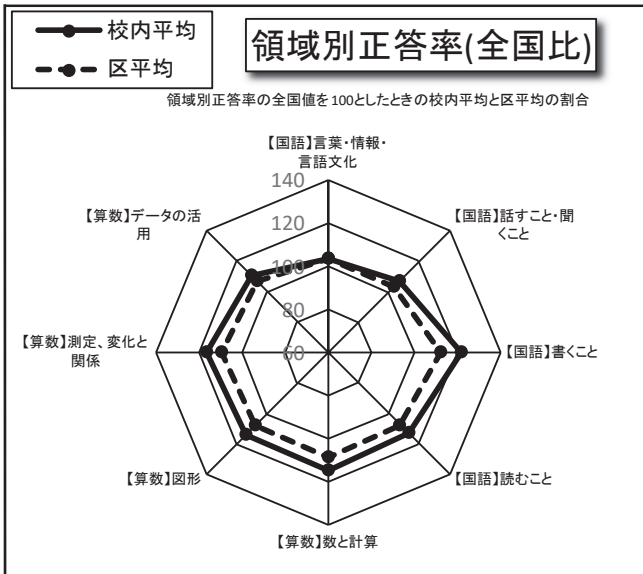
○【習熟度別指導、個別学習の充実】

1年生からの算数習熟度別指導の実施、2～4年生対象の個別指導・そだち指導などを行い、個々のつまずきを把握し、高学年に向けて苦手意識を軽減させるよう早期解消を図る。

○【家庭への啓発】

「よくわかる栗島小学校」を各家庭に配付し、家庭への啓発をしている。また、子どもたちには、規則正しい生活と家庭学習の習慣が身につくよう指導を行っている。

栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.6	89.9	93.1	100.0	85.7	85.7	81.7	86.9	89.3	82.1	88.6	95.5
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.3	84.1	92.3	92.3	82.0	83.6	88.5	80.8	81.3	77.1	86.2	89.2
平均正答率(R5)	82.1	82.2	92.8	95.0	85.8	84.4	78.5	78.5	79.5	77.2	75.3	77.6
平均正答率(R4)	76.4	79.6	87.9	93.3	81.2	86.7	77.2	77.9	69.3	73.7	73.7	75.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

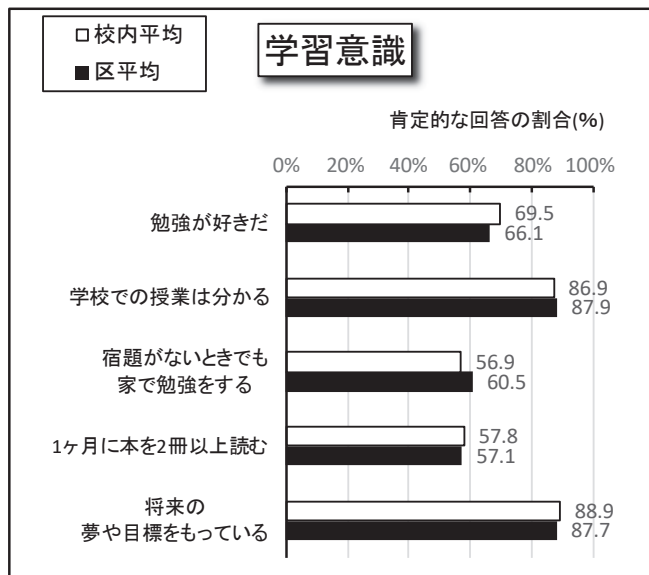
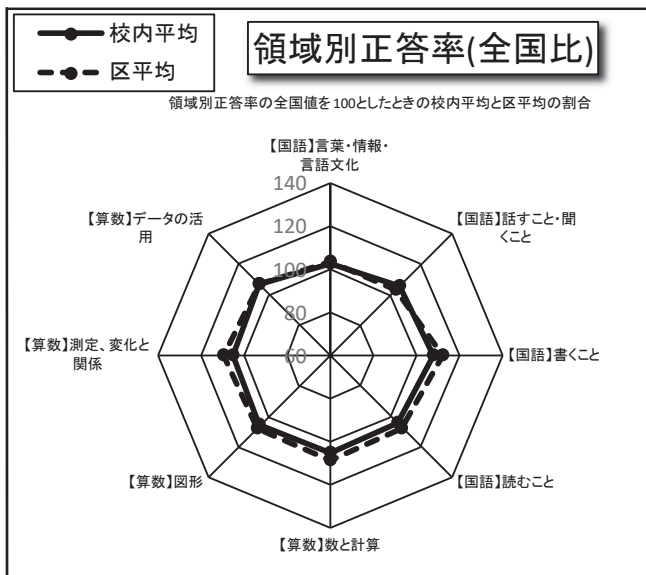
「学習定着度調査」分析結果

- ・本校の領域別正答率は、全領域で区平均を上回っているが、概ね同程度の数値が多い。
- ・学習意識も全項目で区の値を上回っている。特に家庭学習については、10.8ポイント上回っており、家庭の協力体制が整っていることが考えられる。なお、将来の夢や目標を持っている児童の割合は、区平均を0.8ポイント上回るに留まった。(昨年度は6.6ポイント上回っていた。)
- ・学校全体の通過率は、算数・国語ともに昨年度を上回った。学年ごとに見ても、4年生国語を除く、全ての学年・科目が前年度を上回った。
- ・学校全体の平均正答率も、昨年度を上回った。学年ごとに見ても、3年生算数を除く、全ての学年・科目が昨年度を上回った。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・放課後学習教室を計画的に行い、つまずきを早期解消するための補充学習に取り組む。その際、区調査やてんまるのデータを分析し、個に応じた内容で学習していけるようにする。
- ・基礎学力の定着をねらいとして、パワーアップタイムで毎週百マス計算を行う。また、百マス計算大会を年6回実施し、算数に対する興味・関心、学習に必要な集中力を高める。
- ・ICT教育をより一層推進し、児童にとって分かりやすい授業を行う。さらに、その実践を校内で共有し、どの教員も実践できるようにする。
- ・AIドリルを活用し、児童の個別最適な学びや、つまずきへの早期対応を実現する。
- ・読む力を向上させるために、本を読む時間の確保や、環境の整備を行い、読書活動を充実させる。また、意識向上のため、学年ごとに一年間の目標冊数を設定する。

栗原北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.3	78.3	86.5	94.2	74.4	72.1	89.3	88.0	90.2	67.2	82.4	69.1
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.6	83.8	84.1	86.4	84.0	88.0	87.1	87.1	76.6	73.4	77.6	84.2
平均正答率(R5)	78.5	74.8	89.5	89.6	80.5	80.2	79.8	77.4	75.9	68.7	72.4	65.8
平均正答率(R4)	73.2	76.3	83.3	88.2	79.8	85.7	73.7	80.3	67.4	68.5	67.9	67.1

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

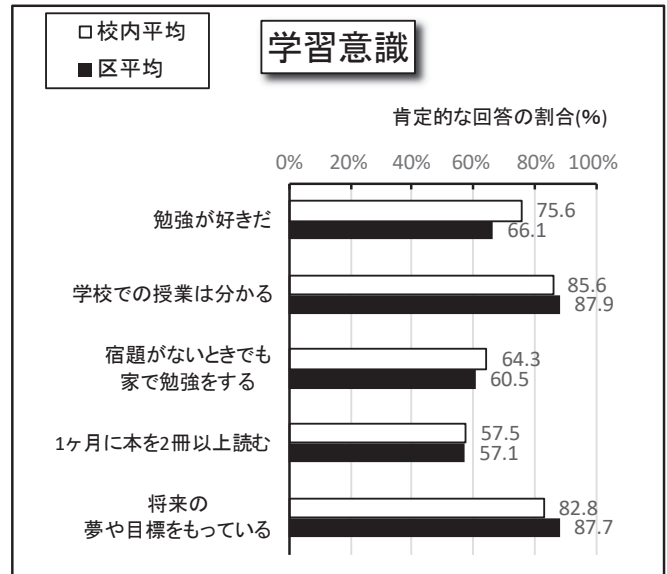
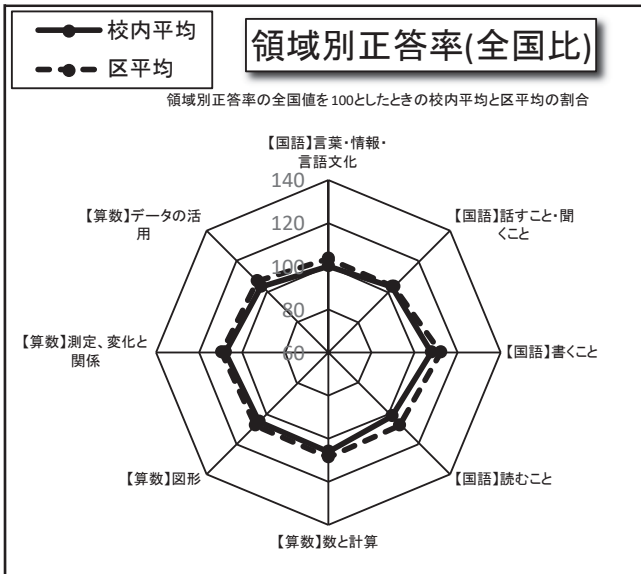
「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体では、国語の平均正答率・通過率ともに前年度より上がった。しかし、算数においては、平均正答率・通過率ともに前年度より下がった。
- ・国語を学年別に見ると、3年生を除くすべての学年の通過率が前年度を上回っており、特に、5年生は90%以上の児童が目標値を上回った。また、国語の平均正答率は、どの学年でも前年度を上回っている。
- ・算数については、2年生の通過率が前年度より7ポイント以上上回った。平均正答率は3・4・6年生が前年度を下回った。
- ・意識調査で「勉強が好きだ」に肯定的な回答をした児童の割合は区平均を上回っている。しかし、「宿題がないときでも家で勉強をする」に肯定的な回答をした児童の割合は区平均を下回っている。自分からすすんで学習しようとする動機づけが課題である。
- ・領域別正答率では区平均を下回っている領域が多く、国語・算数ともに自分の考えを表現することが苦手である児童が多い。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・足立スタンダードを全教員が実施する。「めあて」の提示や「ふりかえり」を確実にして、児童が主体的に学習できるよう授業改善を図る。
- ・週に2回放課後学習の時間を設定している。学力定着度調査の結果をもとに児童個々のつまづきを把握して、そのつまづきにに応じた内容で補習を行っている。
- ・AIドリルを活用して、児童一人ひとりに応じた内容で自主的に学習できるように取り組んでいる。
- ・週2回朝学習の時間を15分確保して、国語や算数の基礎的な内容の習熟を図っている。必要に応じて漢字や計算の再テストを行い、理解が深まるようにしている。
- ・年間を通して「読書マラソンカード」に読書の記録を残す。また、年2回の読書週間を設定し、全校で読書に取り組む機会を設定する。
- ・夏季休業中にサマースクールを10日間実施して、国語や算数の基礎的な内容の定着を図る。

弘道小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	75.3	80.6	70.3	89.2	73.3	84.4	83.3	83.3	79.1	76.7	71.4	69.4
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	79.4	80.9	87.8	95.1	82.8	89.7	78.0	78.0	61.1	58.3	84.6	82.7
平均正答率(R5)	77.0	75.5	81.9	87.4	80.8	83.1	80.5	75.2	76.4	71.3	67.4	63.4
平均正答率(R4)	72.5	75.4	86.8	93.0	81.6	87.2	72.9	73.6	59.3	61.9	68.5	69.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

昨年と比べると通過率は、学校全体で4.1ポイント下がったが、学年ごとの経年比較では4年生が0.5ポイント、5年生が1.1ポイント、6年生が10.3ポイント上昇した。領域別に見ると区の平均と比べて大きな差は無いが「読むこと」「書くこと」に課題が見られる。

【算数】

通過率は、学校全体で0.3ポイント下がった。学年ごとの経年比較では、6年が11.1ポイント上昇したが、5年生が1.3ポイント、4年生が6.4ポイント、3年生が10.7ポイントの下降となった。数量関係や図形、数と計算の領域に課題が見られる。

【意識調査】

意識調査の5項目中「勉強が好きだ」「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の3項目で肯定的な回答の割合が区の平均を上回った。「学校での授業は分かる」「将来の夢や目標をもっている」の項目ではわずかに区の平均を下回った。

学校による学力向上への主な取り組み

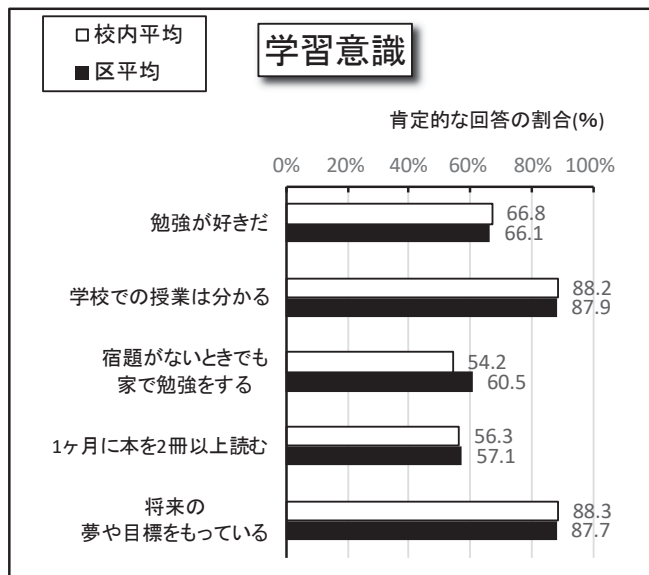
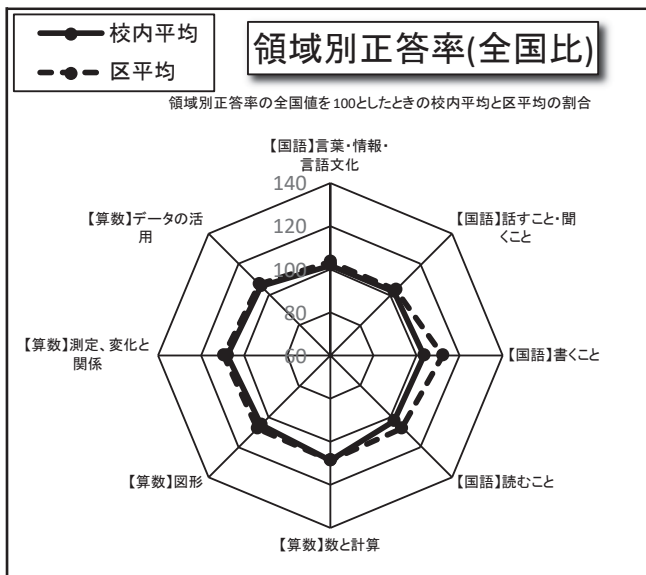
1 日常的な授業・取り組みの充実

- ① 日常授業に重点を置き、校内研究、小中連携授業研究、教科指導専門員による教師の授業改善、足立スタンダードの効果的な活用に取り組む。
- ② 東京ベーシックドリル診断テスト、A Iドリルを活用し、定期的な学習の診断を行う。
- ③ 日常の授業改善(校内研究会を通して、全教職員で取り組む。)
- ④ 手元に常に読みかけの本を携帯させ、年間読書目標達成率を70%以上等の取り組みを継続する。

2 始業前・放課後の活用・家庭学習の充実

- ① 朝のパワーアップタイム、放課後補充教室でのテストやプリントの誤答の確実な直し、特に算数では課題がある学習内容についてA Iドリル等を活用し、基礎学力の定着を図る。
- ② 始業前や放課後の補充指導の充実(データに基づきA Iドリルを活用)
- ③ 「家庭学習の手引き」を全校配付し、休日の自主学習ノート1日×2ページを行う。

弘道第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	79.5	79.5	80.0	91.1	79.2	81.1	78.4	76.5	86.0	71.9	73.6	79.2
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.1	83.8	67.3	82.7	89.8	91.8	83.1	83.1	82.0	76.0	83.7	85.7
平均正答率(R5)	77.6	76.3	86.7	90.0	83.6	84.6	72.3	71.1	76.2	70.0	72.8	71.6
平均正答率(R4)	74.4	78.5	81.5	88.9	83.0	87.2	71.8	76.6	67.8	69.7	70.7	73.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

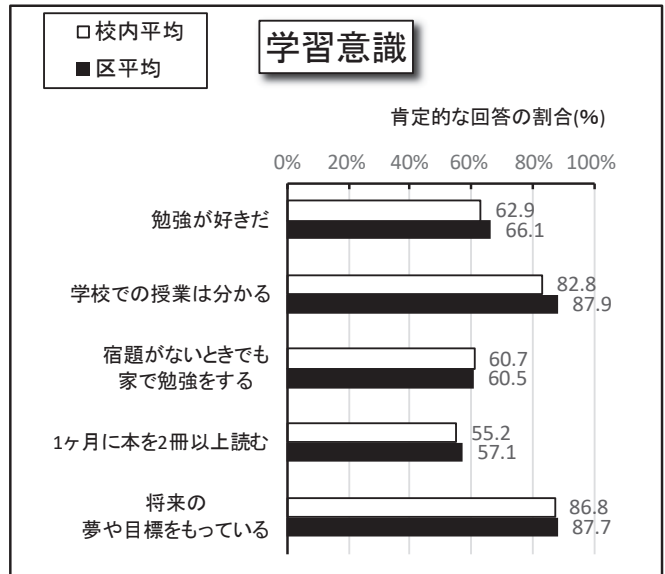
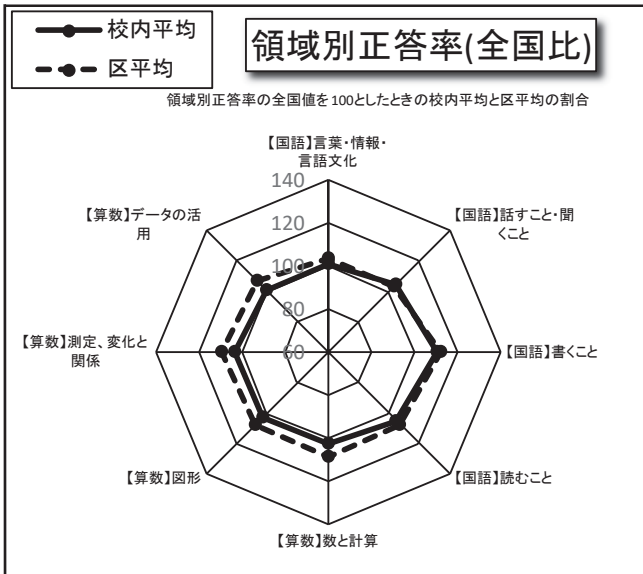
「学習定着度調査」分析結果

- 令和5年度の学力向上アクションプランの目標値である通過率80%に国語・算数ともに達することができなかった。国語・算数ともに通過率79.5%という結果で、目標から0.5ポイント下回ってしまったが、平成30年度は国語69.8%、算数66.2%であり、通過率は毎年向上が見られ、つまりき解消の取り組みの成果が出ている。
- 通過率が80%を上回っているのは、2年生の国語80.0%と算数91.1%、3年生の算数81.1%、5年生の86.0%である。しかし、下回っている学年や教科についても－9ポイント以内であり、それぞれの学年の課題をクリアにし、一つ一つ改善していくことでアクションプランに記載している10月までに通過率85%の達成を図る。
- 意識調査は、区平均と比べて「勉強が好きだ」は0.7ポイント、「学校での授業は分かる」は0.3ポイント高い。一方、「宿題がないときでも家で勉強をする」は区平均よりも－6.3ポイント、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は－0.8ポイントと、自発的に学習する習慣がない児童が少なくないことがうかがえる。学力だけでなく学習に対する意識の向上も必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「指導力向上中核校」として国語科の「書く」指導について研究を行っている。文を書くことを肯定的に考え、相手意識・目的意識を明確にし、伝えたいことをはっきりさせる指導を行っている。
- 昨年度まで行ってきた「学力ポートフォリオ研修会」で蓄積してきたクラス・学年・個に応じた課題をもとにし、効果的に解決を図る授業づくりや補習の仕方を探っている。
- 「パワーアップタイム」を火・木・金曜の朝学習で設定している。算数は東京ベーシックドリルを中心に既習事項をプリントで確認し、国語では漢字練習に取り組んでいる。
- 「読書量の向上」を目指し、読書通帳の活用や年2回の読書旬間、1～4年生は毎月の読み聞かせを行っている。学校図書館にタブレット端末を持ち込み調べ学習を行えるレイアウトに変更した。
- 毎週月曜日に学力夕会を設置し、各学年からの学力向上に向けた取組やその成果と課題を日常的に情報共有し、学習内容の系統性も意識しながら授業改善を図っている。

江北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.5	78.4	82.8	85.3	80.6	85.4	88.8	74.8	78.8	61.2	72.9	82.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.4	83.9	83.3	89.8	84.0	87.7	82.4	84.7	79.7	69.6	75.3	82.2
平均正答率(R5)	79.4	74.6	87.5	85.8	84.5	83.2	79.0	70.9	73.6	64.9	70.4	66.0
平均正答率(R4)	75.3	78.7	85.1	90.2	82.3	87.1	72.3	77.6	66.2	68.2	67.2	66.2

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語の正答率は、全ての学年で全国値を上回り、区平均との差も最大で2.2ポイントであった。また、目標値の通過率も多く学年において全国平均を上回るが区の値と差が見られた。算数の正答率は全国値と同等であったが、区平均より低かった。また、算数の通過率は、区の値と大きな差が見られる学年が多かったが、6年生は区平均を上回っていた。

国語・算数ともに応用的な問題への対応に課題が見られる。また学力調査の結果から考察すると、国語では記述式問題の正答率が他の問題と比較して低く、書くことに関する力が低い。算数でも記述式の応用問題の正答率が低いなど同様の傾向が見られる。今後は、応用的課題に対応できる理解力や表現力を伸ばしていくことが重要になってくる。

足立スタンダードに沿った授業実践、教科指導専門員による細かな指導、校内研究会による研修、タブレット端末などのICT活用の取り組みが、今回の成果として表れている。また基礎学力向上のために行っている朝読書や漢字の小テストの確実な実施、全学年で定期的実施する漢字コンテストや算数コンテスト、高学年を中心とした自主学習ノートへの取り組み等が、児童一人ひとりの学力向上と学習意欲の向上につながっている。

学校による学力向上への主な取り組み

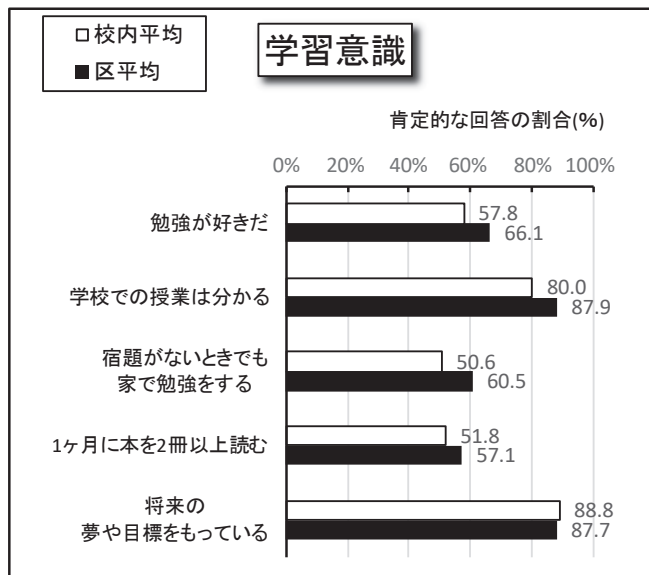
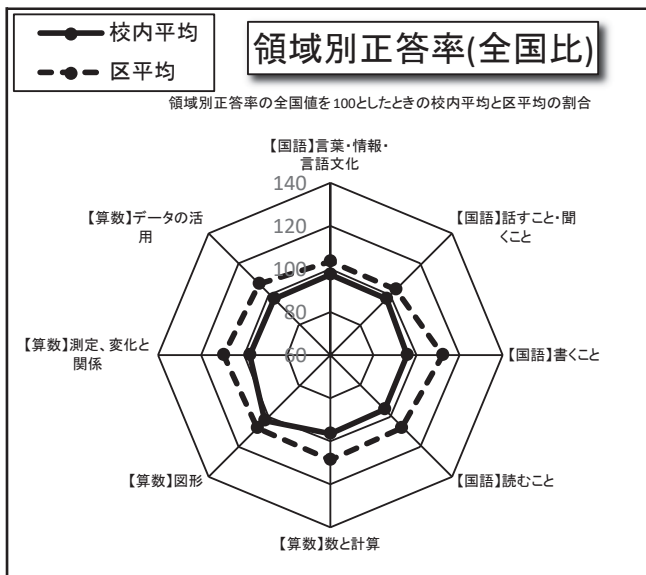
漢字コンテストを年間7回実施する。目的は基礎学力定着の一環事業として、当該学年で学習する漢字を確実に習得させることにある。毎回満点児童を全校朝会で表彰する。年間の平均90点以上の成績優秀者には、3月に校長賞を授与する。算数コンテストを年間7回実施する。単元の復習問題や学力調査の結果を受けて、問題を作成し、基礎力の定着を図る。

毎朝、朝読書の時間を設定し、読書に親しむ環境を整える。また、読書記録を行い、1万ページ以上読むことができた児童を表彰する。

自主学習ノートの取り組み、自分自身が興味関心をもったことに関する調べ学習や自分の得意なことや苦手な学習の復習、授業やテストの予習復習など、自分で課題を決めて取り組む。担任が一人ひとりのノートを確認し指導や助言を行い、学習の質や児童の意欲の向上を図る。

MIMへの取り組みにより、文章理解力を向上させる。AIドリル、Qubenaを問題練習や宿題として活用し、基礎学力を向上させる。

古千谷小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	74.5	70.7	72.4	77.0	83.6	93.2	78.8	75.8	74.1	63.0	65.9	48.2
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	79.2	74.3	86.8	96.1	86.2	81.5	78.0	74.4	65.9	52.9	81.5	70.4
平均正答率(R5)	72.9	69.3	81.3	80.7	83.3	86.1	72.4	68.8	68.7	65.4	63.4	52.8
平均正答率(R4)	71.8	73.0	87.3	93.4	80.2	85.4	70.0	73.8	61.1	59.2	67.5	62.8

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

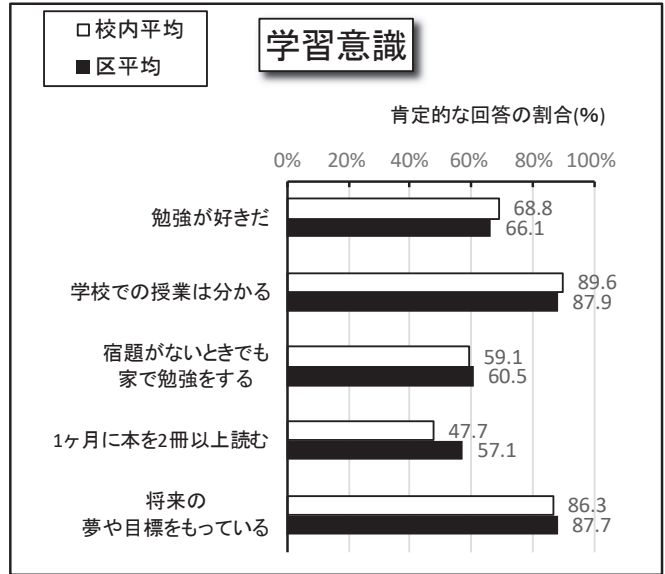
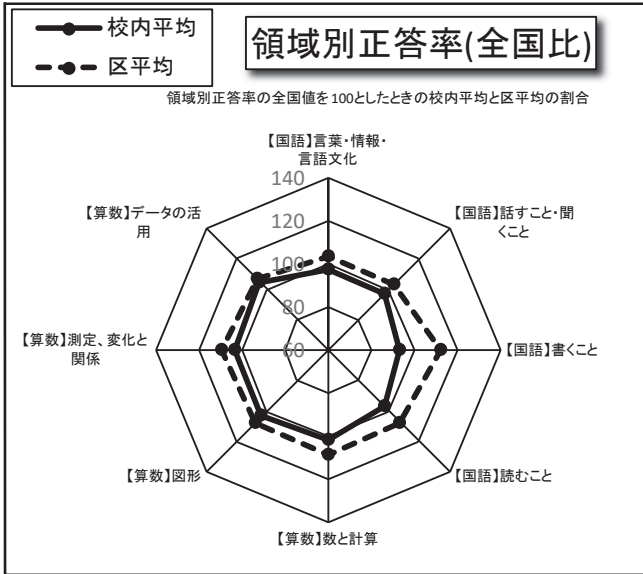
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の国語の通過率は、昨年度より4.7ポイント下回った。また、算数についても3.6ポイント下回った。
- 平均正答率で見ると、前回より国語が1.1ポイント上回った。算数は、3.7ポイント下回った。
- 領域別正答率を見ると、国語の「話すこと・聞くこと」「言葉・情報・言語文化」については平均正答率が区平均に迫っているが、他の項目では下回っている。
- 3年生は、国語、算数共に通過率が80%を超えており、概ね基礎・基本が定着していると考えられる。一方で、その他の学年は、国語、算数共に通過率が80%を下回っており、基礎・基本の学力が定着していないと考えられる。
- 「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答する児童の割合が区の平均を超えているが、その他の項目は区の割合を下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 基礎・基本を定着させるために、毎月第3水曜日の放課後に、全学年で補習教室を実施するA Iドリルを活用し、児童それぞれの課題に応じた学習を進める。1年生は、M I M補習を実施する。
- 毎週金曜日の朝学習では、A Iドリルを活用して個々の苦手を補う取組を実施する。
- 地域巡りや個人面談期間中には、専科教員による放課後学習教室を実施する。内容は、区学力調査を分析して判明した内容を取り扱う。
- 全教員による授業改善に取り組み、分かる授業、学びの楽しさを知る授業づくりをめざす。
- 全教員が足立スタンダードを実践し、主体的で対話的な深い学びを実現する。
- I C Tの活用を推進し、児童にとって分かりやすい授業の実施や児童同士の対話的活動を活発に行う。
- 開かれた学校づくり協議会や学校図書館支援員と連携を図り、読書の目標を立て、さまざまな機会に読み聞かせを行ったりして読書習慣を身に付けられるようにする。

皿沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	71.6	79.8	75.0	90.6	71.7	89.1	71.7	79.6	65.5	63.8	76.6	83.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	70.8	78.2	85.1	95.7	75.5	86.5	57.9	63.2	76.6	74.5	58.3	72.2
平均正答率(R5)	72.5	71.6	84.4	88.2	79.9	86.1	70.4	70.8	66.4	59.6	69.6	66.3
平均正答率(R4)	68.1	73.9	84.5	93.3	76.9	85.4	60.3	65.0	62.8	71.7	58.2	56.3

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

<学習意識>

昨年「勉強が好きだ」が区平均を上回り、加えて今年は「学校での授業は分かる」も上回った。「学びはお金」というキャッチコピーは「学びはお金と同じように課題解決に使える」という教育理念であるが、「何のために学ぶのか」の理解が広範囲に表れてきたと考える。

<国語>

昨年度と比較して、通過率が上昇した学年と下降した学年がある。領域別では「書くこと」と「読むこと」の課題が大きい。引き続き読解力の向上に取り組んでいく。

<算数>

昨年に引き続き「図形」「数と計算」の差が目立つ。「数と計算」では、特に4年生において四則演算全般に課題が見られた。他の学年でもかけ算に起因するミスが多数見られた。しかし、全体を見ると通過率は向上し、あと1名で8割通過まで来ている。

学校による学力向上への主な取り組み

<学習意識>

「主体的に取り組む態度」について学習、生活の両面で取り組み、常に自分で考えて行動する意識を高めている。上記以外の項目も読書を除き、区平均とほぼ同等の所まで来た。

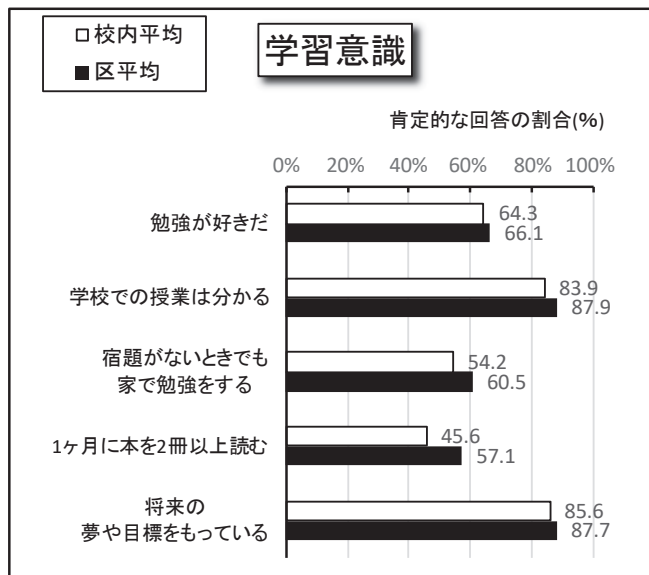
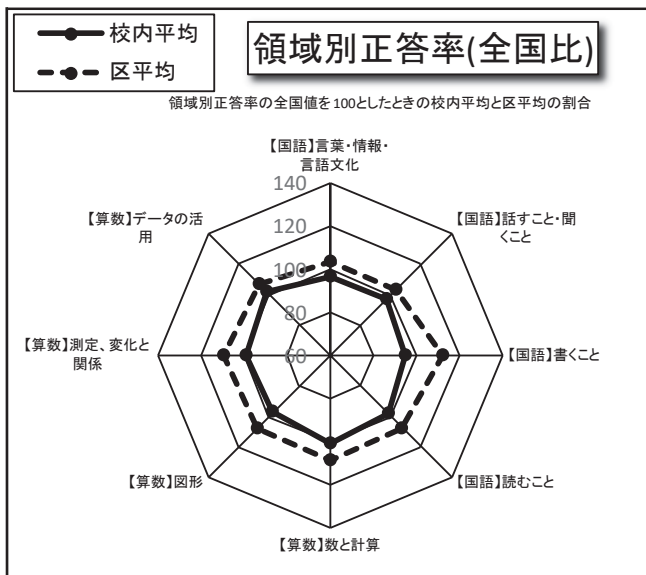
<国語>

説明的文章では、教材文をデータ化して打ち出し、段落ごとに切り分け、その順番を言葉に着目して考えさせるなど読解力を高める授業の具体的な取組をスタートしている。文学教材では、伏線や挿絵に着目して読み取り、感想や自分の考えをまとめることを求めている。

<算数>

一昨年に策定した「授業改善の具体的な取組」について、今年度からは単元のどの時間で指導するかを指導計画の上で明記するとともに、単元に入る前に関係教員で確認し、全指導者が共通実践できるようにしている。「四則演算」では、復習プリントを作成し、授業中問題を早く解き終わった児童が主体的に取り組んでいる。また3年生以上で、かけ算検定を定期的に行い、全児童が確実に覚えられるようにしていく。

鹿浜五色桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	73.4	73.4	76.1	88.1	77.6	76.1	81.7	74.4	62.8	67.9	69.8	64.0
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	79.1	79.1	89.1	90.6	83.3	88.1	81.0	78.5	76.5	61.2	68.9	80.0
平均正答率(R5)	72.6	69.6	84.0	86.3	81.0	79.4	73.9	70.6	64.9	64.0	66.3	57.3
平均正答率(R4)	70.6	72.9	88.2	90.2	80.0	87.0	67.5	72.9	63.1	62.2	63.1	62.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語・算数ともに、通過率が昨年度の数値を下回った。今一度、足立スタンダードの徹底を図り、全教員が問題解決型の授業展開をし、子どもが「分かりたい」「知りたい」と思えるような授業展開を行う必要があると考える。前学年の基礎的な内容の復習・反復練習も意図的に組み込み、改めて基礎基本の習得を図る必要がある。

5学年中、4学年で「勉強が好きだ」という質問に対して区平均を下回っている。子どもたちの興味関心を引くような導入であったり、体験的な活動を増やしたりして、学習に対して前向きな姿勢を生み出していく必要があると考える。

約84%の児童が、「授業は分かる」と答えている。しかし正答率は、すべての項目で区平均を下回っている。意識調査の結果から「自ら学ぶ力」に関する項目において肯定的な回答値が低く、特に思考面での数値の低さが顕著なことが分かる。粘り強く考え、課題に取り組むことで、肯定的な回答値が上昇し、通過率や正答率の上昇につながるのではないかと考える。

学校による学力向上への主な取り組み

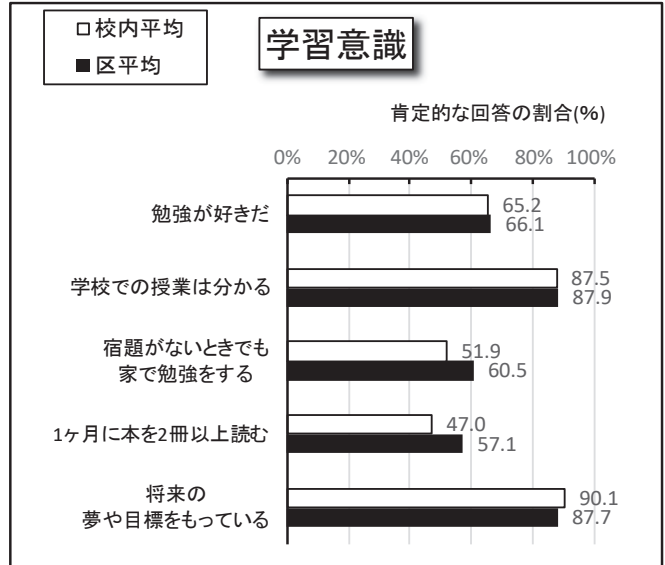
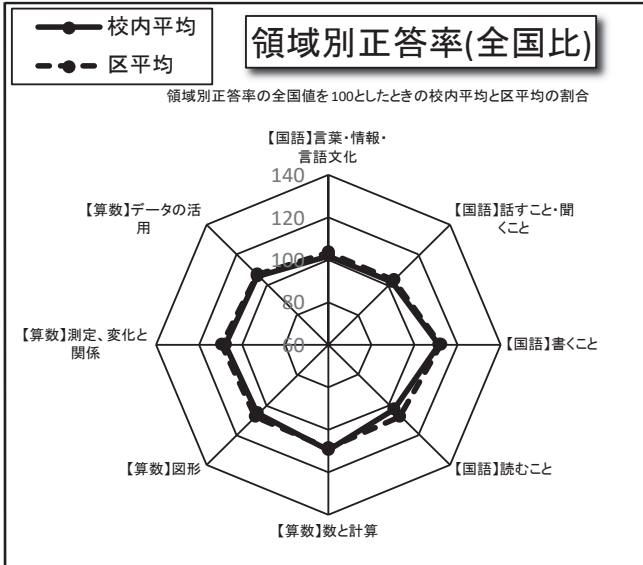
(1) 日常的な授業改善

今年度の校内研究を通して、子どもたちが主体的・対話的で深い学びとなるべく、個別最適で、協働的な学びとなるような授業改善を行う。意識調査を見ると、将来に向けて夢や目標を持っている子どもや授業が分かると答えた子どもは80%を超えている。勉強することが好きになれるような、授業展開や導入の工夫、自ら学びを選択できるような授業デザインを構築していく。学習に対する前向きな気持ちを根付かせ、家庭での自主的な学習にも意欲的に取り組むといった相乗効果を図る。

(2) さくら教室(放課後補習)やモジュールの時間(朝学習)の充実

さくら教室は毎週、火・木曜日に行う。学力調査やワークテストの結果からC・D層の児童を対象に少人数指導を行い、基礎基本の徹底や弱点の克服をめざす。またモジュールは朝の15分を利用し、新出漢字の練習や意味調べなどを行い、国語の知識の充実を図る。

鹿浜第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.6	84.7	83.3	91.1	76.9	84.6	88.0	88.0	82.9	77.6	76.4	80.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.8	81.6	86.1	94.9	81.1	83.8	88.2	86.8	73.5	60.9	79.6	79.6
平均正答率(R5)	78.1	77.3	86.7	87.1	84.0	84.0	75.7	78.3	74.5	70.5	70.7	67.7
平均正答率(R4)	73.3	75.8	86.0	93.7	79.5	85.3	74.0	78.8	63.5	62.8	67.6	64.6

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

[児童の強み]

本校の児童は、課題に粘り強く取り組むことができている。また、自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える力に自信をもっている児童も多い。学習の中でペアやグループ活動を意図的に取り入れていくことで、学力のさらなる向上を図ることができると考えられる。その際には、C-D層の児童の学習のつまずきが補填されるようなグループ編成を考慮していくと、より有効である。

[児童の課題]

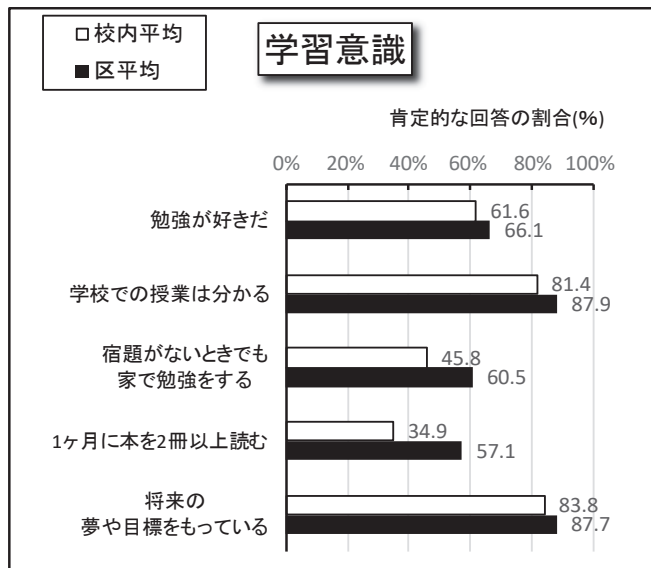
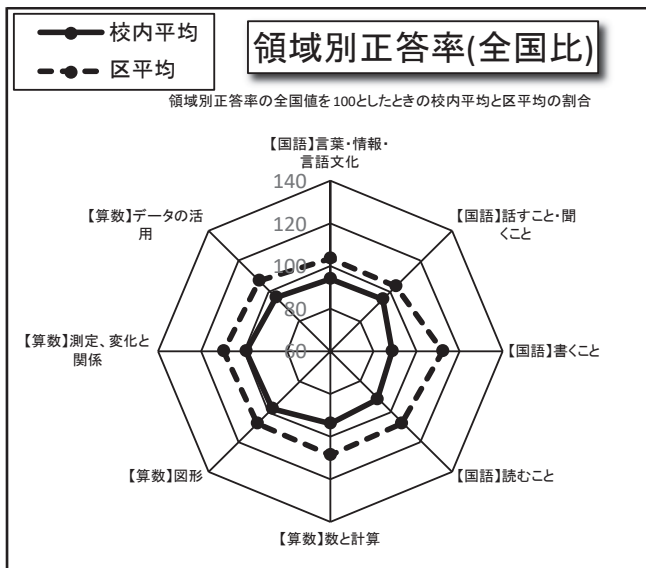
本校の児童は、勉強に関する意欲や、自ら学習に取り組もうとする姿勢が区全体の平均よりも低い。学習意欲の向上が今後の課題である。4層分析では、C-D層の差が、A-B層・B-C層の差より大きいパターンⅢの設定問が全体的に多く、一部の児童に未定着な課題がある。個別支援を行いC-D層の学習意欲を向上させていくことで、国語・算数の正答率を向上させていくことができると考えられる。放課後のプレイバックタイム等を活用し、学習の基礎的・基本的な知識・技能にさかのぼった個別指導が有効である。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝のパワーアップタイム
- ・放課後のプレイバックタイム
- ・校長が個別指導を行うプレジデントタイム
- ・テストを行う際には事前に予告をして復習させる時間を確保させる。
- ・A Iドリルを活用し、繰り返し類似問題に取り組んでいく。
- ・足立スタンダードを意識した授業

鹿浜未来小学校

R5.4.1 北鹿浜小学校と鹿浜西小学校を統合したため R4 数値なし



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	67.5	68.6	62.0	72.0	68.3	74.6	69.4	73.5	81.4	62.7	54.7	60.4
目標値(R4)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
通過率(R4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均正答率(R5)	70.5	68.5	76.5	78.9	78.4	79.3	69.4	69.5	69.5	63.0	60.7	55.8
平均正答率(R4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】すべての領域で区平均を大きく下回っている。国語では「書くこと」、算数では「数と計算」に課題がある。

【学習意識】すべての項目で区平均を下回っている。「勉強が好きだ」と「授業は分かる」に対し、否定的な回答をする児童がそれぞれ38.6%(約113人)、18.6%(約55人)いる。

【通過率】国語、算数共に、学校全体の通過率が70%を下回っている。国語では、6年生が約半分しか目標値を通過していない。算数では、2～4年生では、70%を超えているが、5・6年生は60%台となっている。

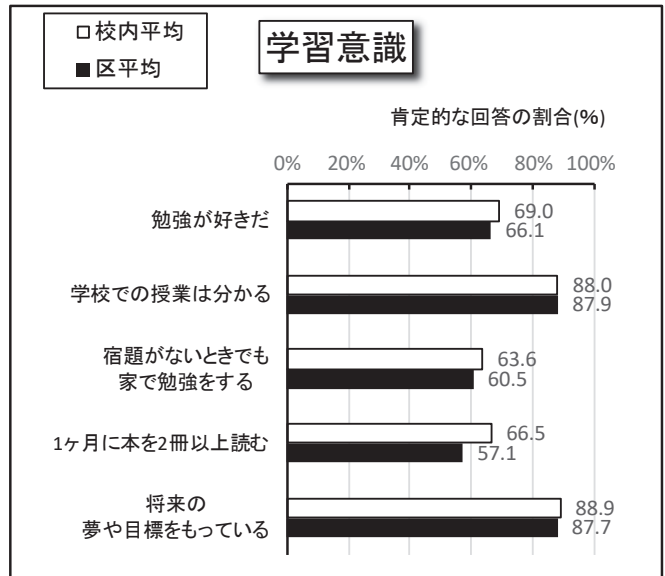
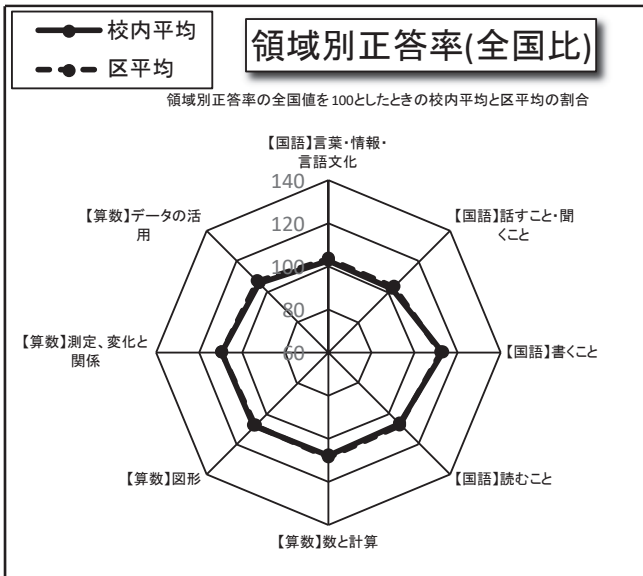
【上記から、課題となる点】

- ・全学級において、苦手となっている領域、単元を分析し、児童にとって「わかる授業、楽しい授業」に向けた授業改善を図ること。
- ・国語では、読み取ったこと、わかったことを書いて表現する活動を充実すること。
- ・算数では、四則計算の定着、立式の根拠や式の意味などの理解を定着すること。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・区学力調査の分析と課題解決に向けた方策について検討する研修を行う。さらに、年3回の研究授業を通して、足立スタンダードの徹底と苦手な領域・単元の解決を目指した授業改善を行う。
- ・国語では、授業の中で「読み」「書き」「話す・聞く」をバランスよく行い、読み取ったこと、わかったことを書く活動を意識して取り組む。
- ・算数では、問題をよく読み、図や式、言葉を使って考えを表現する活動を実態に合わせて取り組む。
- ・朝の「パワーアップタイム」を充実させ、基礎的な四則計算の練習、文章の読み取りなどを行う。
- ・放課後学習「未来タイム」において、苦手な単元に入る前に、関連する既習内容の復習を行い、授業による定着を効率よく行う。
- ・読書月間等、読書活動を充実させる取り組みを行い、読解力と知的好奇心の向上を図る。

島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.9	83.9	85.2	90.9	88.9	88.9	83.9	82.8	80.6	74.2	80.8	83.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.5	81.0	87.2	89.5	78.8	83.5	80.0	78.9	82.3	77.2	78.5	73.8
平均正答率(R5)	79.2	77.3	88.9	90.1	85.4	82.9	76.7	74.0	73.4	71.4	73.8	70.6
平均正答率(R4)	74.6	77.3	84.6	91.0	79.9	85.1	69.5	74.8	71.7	70.5	68.4	65.9

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】全ての項目で区平均とほぼ同様になっている。昨年度と比べると国語では、「書くこと」、算数では「数と計算」に改善が見られた。

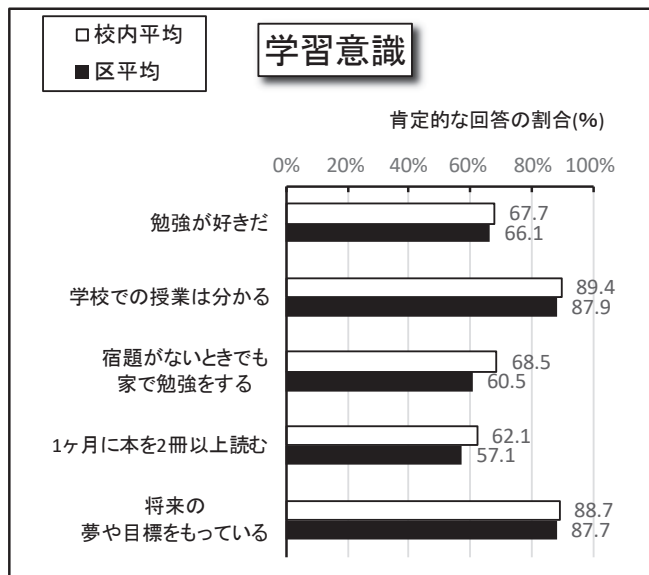
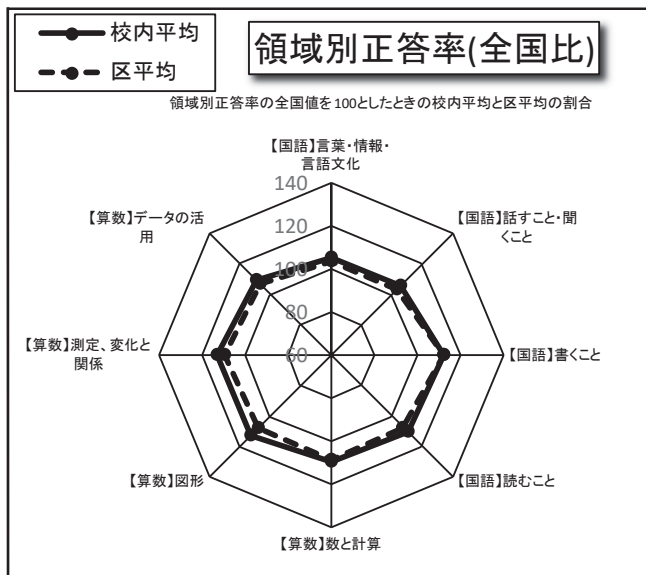
【学習意識】全ての項目で区平均を上回った。学習への意欲の高さが伺える。特に「読書」の項目では、区平均より9.4ポイント上回る。読書旬間や探究活動での本の活用を推進した成果である。

【通過率】学校全体の通過率は、R4年度と比べ、国語で2.4ポイント、算数で2.9ポイント上がっている。学年別で見ると、3年国語と6年算数は、10.0ポイント程度向上した。足立スタンダードを活かした「分かる授業」の実践を続けたことや補習教室に学校全体で取り組み、個に応じた指導をしたことが児童の学力定着につながったと考えられる。また、昨年度から導入されたQubena(AIドリル)を活用し、授業の後半で練習問題に取り組みせたり、ワークブックを使用し家庭学習で活用したりしたことが学習の定着につながったと考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習・・・毎週火～金の始業前の15分間で、漢字などの言語事項の指導や漢字の読み書きの練習問題、算数の復習問題に継続して取り組みせ、確実に習得させる。
- しまねっ子タイム・・・全ての学年で毎週月・木曜の放課後に、前学年から当該学年の学習内容について、個に応じた補充学習を全学級で行う。基礎学力の全体的な底上げを図る。
- Qubena(AIドリル)・・・「ワークブック」を活用した学習の定着と「5分間復習」を活用した学習内容の定着を全学年で行い、基礎的・基本的学力の定着を図る。
- 読書旬間・親子読書・・・年2回2週間、読書の推奨期間を設け、本を読む楽しさを味わうことや、調べる学習の充実を図り、読み取り学習の充実を図る。
- 校内研修会(年10回)・・・教員の指導力向上を図るため、ICT、体育実技、生活指導などさまざまな内容の校内研修会を実施する。
- 小中連携合同研究会・・・連携校(第十中学校、梅島第一小学校)との授業研究や指導案検討を通して、互いの授業力向上を図る。
- その他、夏休み補充教室、そだち指導などを実施し、児童のつまずきの解消を図る。

新田小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.3	87.4	85.1	91.3	94.8	91.9	88.6	88.1	88.0	87.4	81.7	80.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.5	87.0	93.5	97.1	87.9	89.7	83.4	89.5	80.6	72.4	83.9	89.3
平均正答率(R5)	80.6	78.7	89.3	89.4	90.1	88.7	79.8	78.4	77.7	77.2	72.6	67.7
平均正答率(R4)	75.6	79.3	89.7	94.3	82.4	88.1	74.2	80.7	68.6	68.7	70.6	73.3

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

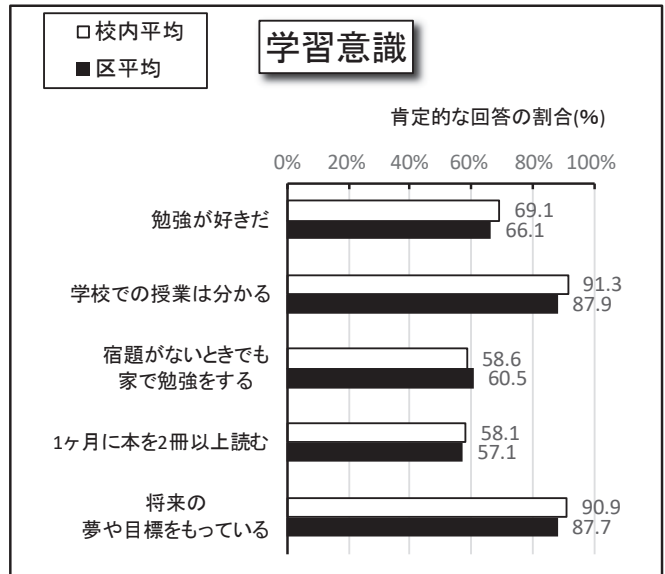
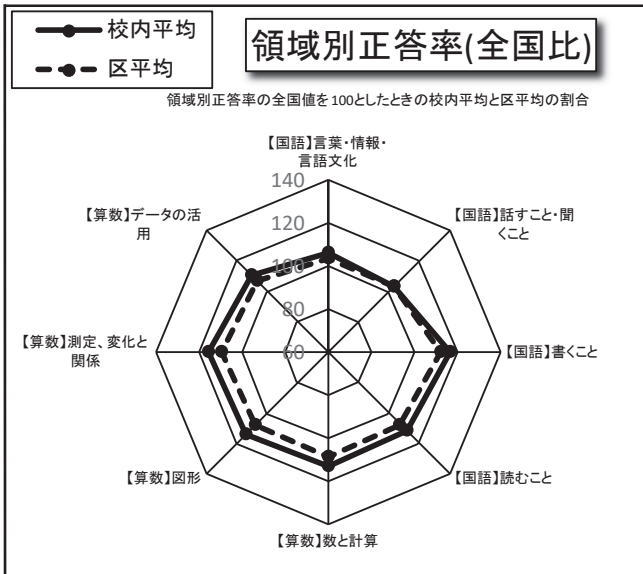
「学習定着度調査」分析結果

- 国語…全領域、区平均を上回っている。さらに昨年度に比べ通過率は、1.8ポイント上昇している。昨年度までの取り組みが正答率の上昇につながっていると考えられる。A層とD層の差は学年が上がるにつれて多くの領域で広がっており、一部の児童が未定着と言える。
- 算数…全領域、区平均を上回っている。全国的にも言えることであるが、記述式の問題に課題が見られるため、考えたことを文章で説明する力を育てる指導が必要である。
- 学習意識調査では全項目区平均を超えているが、「勉強が好きだ」「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」と答えた児童は7割に届いていない。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習において、国語・算数の定着度の低い内容についてプリント学習を行う。学習時間内に解答・解説を担当が行い定着度の確認を行う。また、高学年においては、教科コンテストを月に1回行い、単元ごとの知識や技能の定着を図る。朝のパワーアップタイム、放課後補充教室においては、授業でつまづいている学習内容について遡って取り組み、演習を中心に個別もしくは少人数指導を実施し、課題未達成の児童をなくしていく。
- サマースクールでは平均正答率に満たない児童を対象者を絞るなど工夫をして、補習を計画的に行い、基礎学力の底上げ定着を図る。また、中学部の生徒が小学部の児童の学習を支援し、小中一貫教育校としての環境を十分に生かしていく。6年生に基礎的学力が定着していない児童が一定数いることは学校も認識している。これに対して学年全体で補習体制を組み、定着度の低い学習内容について徹底的に指導する。学年全体での補習体制は9月以降も継続していく。
- そだち指導(3・4年生)を通して、つまづきレベルに合わせた教材を用いて、児童の学びの速度に合わせた指導を積み上げる。
- 家庭学習の習慣化を図る。1年生から6年生までの系統的な内容を考慮し、各学年ごとに家庭学習の課題や実施方法を工夫し、取り組みの一層の徹底を図る。

関原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.8	92.9	91.4	98.8	88.6	94.3	91.2	94.7	83.1	83.1	89.2	92.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	86.8	87.8	94.1	95.6	92.5	88.7	86.4	88.1	79.7	79.7	81.4	86.4
平均正答率(R5)	82.1	81.4	90.4	91.8	88.0	90.2	81.9	81.3	73.5	71.4	77.4	73.2
平均正答率(R4)	76.3	80.7	89.1	94.4	86.0	90.4	74.4	79.6	68.0	72.7	68.3	70.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・学校全体の通過率は、昨年度に比べ国語+2.0ポイント、算数+5.1ポイントであった。
- ・平均正答率も昨年度に比べ、国語+5.8ポイント、算数+0.7ポイントと上昇した。
- ・昨年度と比べて通過率が下がったのは、2年生の国語-2.7ポイント、3年生の国語-3.9ポイントで、4年生と5年生と6年生は国語、算数ともに上昇している。
- ・今年度、通過率が特に上昇したのは、6年生の国語+7.8ポイント、4年生の算数+6.6ポイントである。
- ・領域別正答率は、国語、算数ともにそれぞれの領域で区のレベルをやや上回っている。
- ・学習意識の「宿題がないときでも家で勉強をする」は、区平均に比べ、-1.9ポイントであるが、昨年度の-6.0ポイントより数値は上昇している。その他の項目は区平均よりもやや上回っている。昨年度に比べ、「将来の夢や目標をもっている」は、+3.9ポイントであり、「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、-4.0ポイントである。

学校による学力向上への主な取り組み

○指導力向上

- ・小中連携校3校で研究授業を行い、講師の指導助言や協議会から授業改善を図る。
- ・管理職観察や教科指導専門員による授業指導を行い、足立スタンダードの定着を図る。

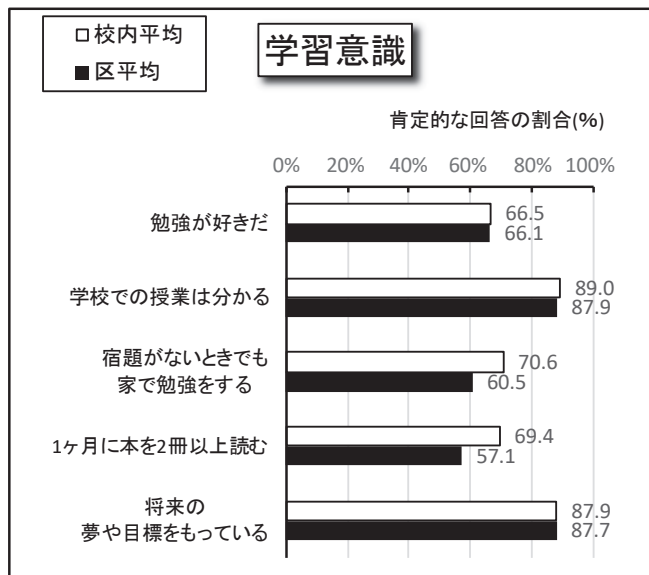
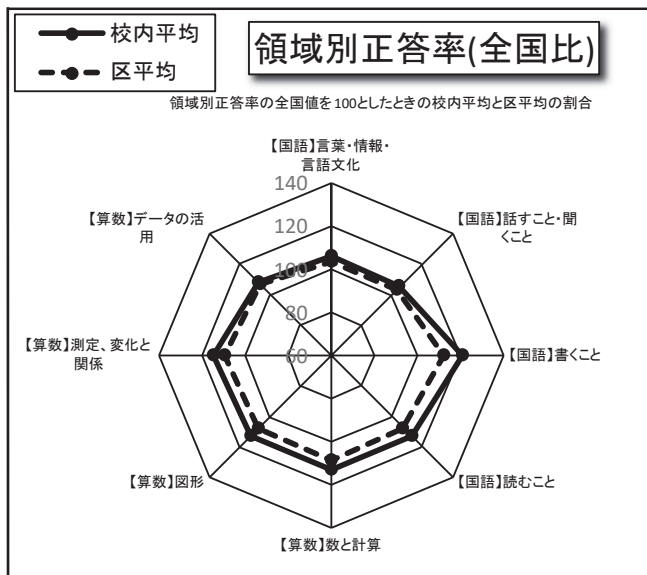
○基礎・基本の定着

- ・朝のパワーアップタイム(漢字練習、視写、文章読解、MIM、計算練習等)を実施する。
- ・区学力調査のSP表分析をもとに、関原個票を作成する。各学年、学級の課題を明確にし、個票分析結果から授業内や補習時間に個に応じた指導を行う。
- ・A Iドリルの活用により、個のつまずきの軽減を図る。
- ・M I Mの練習プリントに取り組みせ、特殊音節の取得や読みの流暢さを育む。
- ・毎月全校一斉の漢字テストや、2~6年生対象の九九検定、4~6年生対象の区、都道府県名検定を実施し、学習意欲の向上や基礎学力の向上の定着を図る。

○家庭学習

- ・基準時間を(学年×10分+10分)とし、自分で内容を決める自主学習にも取り組んでいる。

千寿小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.0	87.3	88.4	91.1	89.9	92.3	86.7	88.0	93.4	87.6	80.9	75.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	89.0	90.2	90.6	94.1	89.1	90.5	92.0	94.9	86.4	80.3	85.4	89.6
平均正答率(R5)	82.7	80.9	90.8	89.5	89.5	90.0	78.6	78.1	81.2	77.3	74.3	70.9
平均正答率(R4)	79.0	83.4	88.8	93.1	83.0	87.6	79.4	83.1	69.3	74.2	73.4	76.8

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】 平均正答率は全学年で区平均を上回った。特に「書くこと」の正答率が高く、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」は他の項目と比べると低い。既習漢字の活用や語彙の拡張について取り組みを継続する必要がある。

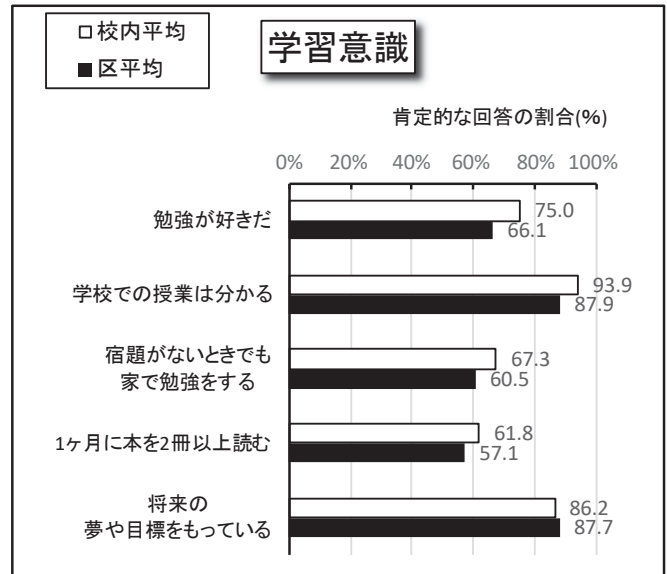
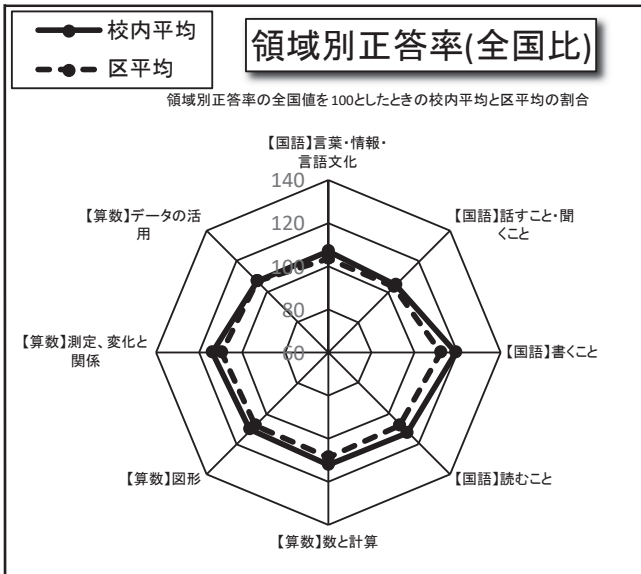
【算数科】 平均正答率は全学年で区平均を上回った。また、領域の偏りなく、バランスよく学力の定着を図ることができたと言える。しかし、通過率はどの学年も前年度を下回っており、中学年より高学年の方が減少率が大きい。学力差の広がりを止めるべく個別最適な学びの充実を通して改善を図っていく必要がある。

【学習意識】 すべての項目で区平均を上回った。特に「1ヶ月に本を2冊以上読む」は区平均を12.3ポイント、「宿題がないときでも家で勉強をする」は区平均を10.1ポイント上回った。家庭学習や読書習慣の確立に向けて、学校を挙げて取り組んだ成果と言える。しかし、前年と比較すると5項目中4項目で肯定的な回答の割合がわずかに減少した。現状に甘んじず、継続的に学習意欲を高める働きかけを行い、チェックしていく必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内研究の算数において、「問い」の工夫をした主体的・対話的な学習や活用型学習の充実を図り、児童の「思考力・判断力・表現力」を育てる。
- 各教科でA Iドリルやドリル教材を計画的に活用し、スモールステップで反復学習を徹底するとともに、初期の段階、小さな段階でのつまずきの解消を図る。
- 一人一台のタブレットを使用し、「調べる」「まとめる」「発表する」などの学習を積極的に取り入れる。ICTの活用を、確実に学習意欲の喚起につなげる。
- 学年に応じて100～200文字の作文指導を毎月行い、ポイントを明確化して書く力を育てる。
- 第1学年を対象に多層指導モデルMIM(毎月)と音読力チェック(年2回)を実施し、流暢な読みの定着を図る。
- 読書量の目標を設け、週に1回朝学習に読書の時間を設定。読書習慣の確立を図る。
- 家庭学習の提出を徹底する。第2学年以上に週1回以上自学自習の課題を出し、月1回、各学年の優れたノートを掲示し、他の児童の参考とさせる。

千寿桜小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.8	88.4	80.0	88.0	93.1	97.7	92.1	89.5	82.1	78.6	86.3	87.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	88.1	92.3	94.1	96.5	88.6	93.7	83.3	88.1	91.7	91.7	81.4	91.5
平均正答率(R5)	82.5	79.8	87.0	85.8	90.9	90.9	83.6	79.2	77.5	73.3	75.3	72.2
平均正答率(R4)	78.4	83.4	90.8	93.3	84.7	90.8	76.8	81.8	70.9	77.5	68.6	73.1

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

1 平均正答率・通過率からの分析

- ① 全学年の平均正答率が目標値を上回り、これまでの学力向上策の成果が現れた。
- ② 領域別では、国語、算数とも、各領域で区平均を上回った。足立区指導力向上中核校の研究において、児童が自ら学ぶ力を育成するための研究が成果に繋がっている。
- ③ 学校平均通過率は、国語、算数とも目標の85%を上回った。今後は全学年が85%を上回るよう、さらなる向上をめざす。

2 学習意識調査からの分析 ※ 昨年度数値と比較

- ① 「宿題がないときでも家で勉強をする」(66.0%→67.3%)「勉強が好きだ」(73.5%→75.0%)及び「1ヶ月に本を2冊以上読む」(61.7%→61.8%)の項目において、昨年度の結果から上昇した。日々の授業や家庭との連携、協力が結果として現れている。
- ② 一方で「学校での授業は分かる」(94.9%→93.9%)「将来の夢や目標をもっている」(87.3%→86.2%)の項目が下降。授業改善やキャリア教育など、学校全体で取り組む。

学校による学力向上への主な取り組み

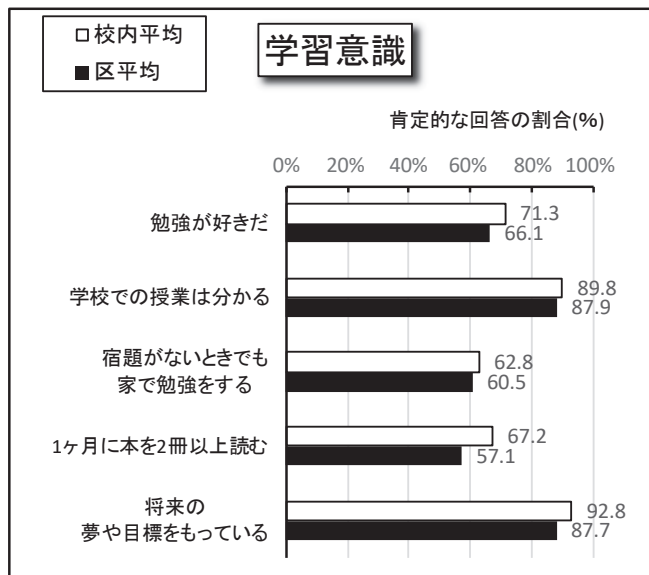
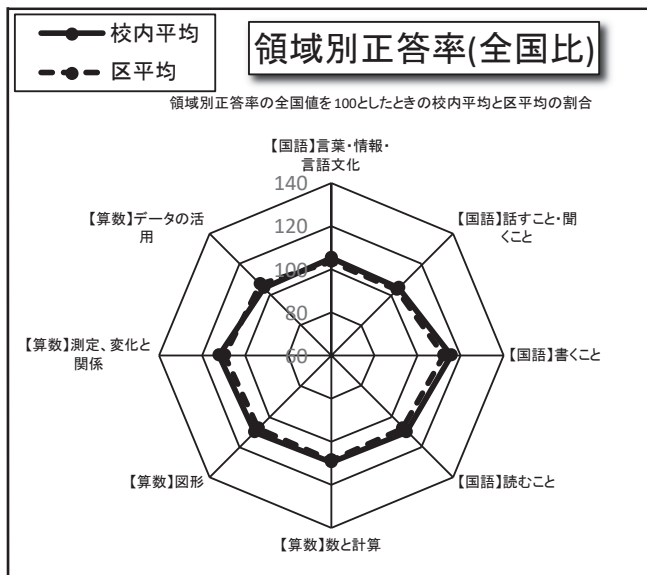
1 基礎学力定着のための学力向上策

- ① 算数少人数習熟度別指導(全学年)
- ② 朝のモジュール学習(言語指導)(火・水・木・金 8:25~8:40)
- ③ 「桜☆学習コンテスト」計算・漢字・都道府県など(長期休業明け年3回)
- ④ AIドリル等のタブレット活用
- ⑤ 放課後補習教室(会議のない日の放課後)
- ⑥ サマースクールでの個別指導(長期休業中10日間程度)

2 読解力・思考力・判断力・表現力等の育成のための取り組み

- ① 読みのつまずきを解消するための取り組み「MIM(多層指導モデル)」フォローアップ
- ② 短作文(100文字程度)の実施(教科領域を問わずあらゆる場面で)
- ③ 自学自習の取組(2年生以上:宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う)
- ④ 年3回の「読書月間」と「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加奨励

千寿常東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.0	84.6	87.0	96.1	91.8	80.8	89.0	89.0	80.5	75.9	83.0	81.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	83.9	83.7	80.3	82.9	88.6	90.9	80.5	85.1	84.5	74.2	84.9	86.0
平均正答率(R5)	80.5	77.7	90.2	89.2	88.3	83.1	79.3	78.8	75.2	70.0	75.4	72.5
平均正答率(R4)	75.1	77.3	83.0	85.9	83.3	87.5	71.3	78.6	69.8	70.4	71.9	69.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語科】

学校全体の通過率は昨年度より2.1ポイント向上した。学年別での通過率は全学年で80%を超えている。特に4年生は昨年度に比べ8.5ポイント向上した。通過率における学年の経年変化を見ると、低・中学年が向上している。

【算数科】

学校全体の通過率は昨年度より0.9ポイント向上した。学年別での通過率は5年生を除く4年生で80%を超えている。特に昨年度と比較して2年生の通過率が13.2ポイントと大きく向上しているが、3年生の通過率が10.1ポイント低下している。

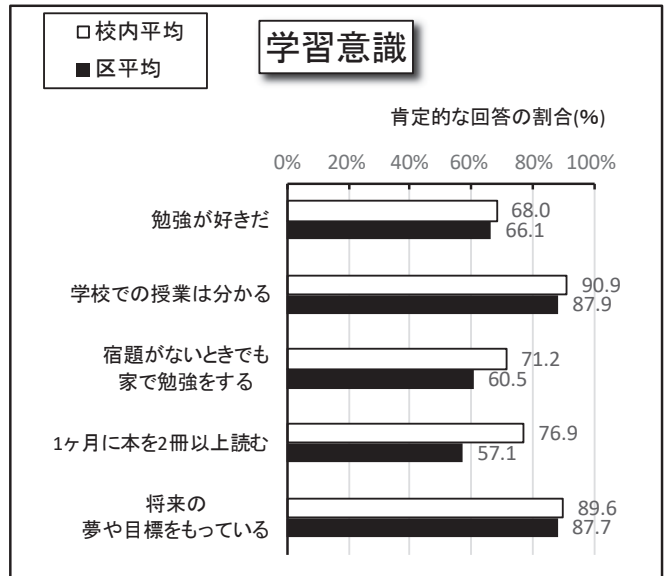
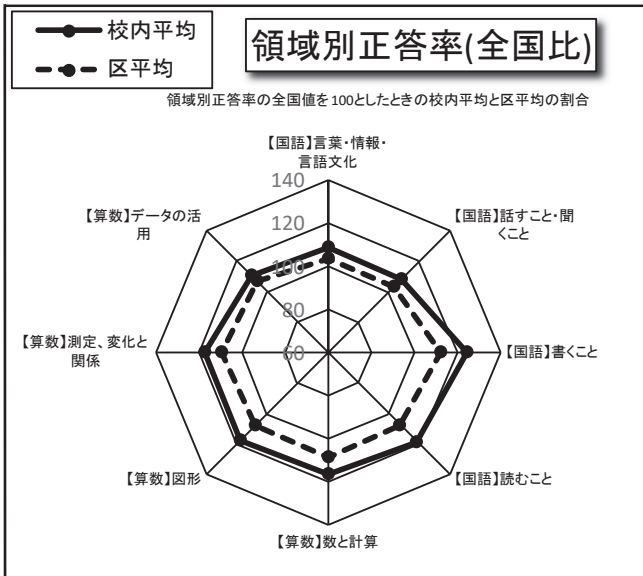
【学習意識】

すべての項目において肯定的な回答が区平均を上回っている。特に「将来の夢や目標をもっている」については、平成30年度から継続して90%を超えている。また、「1ヶ月に本を2冊以上読む」では区平均を10.1ポイント超えている。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝の時間にパワーアップタイムを設定し、国語科と算数科を中心に各学年で課題とする学習内容や基礎となる事項について計画的に指導を行う。AIドリルを活用し、児童の苦手な単元や実態に応じた取り組みを重点的に行う。
- ・国語科の書く力の向上を目指し、2週間に1度以上書く活動を実施する。ミニ作文や聴書、視写など、発達段階や実態に応じて計画的に文章を書く活動を取り入れる。
- ・放課後学習教室を設定し、算数科の学習で課題が残る児童に対して、個に応じた教材を活用し、学習理解の定着を図る。
- ・夏季休業中に3種類の補習教室を実施する。①全児童を対象に、学習時間の確保を目的とした学びの場の設定。②学習内容が定着していない児童に対しての個別指導。③5、6年生のつまずきの生じやすい単元に特化した、AIドリル活用型の補充学習の3種類である。
- ・学力調査や単元テストなどから児童一人ひとりの学力の定着状況を日常的に把握し、そだち指導員などを活用しながら、個別最適な学びを実施する。

千寿第八小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	93.1	93.1	92.0	97.3	96.6	96.6	92.6	93.8	96.1	88.3	88.9	89.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	93.9	93.4	98.8	94.2	96.2	98.7	93.5	92.2	92.0	90.0	88.2	92.6
平均正答率(R5)	84.5	82.7	91.3	91.6	93.0	89.1	84.5	82.2	82.2	77.6	76.3	77.1
平均正答率(R4)	82.0	84.9	94.4	94.2	87.7	92.5	81.9	85.4	74.7	77.9	75.1	77.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】昨年度比で、通過率は0.8ポイント下降したが、依然として93%を超える高い数値を維持している。平均正答率は2.5ポイント上昇した。「書く力」「読む力」は平均値を大きく超え、音読や読書、詩の暗唱、読解問題、短作文の組織的・継続的な取り組みの成果が現れている。2年生は同一学年において昨年度平均正答率比で3.1ポイント下降したため個別指導のさらなる徹底が必要である。

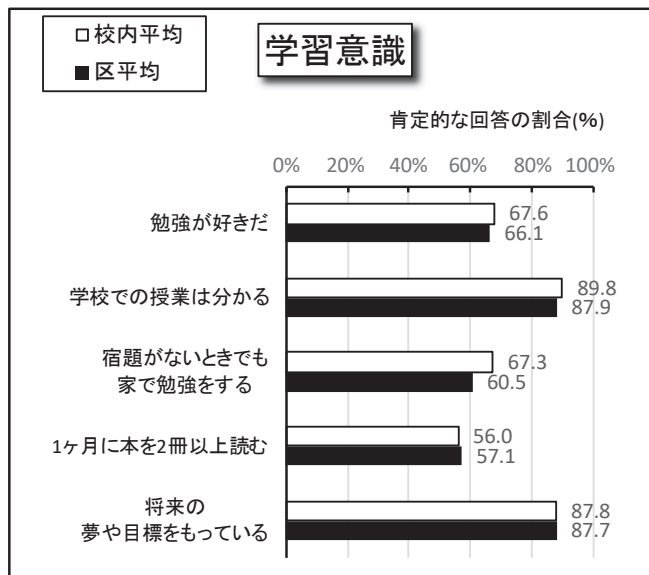
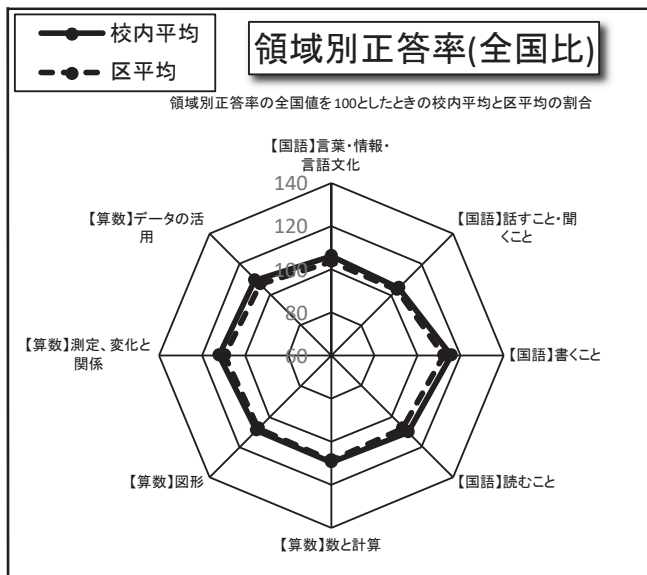
【算数】昨年度比で、通過率は0.3ポイント下降した。5、6年生が本校目標通過率の90%を超えなかったが、2、3年生は96%を超えた。算数科の研究授業を全学年で実施し、日々の授業改善を図ることで、「数学的な考え方」の向上に繋がった。習熟度別指導においても下位層の一層の引き上げを図り、全学年通過率95%以上をめざしていく。

【学習意識】全ての項目において、区平均を上回っている。毎月実施している学習がんばり週間や読書月間、年間読書目標の取り組みの成果が現れている。今後は、「勉強が好きだ」「将来の夢や目標をもっている」の項目が向上するよう授業改善を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 「ジャンプタイム」…漢字・読解問題・100マス作文を実施し書く力と読む力の向上を図る。
- 「朝のチャレンジタイム」…発声練習・マス計算を実施し表現力と計算力の向上を図る。
- 「放課後補充教室」「夏休み補充教室」など…学力調査結果を基に定着が不十分な児童の個別指導の充実を図る。
- 「学習がんばり週間」…家庭学習(15分間×学年)を実施する。
- 「そだち指導」…そだち指導員による3、4年の個別指導を実施し、基礎学力の定着を図る。
- 「読書活動の充実」…朝読書や年3回の読書月間、読書目標の設定等により本に親しむ機会を多く設ける。
- 「問題解決的な学習の充実」…算数を中心にして授業改善を図り、数学的な考え方等を一層高め、課題解決力、思考力・判断力・表現力を高める。
- 「体験的な活動の充実」…多様な体験的な活動によって、学びに向かう力を向上させ、自ら積極的に学ぶ意欲や態度を高め、将来への夢や目標を育てていく。

千寿双葉小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.9	86.3	86.7	97.3	93.5	90.9	87.0	79.2	93.3	85.3	79.5	79.5
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	84.6	86.9	94.8	97.4	82.7	90.7	93.2	94.5	75.3	69.1	77.9	84.4
平均正答率(R5)	81.2	78.3	89.5	90.2	90.2	88.4	75.8	73.1	82.3	77.6	72.1	67.8
平均正答率(R4)	76.8	79.7	92.0	95.6	80.8	85.7	80.6	83.5	66.1	69.3	70.0	69.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

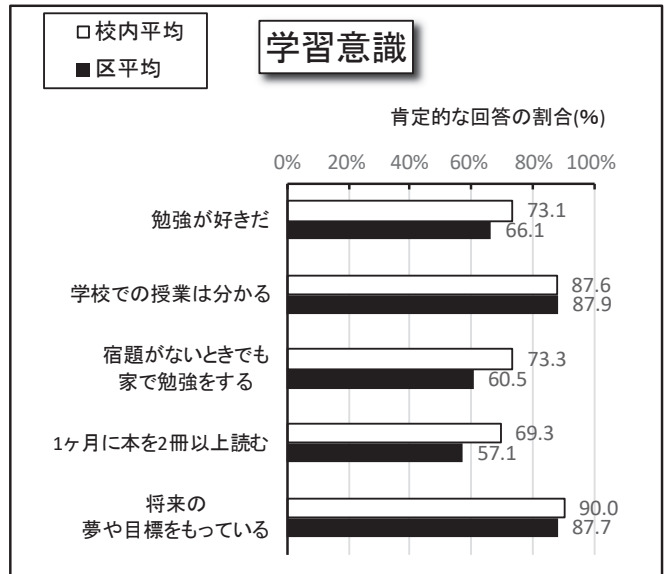
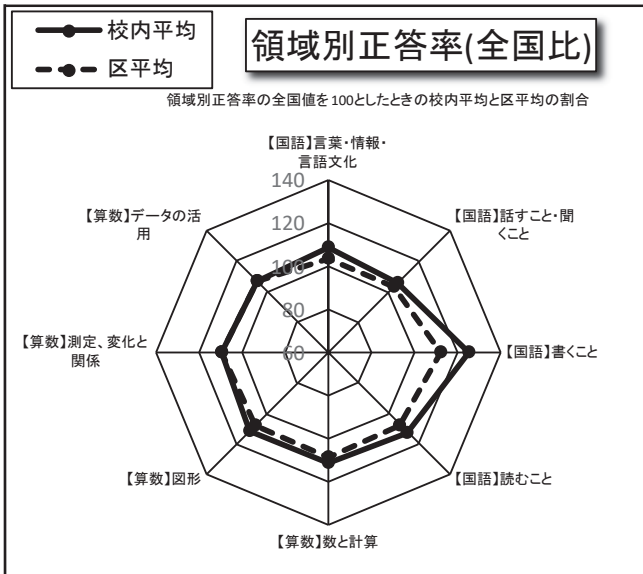
「学習定着度調査」分析結果

- 平均正答率では、国語と算数ともに区の平均をほぼ上回る。特に国語の「書くこと」は区平均より大幅に上回ることができた。昨年度から継続されている「聞き取り・書き取りチャレンジ」により書く力が定着してきていると考えられる。
- 通過率では、昨年度と比較すると、国語は3学年が上回り、2学年が下回り、算数は2学年が上回り3学年が下回った。学校全体で国語が3.3ポイント上がり、算数が0.6ポイント下がった。
- 正答率を観点別で見ると、国語は全ての観点で区の平均と同等または上回る。算数は一部を除いて殆ど上回る。これは、補習学習や朝学習において繰り返し基本的な学習を行った成果と考えられる。
- 学習意識では、4項目が区の平均および昨年度と比べて上回っている。特に、「宿題がないときでも家で勉強をする」では、区平均より6.8ポイントと大幅に上回り、「家庭学習のすずめ」による家庭学習の習慣化が定着していると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 授業改善:足立スタンダードを基盤とし、教員が同じ指導法を基本とした学習指導を実施する。
○J Tを通して、経験のある教員の講義や模範授業を見る機会を設定するなどして、教員間の授業力向上を推進していく。
- 基礎学力の定着:朝漢字、朝算数、A Iドリルなど始業前の15分間を使って学習を行う。また、児童朝会で聞いた校長講話の内容を書くことで「聞く力・書く力」の向上を図る。それぞれの朝学習の定着度を把握するために、年に3回診断を行う。
- 補充学習:国語・算数のつまずき克服のために、放課後の時間に学級担任だけでなく専科教員も含めて指導にあたる。
- 読書の日常化:週5日午後の授業前に「読書の時間」を5分間設定して実施する。
- 開かれた学校づくり協議会との連携:地域協力者や学生ボランティアによる、計算・言語事項の習熟を目的とした学習教室の寺子屋「ふたば」を実施する。

千寿本町小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	89.0	84.9	79.4	87.3	88.5	78.7	93.8	89.2	98.2	84.2	84.9	84.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	92.9	87.7	90.0	86.7	95.4	89.2	91.2	94.7	91.2	78.9	94.9	88.1
平均正答率(R5)	83.7	79.6	87.1	83.6	87.0	83.1	82.7	80.9	82.7	76.8	79.9	74.0
平均正答率(R4)	80.8	82.0	86.1	88.8	87.5	88.1	80.0	84.0	74.3	76.3	79.3	77.5

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

全国値の正答率を100としたときの校内平均の割合は、2年算数を除いて100を上回り、ほぼ良好な結果である。しかしながら、学校全体の平均正答率は算数が昨年度より下降している。学年別の通過率は、2年国語、3年算数、6年国語が昨年度を10ポイント以上下回った。

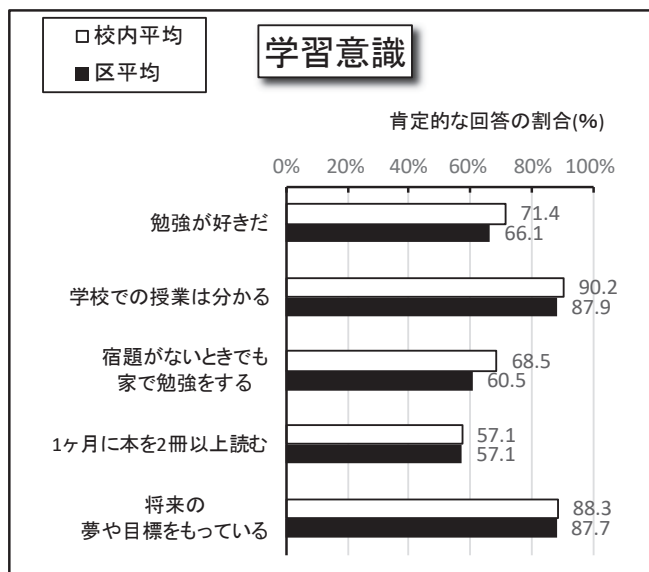
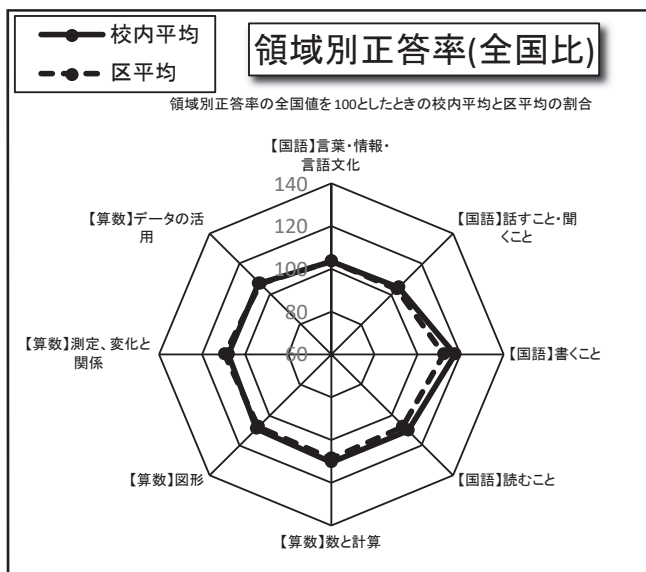
国語の領域別正答率は、「書くこと」で全国比125を上回っており良好である。「話すこと・聞くこと」については、相手の伝えたいことや言葉の意味を的確に聞き取り、さらに自分の表現に生かす取り組みが求められる。「言葉・情報・言語文化」については、既習漢字の活用や語彙の拡張について取り組みを継続する必要がある。

算数の領域別正答率は、「数と計算」「図形」では全国比110を上回っておりほぼ良好である。「測定、変化と関係」では各単位の正確な理解と単位間の関係を統合的に考察し、「データの活用」ではデータの特徴に着目して問題の結論について判断することについて習熟が必要と考える。学習意識は、家庭学習や読書の習慣は概ね身に付いている。学習への意欲については、体験を重視して興味・関心を高めるとともに、達成感を味わう指導の工夫を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全教科・領域で言語活動の充実を図るとともに、そだち指導、夏休み補習教室などとの連携により基礎学力の確実な定着を図る。
- 朝学習における漢字・計算、視写・暗唱、俳句づくりなどの取り組みで、流暢な読み、書くスピード、計算の速さ・正確さの向上を図り、記憶力・語彙力・集中力を高める。
- 朝学習や授業時間、家庭学習でのAIドリルの活用で、未理解・未習得部分の自己確認と習熟のための練習を日常化させていく。
- 「自分の考えを書く力」を伸ばすためにノート指導の充実を図るとともに、家庭学習の手引きの活用により、「自学ノート」で自主的な学習や調べ学習に取り組むよう啓発する。
- 新聞を活用したスピーチなどの学習や年4回の読書週間の設定により、文字や情報に親しむ機会を増やすとともに、読書への意欲を高める。
- 「わたしの一週間」や「生活見直し表」の取り組みを通して、家庭学習を含めた生活リズムの安定を図る。児童の努力した姿を積極的に認め励まし、一人ひとりに自信をもたせる。

竹の塚小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.4	83.1	87.5	87.9	92.7	85.4	88.6	86.4	78.2	81.8	73.3	76.1
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	84.7	86.4	84.6	97.4	88.1	88.1	89.1	87.3	80.5	75.0	80.0	84.4
平均正答率(R5)	79.5	77.0	89.0	86.1	89.8	84.2	78.2	77.8	77.3	74.9	70.4	68.6
平均正答率(R4)	75.6	80.0	85.4	92.6	85.6	86.2	76.9	83.8	63.8	71.4	70.5	70.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

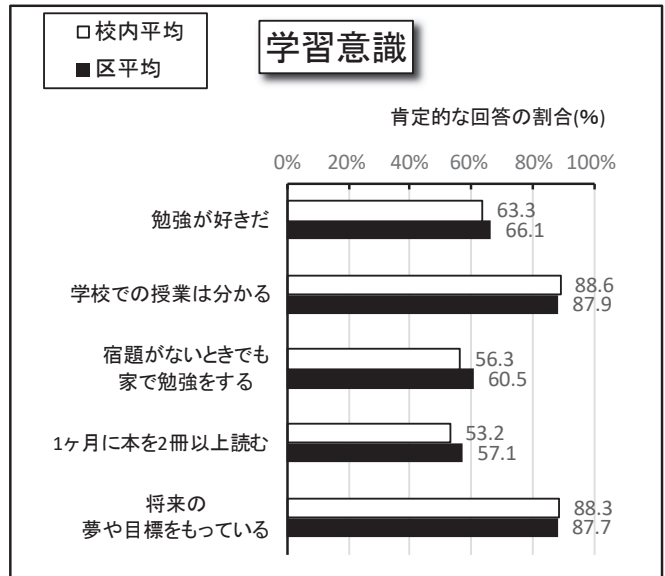
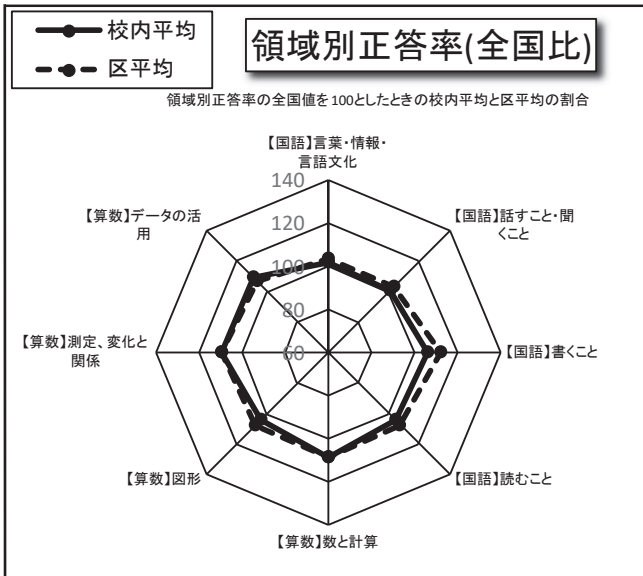
「学習定着度調査」分析結果

- 国語の通過率は83.4%、算数の通過率は83.1%であり、1年前と比べ国語は1.3ポイントの減少、算数は3.3ポイントの減少となった。どちらも80%を上回っており、学習内容の定着が図られているといえる。
- 学習意識の「勉強が好きだ」、「学校での授業は分かる」、「宿題がないときでも家で勉強をする」が区の平均を上回っており、児童の学習意識が高まっているといえる。
- 学習意識の「1ヶ月に本を2冊以上読む」が区の平均を上回った。校内の読書活動の充実により、児童の読書への意識が高まっているといえる。
- 8つの領域のうち「書く力」の向上に向けて継続的に取り組んできた。その成果もあり、区の平均を上回ることができた。また「読む力」については、読解力等の基礎的・基本的な力を示す観点であることから、「書く力」と合わせてより一層の取り組みが必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- 教師の授業改善を図る。
足立スタンダードに基づく問題解決型授業を実践する。教員相互で行う授業観察、教科指導専門員による指導の充実と活用を図る。さらに学力調査等の学力分析を通じた授業改善、児童一人ひとりの実態把握を行う。
- ICTを活用し、授業、スキル学習、放課後等時程を工夫し、補習を適切に行う。
放課後学習では、漢字や計算力等の指導内容や対象児童について計画的に行うと同時に、担任以外の教員も指導にあて、きめ細やかに個に応じた的確で分かりやすい指導に留意する。
- 読書活動を推進する。
蔵書の充実、図書委員会活動、図書ボランティアや教師による読み聞かせ、区立図書館等との連携、学級文庫の充実、読書の時間の確実な確保、校内への図書の展示、給食委員会との連携等、全校で取り組む。また、調べる学習コンクールへの参加を促す。
- 特別活動(たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動)、生活指導を充実させる。
「勉強が好きだ」の回答が年々増していることから、児童が、勉強が分かる、できるといった達成感や成就感を味わわせるため、児童が自ら目標をもって取り組む活動を充実させる。

辰沼小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.3	84.8	81.0	93.7	78.3	86.7	87.7	90.3	75.6	76.9	84.1	77.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	78.2	80.2	73.8	79.8	76.8	87.7	75.3	75.3	85.4	71.1	78.9	88.3
平均正答率(R5)	77.6	76.9	87.5	88.8	82.7	83.5	79.5	78.9	69.4	70.3	72.8	67.5
平均正答率(R4)	72.7	75.8	81.4	86.8	79.6	85.9	67.9	73.6	67.8	69.2	69.1	67.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体での目標値の通過率は昨年度と比較し、国語では約3%、算数では約5%ではあるが増加している。現6年生の国語を除く、すべての学年・科目において進級前の通過率を上回っていることや算数の「数と計算」や「データの活用」の領域が区平均をやや超えたこと、意識調査で「学校での授業が分かる」と答えている児童が昨年度から4%増えていることから、昨年度から継続して本校で実施してきた取り組みの成果が少しずつでていることが分かる。また、本校の課題として国語の「書くこと」が他の領域よりも低くなっているが、学年別の誤答分析からは以下の内容が課題としてあげられている。

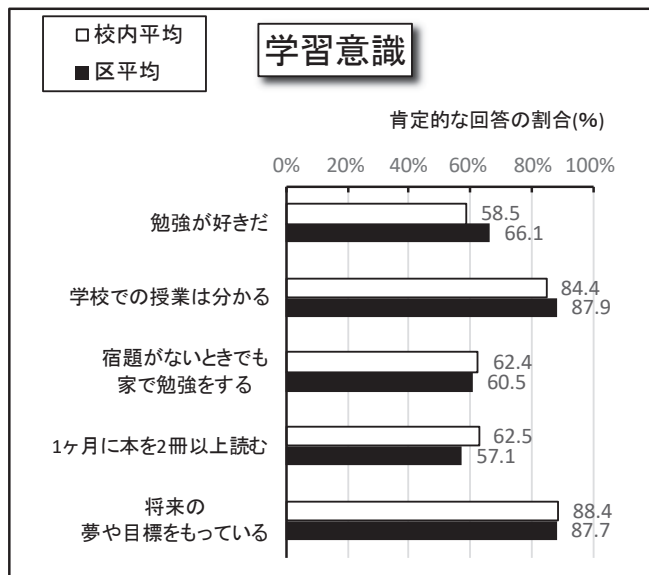
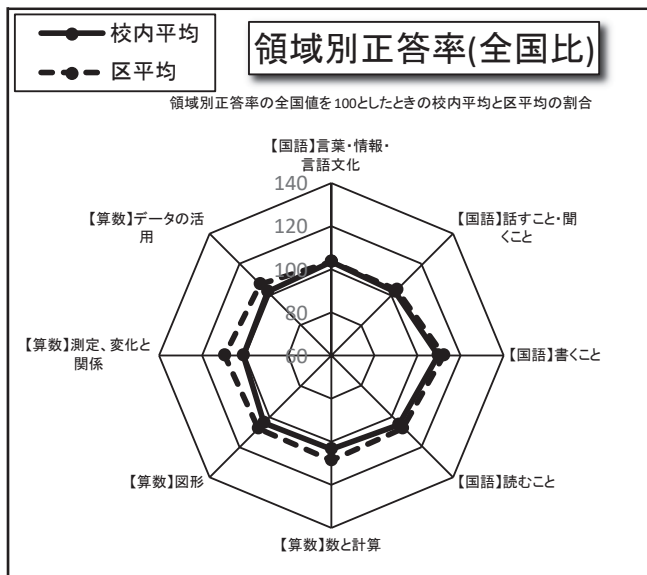
- 5・6年生「条件に合わせて書く」
- 4年生「本文からの書きぬき」
- 3年生「主語と述語」
- 2年生「本文からの書きぬき」「話の続きを書く」

以上の課題から、「書くこと」の領域の指導に重点を置き、書くための「読み」を習熟できる取り組みを継続して行うことが必要となる。

学校による学力向上への主な取り組み

本校では、学力の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの資質・能力に即して学力向上プランを立てている。現在実施している取り組みとして、「漢字・計算・音読を中心とした計画的な朝学習」「毎週のA Iドリルの算数での活用」「計算・漢字検定での基礎学力の定着」「思考力・判断力・表現力を育てるための授業改善」「放課後学習教室(辰塾)」がある。今年度の調査結果を受け、これまでの基礎的な知識・技能の向上への取り組みに加え、国語の「読む力」「書く力」の更なる育成に向け、朝学習の音読のやり方の改善や宿題の見直し、放課後学習教室(辰塾)の指導内容の精選を図り、自分の考えを文章に表したり、文章をもとに読み取ったことを書いたりするような言語活動を多く取り入れていく。

寺地小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	84.0	79.9	86.0	89.5	84.4	84.4	87.8	79.6	84.1	69.8	78.7	77.0
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	77.6	79.6	73.8	87.7	82.6	91.3	88.9	82.5	74.6	68.3	69.4	71.0
平均正答率(R5)	78.8	73.2	89.6	85.5	85.9	85.4	77.5	74.6	73.6	64.6	71.1	61.2
平均正答率(R4)	71.7	74.4	82.1	90.8	81.1	88.6	71.1	74.7	64.3	65.0	65.4	61.4

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・領域別正答率を見ると、区平均と比較して算数の平均が低い。
- ・学校全体の平均正答率を令和4年度と比較すると、国語は上回っているが算数はわずかに下回っている。なお、平均正答率を学年ごとに比較しても、算数は全ての学年で下回っている。
- ・学校全体の通過率を令和4年度と比較すると、国語、算数ともに昨年度を上回っている。ただし、通過率を学年ごとに経年比較で見ると、国語は5年生（昨年度の4年生）以外は上回っており、算数は6年生（昨年度の5年生）以外は下がっている。
- ・学習意識調査を見ると、「勉強が好きだ」「学校での授業は分かる」と感じている児童は区平均と比べて少ないものの、他の3項目は区平均を上回った。

本校の課題

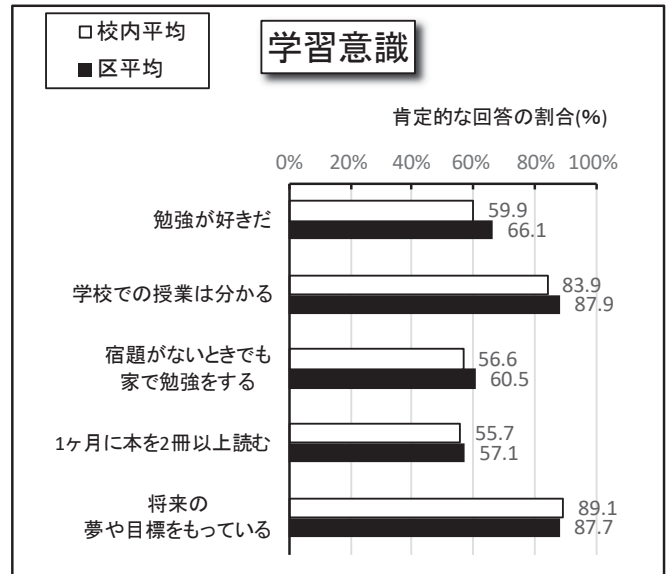
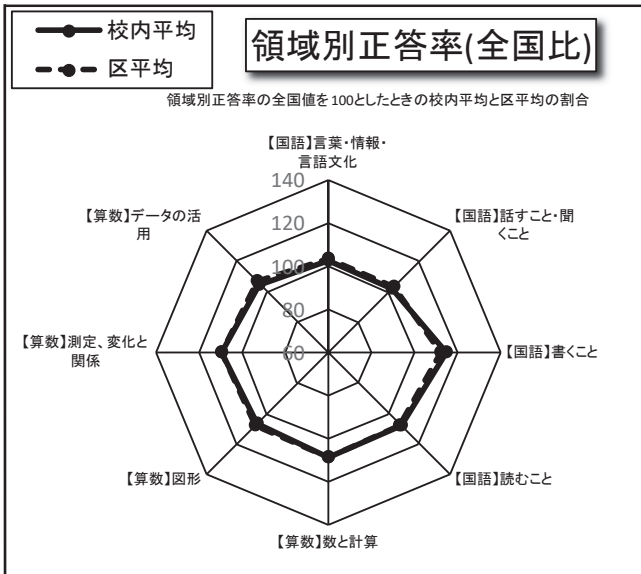
- ・算数の学習内容の定着
- ・基礎的な学習内容の定着と自ら学ぶ意欲の向上

学校による学力向上への主な取り組み

算数の基礎基本の定着を軸に、教員の授業力向上をめざす。

- ・朝学習では、算数ドリルを購入し、基礎問題に取り組む。間違い直しを徹底する。
- ・ワークテストの間違い直しを徹底して行う。
- ・家庭学習で計算ドリルやA Iドリルでの復習に取り組む。
- ・O J Tや校内研究を通し、「児童が分かる授業」を全教員が確実に行うことができるようにする。
- ・学習では振り返りを必ず行う。児童が評価基準にそって、客観的に学びの行程や身に付いた力を振り返り、次時へのめあてをもって学習する習慣を身に付けることができるようにする。

舎人小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	84.4	81.2	89.3	97.6	87.1	87.1	88.0	80.7	77.3	68.2	81.0	73.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	79.5	77.0	83.6	91.8	83.3	85.7	80.9	79.8	81.9	74.7	67.5	53.8
平均正答率(R5)	79.2	76.1	91.5	93.6	86.9	87.6	77.2	75.2	73.5	65.9	72.2	65.6
平均正答率(R4)	72.3	74.0	85.5	91.5	79.9	87.0	71.4	76.2	67.9	71.4	61.9	51.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

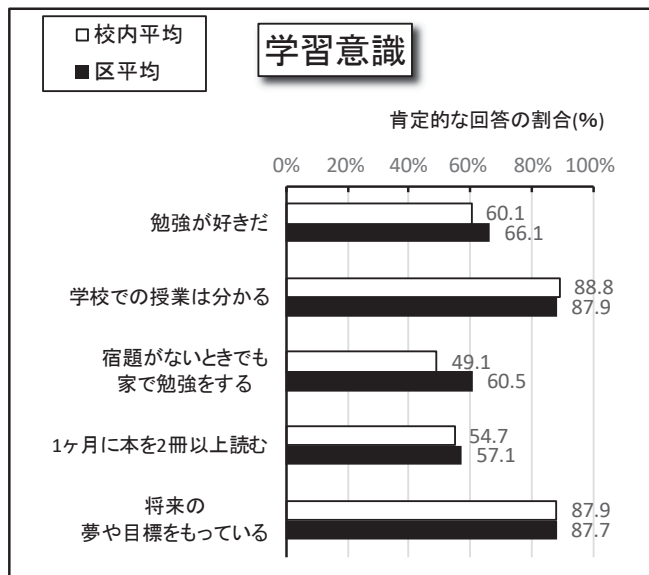
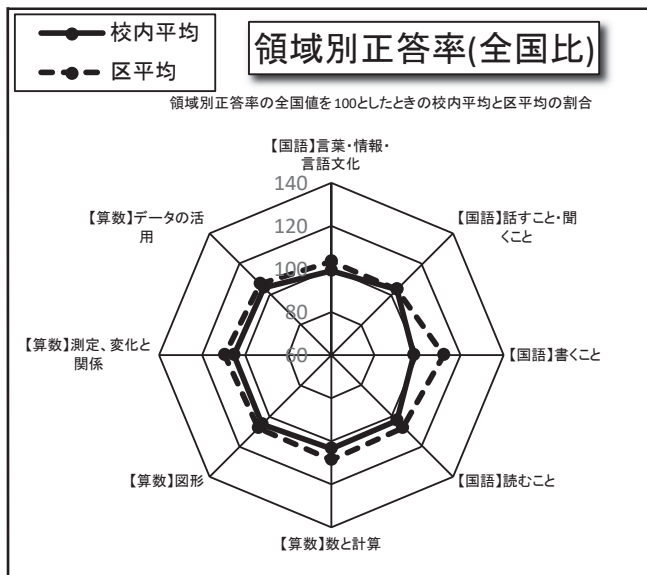
「学習定着度調査」分析結果

- ・国語:昨年度との経年比較で、平均正答率はおよそ7.0ポイント上回った。また、通過率を比較してもおよそ5.0ポイント上回っている。領域別正答率を比較すると、どの領域でも区平均とほぼ同様に位置している。
- ・算数:昨年度との経年比較で、平均正答率は2.1ポイント上回った。通過率もおよそ4.0ポイント上回っている。しかし、学年別に見ると、4、5年生の平均正答率は昨年度を下回っている。特に、大きく下回っている5年生への丁寧な指導が必要である。
- ・学習意識:「勉強が好きだ」という項目では59.9%の子どもが肯定的に回答しているが、区平均と比較しておよそ6.0ポイント下回っている。しかし、「学校での授業は分かる」という項目では肯定的な回答の割合が83.9%と高くなっている。そのため、引き続き子供たちにとって分かりやすい授業を展開するだけでなく、子供たちが主体的に学びを深める授業づくりを継続していくことで、自ら学ぶ子どもを増やす必要がある。また、学習内容の定着が難しい単元を中心に反復学習を行い、勉強が分かる楽しさに気付かせていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・「パワーアップタイム」:週に3回、区調査での正答率が低い単元を分析して作成した補強プリント及びキュービナワークブックを計画的に行うことで、基礎的学力の向上を図る。
- ・「放課後学習教室」「サマースクール」:学力調査結果を基に、つまずきの見られる子供たちへの個別指導を行う。また、AIドリルを活用して学力の定着・向上に取り組む。
- ・「反復学習」:授業中や放課後学習、家庭学習などで、つまずきが見られやすい単元や領域を計画的に復習する。また、AIドリルの5分間復習機能を活用して定着を図る。
- ・「家庭学習チェックウィーク」:年間二期に分けて一週間、家庭学習(10分間×学年+10分)の状況を調査し、家庭学習の定着と自ら学びに向かう力の育成を図る。
- ・「読書活動の充実」:1年間で高学年は5000ページ、低学年は30冊という読書目標を達成できるように、毎月子どもたちの読書量を確認し、「読む力」の育成を図る。
- ・「ICTを活用した授業の充実」:子どもたちの考えを共有したりグループで課題に取り組んだりできるように「Google for Education」を活用する。

舎人第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	77.5	78.4	84.9	97.3	89.0	86.6	75.6	78.2	73.4	67.5	64.0	62.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	80.6	81.4	90.7	94.7	90.1	84.5	73.0	79.7	63.0	67.1	86.3	80.8
平均正答率(R5)	76.4	73.8	89.5	91.0	87.7	88.3	73.9	73.9	70.6	65.5	64.7	56.3
平均正答率(R4)	72.6	75.1	90.4	92.7	82.1	84.4	67.9	72.6	58.1	64.9	69.1	65.7

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体の通過率が昨年度より国語・算数ともに下がった。その要因としては4年生以上の学力向上に向けた手立てが十分ではなかったことが挙げられる。2・3年生の通過率は8～9割であるが、4年生以上が6～7割台に下がっており、4年生以上の手立てに課題が残る。3年生から4年生への学習の移行、具体から抽象への移行に対して、丁寧な学習指導が必要であることが分かる。

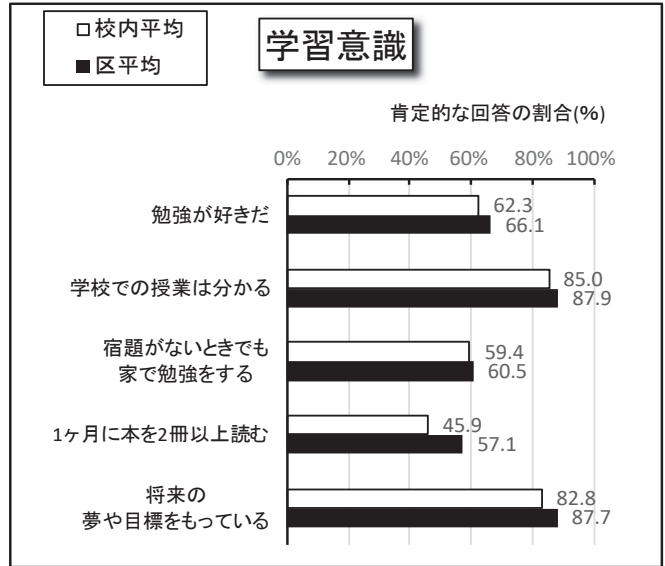
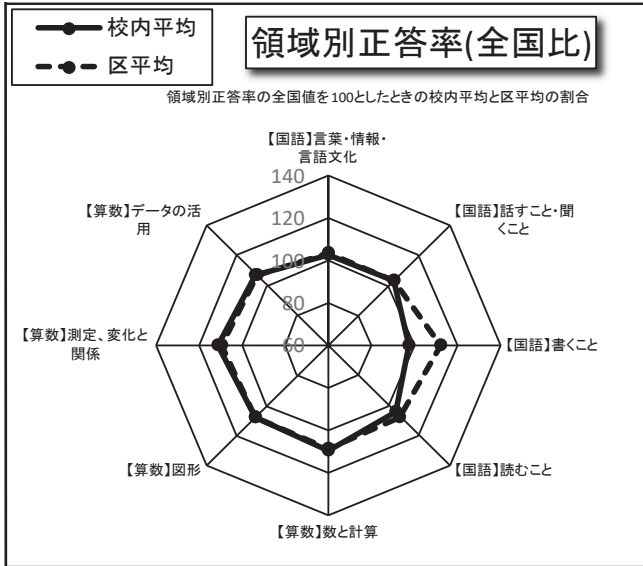
学年別に見ていくと、6年生の通過率6割という数値は課題であり、昨年度中に有効な手立てが打てなかったことは反省すべき点である。5年生(昨年度の4年生)も、算数の通過率が79.7%から67.5%と12.2ポイント下がり、算数のつまずきに対して手立てが打てていなかったことが分かる。4年生(昨年度の3年生)も国語の通過率が90.1%から75.6%と14.5ポイントも下がっている。「領域別正答率」を教科別に見てみると、区平均に比べ「国語」の「書くこと」が弱いことが分かり、「書くこと」に対する補教が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

本校の特徴として、学習意識調査で「学校での授業は分かる」と「将来の夢や目標を持っている」という項目が区平均より高い。これは、本校の児童が素直で、学校の授業や将来に対して前向きな姿勢であることが分かる。

昨年度、学力向上の取り組みとして、それぞれの授業の始まりに5分間の「基礎・基本タイム」を取り入れ、前時までの学習の確認をしてから新しい学習へ入るよう試みた。しかし、今年度の調査で好転していない。今後は、AIドリルを授業の始め、あるいは終わりの5分に取り入れ、学習内容が本当に子どもたちに理解されているかの「確認」を確実にしていく。AIドリルで「確認」する理由としては、即時性があり、その場でできていない子どもに対して、教員が指導に入ることができる。また、AIなので、不正解であった場合、更なる類似の追加問題が出ることにより、補強できる良さがあるからである。また、これまでは「基礎・基本」に限って取り組んでいたが、それだけでは学力調査全体に対応することができないことが分かった。応用問題に対しても、その場で考えられる「見方・考え方」までも含めた学力向上に向き合わなければならない。

中川小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	80.3	85.9	67.4	97.7	86.7	84.4	87.7	93.0	85.2	81.5	72.7	75.0
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	75.8	78.3	85.0	85.0	85.0	83.3	89.1	89.1	64.8	53.7	60.3	80.9
平均正答率(R5)	77.5	77.2	82.7	88.0	86.5	85.0	80.9	78.5	74.8	74.0	68.2	67.7
平均正答率(R4)	70.7	73.9	84.3	89.5	83.1	86.7	76.2	81.5	59.6	61.8	60.4	61.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】

学校全体の通過率が80.3%と昨年比5ポイント程度上がった。経年変化で見ると3～6年生は同等あるいは上昇傾向にあるが2年生の通過率は低い。さらに「書くこと」においては区平均を下回っている。そのことから読解力と表現力に課題があることがわかる。全学級が足立スタンダードに則った授業を行い自己解決・交流・全体共有の時間を確保する。

【算数】

学校全体の通過率が85.9%と昨年比8ポイント程度上がった。経年変化で見ると3～6年生は同等あるいは上昇傾向にある。しかし6年生では数・平均の単元で、5年生では図形で多くの児童につまずきがみられる。放課後補充で個別指導を行う。

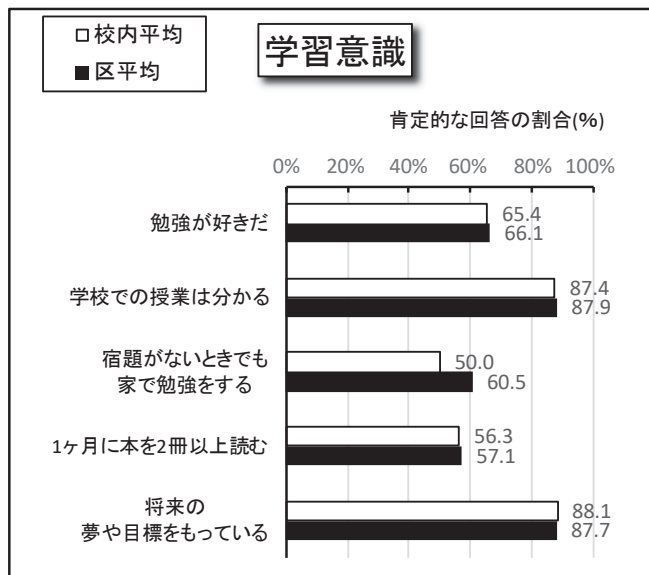
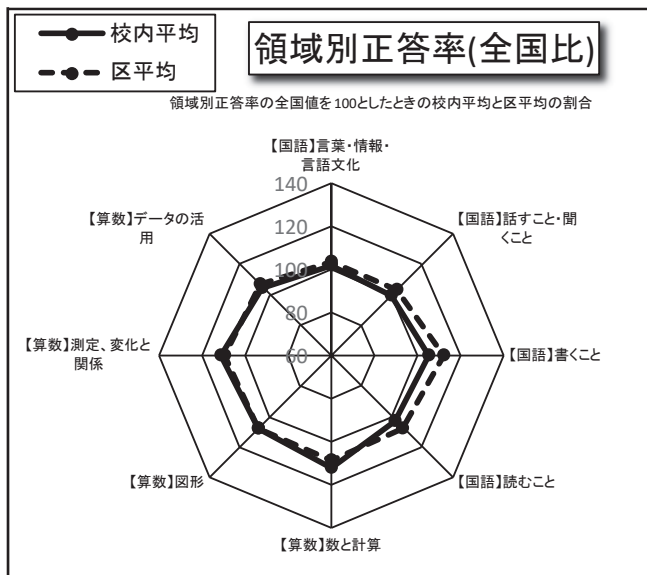
【意識調査】

「1ヶ月に本を2冊以上読む」という項目が区平均より大きく下回っている。今年度より朝学の時間に読書の日を設けている。児童が本を身近に感じられるように日々の学習活動の中で読ませるようにしていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学…読解・計算・漢字の基礎学習を行う。
- ・補充学習(放課後・長期休業)…児童のつまずきにポイントを絞った個別指導を行う。
- ・漢字キング…前期は前学年、後期は現学年の漢字プリントで検定を行い合格者は表彰する。
- ・読書…読書時間の設置。図書委員会の児童や図書ボランティアによる読み聞かせを行う。
- ・マスプリント…15・30・50字のマスプリント作成。4教科で活用する。
- ・ニュース見つけた…要約する、自分の考えをまとめることをねらいとして、新聞の興味ある記事を選び、内容と自分の意見をまとめる。(高学年)
- ・自主学习…1年生後期からノート1ページに、自分で内容を決め取り組む。(週4回程度)
- ・校内研究…「表現を高める指導法の工夫～書くことの学習を通して～」をテーマに年4回の研究授業を行い、表現力を育てるための授業展開や指導方法を研究する。
- ・共通理解…授業規律や板書などを足立スタンダードを基に共通理解する。

中川北小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	80.0	86.3	81.0	93.7	82.2	82.2	83.3	90.0	79.4	85.7	74.7	80.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	77.4	82.0	78.9	90.1	81.3	82.8	81.3	85.9	70.0	76.3	77.5	76.1
平均正答率(R5)	77.2	78.7	86.4	89.5	83.9	85.4	77.0	78.8	72.3	74.5	69.0	68.1
平均正答率(R4)	69.6	75.3	81.6	91.6	77.2	81.6	67.6	77.4	63.0	70.4	63.6	61.7

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

学校全体の国語と算数の通過率は前年度よりそれぞれ、+2.6ポイント、+4.3ポイント上がり、学習定着度は改善が見られたと考えられる。特に、3ポイント以上上がったのは、2年の算数で+3.6ポイント、4年の算数で+4.1ポイント、5年の国語と算数は共に+9.4ポイント、6年の算数で+4.2ポイントである。

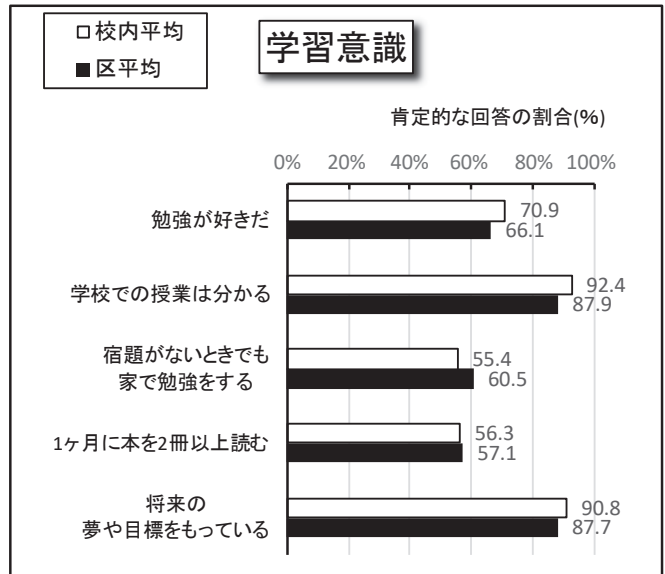
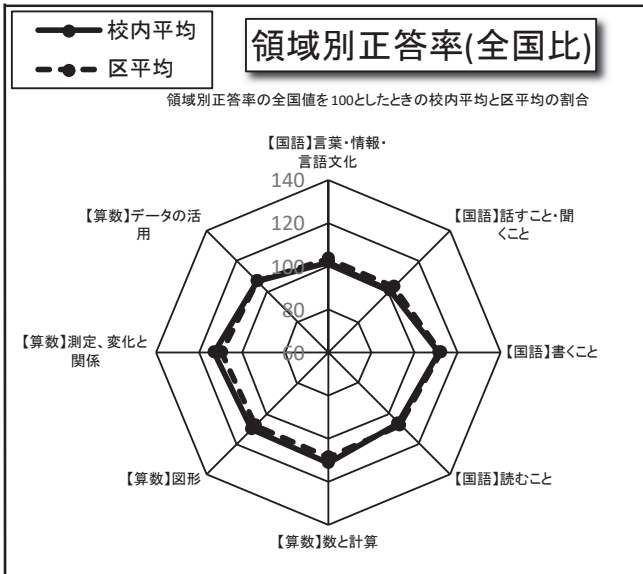
領域別正答率で見ると、算数の数と計算・測定、変化と関係の2領域で区平均を上回っているため、基礎的な知識は定着していると考えられる。一方、国語の領域別正答率は、全ての領域において、区平均を下回っている。全学年の平均正答率は昨年度よりも上回り、学校全体で+7.6ポイントだったが、十分に学習が定着しているとは言えない。特に、読むこと、書くことの2領域は、区平均を大幅に下回っているため、音読や読み取り問題の取り組み方を工夫したり、読書内容や読書量を意識させる取り組み等改善が必要である。

学習意識調査によると、90%近い児童が、授業は分かると答えている。練習問題や振り返りの時間を確保するとともに、繰り返し問題に取り組みせ、定着させることが課題である。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・朝学習の時間を15分、週4回設定し、月・火曜日は計算、木・金曜日は漢字の学習を行っている。内容は、学力調査の結果から正答率の低い学習内容を抽出し、その学習内容を補習するためのプリントや学力調査で毎年扱われる問題に関する内容である。その他に、算数のワークテストで正答率が低い問題の復習プリントを用意し、朝学習で再度、問題の解き方を解説し、練習問題に取り組む活動を行っている。
- ・低学年では、繰り上がり、繰り下がり、繰り下がりの計算を素早く行うため、10の合成、分解の暗唱を行う。行事が終わった後の振り返りや1週間のできごとを作文に書かせ、書く経験を増やす。
- ・中学年では、自分の考えをもたせる指導で、例示や友達の考えを参考にし、自分の考えに近いものを選び、自分の意見を付けたしながら書く活動を積み重ねていく。
- ・高学年では、他教科と関連性をもたせて指導する。算数の「データの活用」の正答率が低いので、社会科の資料を読み取る学習など積極的に取り入れていく。読み取ったことを言語化する活動を行う。

中川東小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.3	89.3	82.6	95.7	87.2	91.5	93.2	100.0	76.1	76.1	78.4	84.3
目標値(R4)			69.2	77.2	-	-	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	80.4	89.5	84.8	97.8	-	-	82.6	91.3	87.0	89.1	65.8	78.9
平均正答率(R5)	77.8	78.7	88.1	91.0	86.4	85.8	82.4	83.5	66.7	65.9	70.5	71.5
平均正答率(R4)	70.7	76.7	84.4	96.0	-	-	67.9	79.4	69.6	76.9	61.1	57.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【意識調査】「勉強が好きだ」と回答する児童が前年度同様7割を超えた。しかしながら、「宿題がないときでも家で勉強をする」という項目については昨年度より7ポイント減少し、さらには区平均を下回っている。読書も同様の傾向が見られた。自主学習に力を注いできた本校としては、課題の設定方法の指導や学ぶ意欲の向上を目指し検討を行う必要がある。

【国語】学校全体での目標値の通過率が83.3%となり、昨年度超えた8割の壁を今年度も越えることができた。加えて3ポイント増である。確実に力が付いてきたと確信している。昨年度は「書くこと」の領域において、区平均を10ポイント程度下回っていたが、今年度はほぼ同ポイントである。AIドリルと並行して「書く」ということを大切にしてきた成果である。

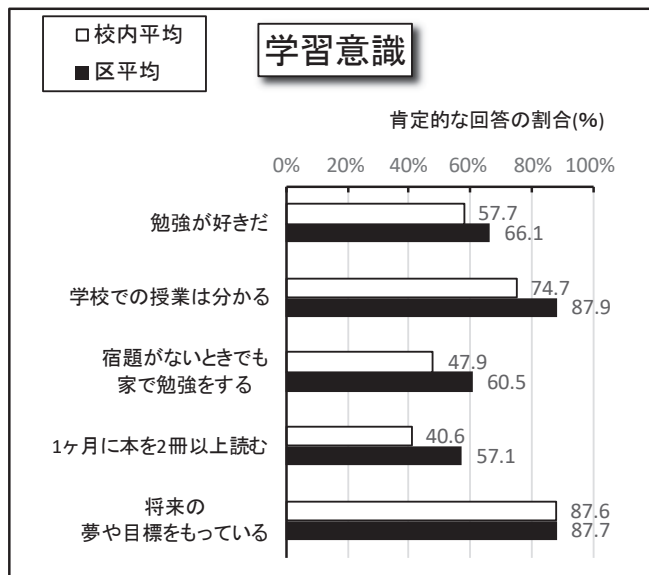
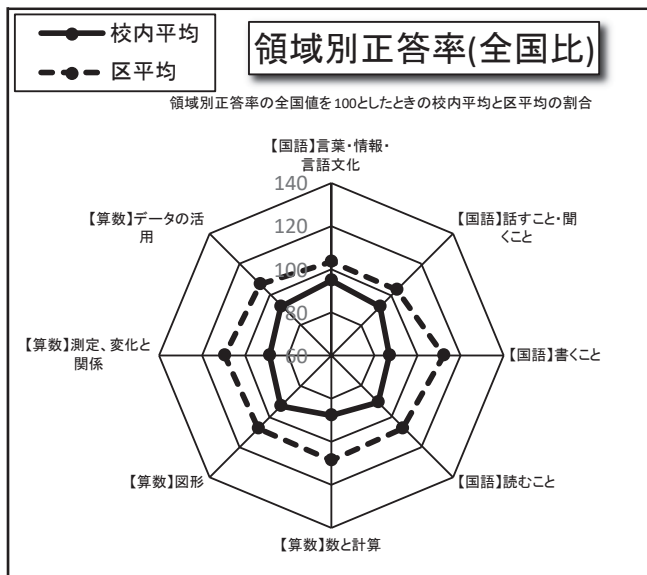
【算数】学校全体での目標値の通過率が89.3%となり、昨年度とほぼ同ポイントである。全児童の9割近くに基礎的な学習内容が定着しているという結果は大きな成果である。これは習熟度別によって分けられた少人数指導が実を結んでいる。サマースクール、花丸教室による個に応じた指導の機会も十分に確保できている。この結果に満足せず検討を重ねていく。

学校による学力向上への主な取り組み

【基礎学力定着に向けた学力向上施策】

- ①パワーアップタイム(国・算・読) 週3日 朝 8:20～8:35 15分間
- ②花丸教室(放課後補習教室) 週2日 放課後 15:15～15:45 30分間
→ 区学力調査や単元テストのポートフォリオを活用 未習熟の児童を抽出して実施
- ③がんばろう家庭学習週間(家庭との連携) 毎月1回 宿題+自主学習の推進
- ④読書月間 年3回(6月・10月・2月)
- ⑤ICT機器を活用したオンライン学習
→ AIドリル・デジタルMIM・キーボー島などの学習ツールを活用
- ⑥サマースクール(夏季補習教室) 土日を除く10日間 各学年60分
→ 区学力調査で目標値に達しなかった児童を対象に実施 全教員体制で実施
- ⑦「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加推奨(3～6年生)

中島根小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	65.5	58.6	60.5	88.4	74.4	69.8	74.4	60.0	72.1	49.2	49.2	37.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	69.0	69.2	80.5	87.8	69.8	69.8	67.2	65.6	54.7	52.8	75.9	74.5
平均正答率(R5)	68.9	61.3	79.1	84.4	82.4	78.3	70.9	63.4	66.2	56.0	57.0	42.2
平均正答率(R4)	66.9	67.4	82.3	90.4	74.8	78.7	64.7	65.5	55.0	59.1	66.3	56.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語は、学校全体の通過率が3.5ポイント下がったが平均正答率は2.0ポイント上がった。特に、6年生は、令和4年度の平均正答率と比べ9.3ポイント以上下回っており、その中で「書くこと」の正答率が区平均を大きく下回っている。

算数は、学校全体の通過率が10.6ポイント下がった。また平均正答率も6.1ポイント下がった。特に6年生は、令和4年度の正答率と比べ、14.1ポイント下回っており、課題が見られる。

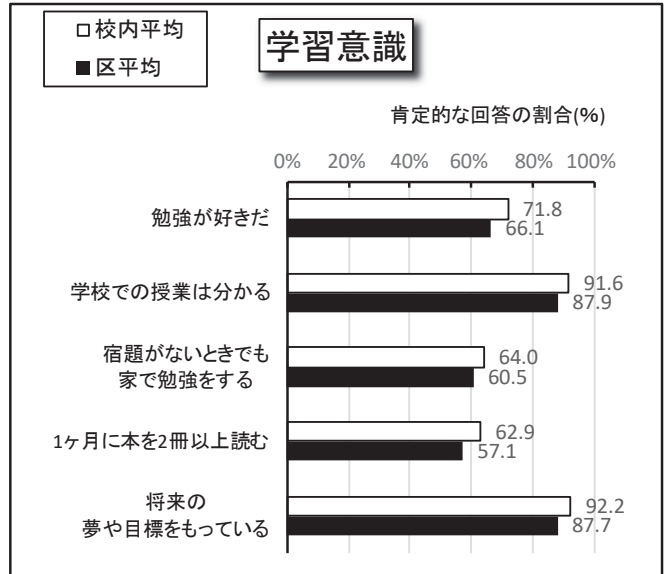
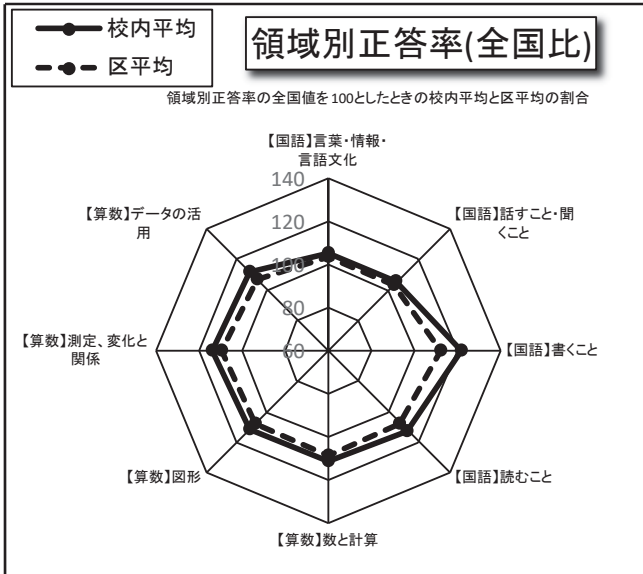
領域別正答率は、全ての領域で区平均を下回っている。

学習意識に関しては、全ての項目で区平均を下回っている。特に「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目では、16.5ポイント下回っており、本を読む習慣が身に付いていない児童が多いことがわかる。「勉強が好きだ」の項目も区平均を下回り、学習自体に苦手意識を持つ児童が多いことがわかる。また、「宿題がないときでも家で勉強をする」の項目も12.6ポイント下回っており、進んで学ぼうとする意識が低いことがわかる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・授業力向上…年間を通して、教科指導専門員による授業観察を行い、国語と算数の授業改善を行っている。特に授業の流れを学校全体で統一して、児童に学びやすい学習スタイルにするなど工夫している。また、校内研究では、各教員が学級の児童の実態に応じた課題を設定し、それに対する取り組みを年間を通して実施することで、指導技術の向上を図っている。また、小中連携研修により、各教科において系統だった指導法の追及を行うことを通じて、指導力の向上を行っている。
- ・補習教室の充実…放課後の補習教室(ハッピータイム)では、区学力調査や単元ごとのワークテストの結果を基に抽出した児童に補習教室を行っている。指導時間を30分間とし、指導体制は全教員で行い、定着の弱い学習事項を中心に学習に取り組んでいる。夏季休業などの長期休業中のサマースクールでも抽出児童を対象に基礎的・基本的な学力の定着を目標に45分×10回の補習を行い、学力の向上を図っている。

長門小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.6	87.6	78.6	88.1	95.0	100.0	84.2	81.6	78.0	73.2	91.7	93.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	89.0	90.5	94.6	94.7	91.9	97.3	83.3	90.5	89.6	83.3	86.1	88.9
平均正答率(R5)	82.1	79.9	88.2	87.3	93.3	91.9	77.7	78.0	75.5	69.6	78.6	76.6
平均正答率(R4)	77.8	84.1	88.3	94.4	86.0	91.9	73.4	80.7	73.4	80.6	72.5	77.0

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は82.1ポイントで、前年度よりも4.3ポイント上がっているが、通過率は85.6ポイントで前年度比-3.4ポイントである。2年生・5年生は通過率が80ポイントに届かなかった。未定着領域の洗い出しを行い、児童の実態を再度把握し指導・改善が必要である。

■全学年で「知識技能」の定着を図り、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域の学習の充実を図る。

【算数】学校全体の通過率は87.6ポイントであるが、前年度よりも-2.9ポイントである。4年生・5年生の通過率が前年度よりも10ポイント程度下がっていることから、中学年での指導領域について指導の見直し、復習等が必要である。

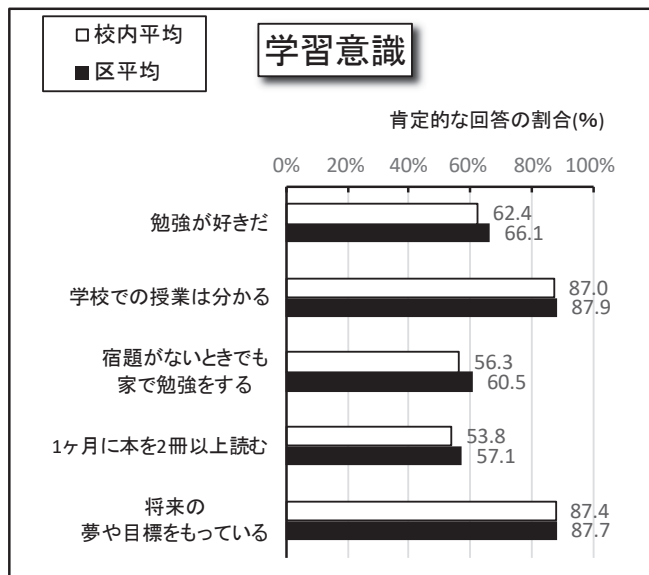
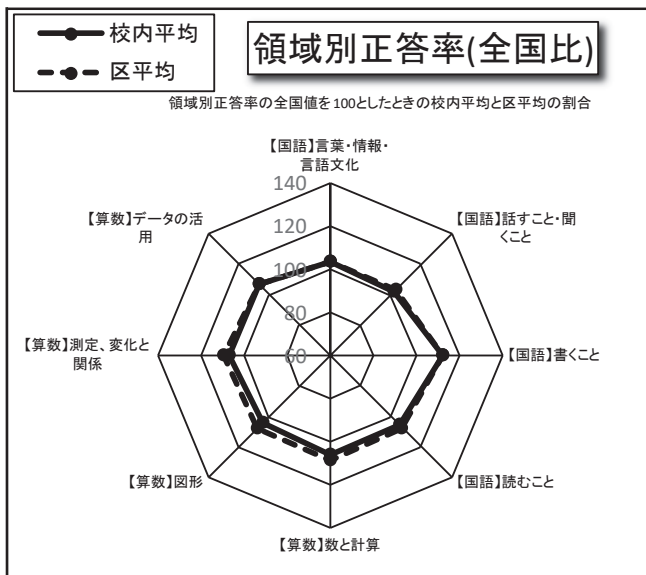
■学校全体として、どの領域も平均正答率が下がっていることから、基礎基本の定着度合いを調査し、指導法改善に繋げていく必要がある。

【意識調査】「学校での授業は分かる」の肯定的回答が90%を超えている。これは、「分かる授業」を目指して授業改善に取り組んできた結果であると考えられる。また「将来の夢や目標を持っている」の項目も90%を超えた。今後も継続して、キャリア教育の充実も図っていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◇授業力向上: 教科指導専門指導員の指導、校内OJTを通して教員一人ひとりの授業力向上に努める。また、基礎基本の定着と読解力の向上を図るため、全校で授業改善に取り組む。
- ◇基礎基本の定着と個別指導の充実: MIMの結果、学力調査の結果分析より児童の実態を的確に把握し、意図的計画的に補充学習を実施する。また、そだち指導とも連携を図り、中学年でのつまずきの解消ができるよう日々の授業改善に努める。AIドリルにおいて児童の実態に合わせたワークブックを作成し、課題に取り組ませることで効果的な支援を行う。
- ◇読書指導の充実: 読書パスポートを作成し読書への意欲を高めるとともに、朝読書の時間を設定し、月に1度は全教職員の読み聞かせ指導を行い読書に親しませ、語彙力、読解力を高めていく。

西新井小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	83.0	81.1	86.3	92.5	83.8	82.5	88.5	82.1	84.3	69.9	74.2	79.4
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	84.6	81.8	83.3	91.0	86.1	82.3	84.1	74.4	81.7	72.0	87.8	90.0
平均正答率(R5)	78.3	75.2	88.9	89.1	84.9	82.8	78.0	73.9	75.5	70.3	70.2	66.2
平均正答率(R4)	73.1	76.4	82.4	89.1	81.2	84.0	70.4	74.0	65.2	68.2	70.9	72.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

「学習定着度調査」分析結果

・国語科

学校全体では、平均正答率が前年比で5.2ポイント上昇したが、通過率では1.6ポイント低下した。特に6年生では、通過率が前年比で13.6ポイント低下している。区の平均値を下回った学年では、漢字や主語と述語、熟語の構成など、主に言語事項に関する設問の正答率が低い。一方で、書くことや読むことに関する正答率は区の平均とほぼ同値であり、現在の指導の取り組みを継続することが望まれる。

・算数科

学校全体では、平均正答率が前年比で1.2ポイント低下、通過率は0.7ポイント低下した。特に6年生では、通過率が前年比で10.6ポイント低下している。正答率、通過率ともに区の平均とほぼ同値であるが、図形や測定、変化と関係の領域がやや低く、課題である。一方で、データの活用や数と計算においては、朝学習やA Iドリルを活用した学習などの成果が見られる。今度も継続して取り組むことが望まれる。

学校による学力向上への主な取り組み

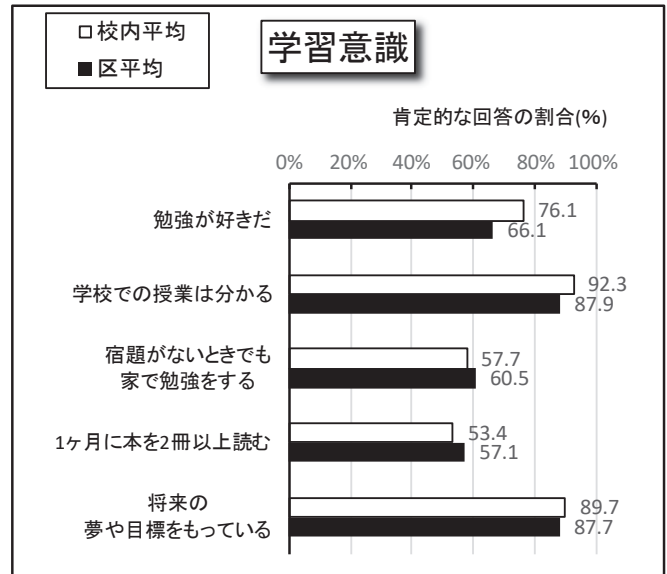
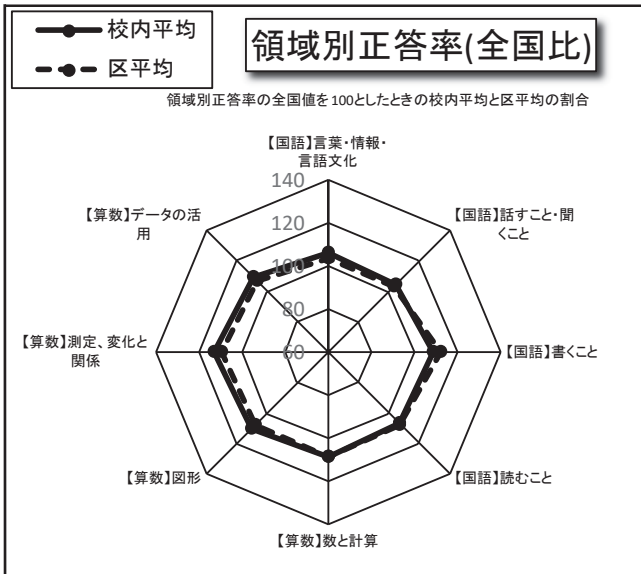
・国語科

各学年で学習する漢字を児童が確実に習得するように、毎週1回の朝学習の時間を活用して、学校全体で漢字学習に共通して取り組む。また、言語事項に関する知識の定着を図るために、A Iドリルを活用した問題演習に取り組む。これまでも取り組んできたN I E(新聞活用学習)や児童によるプレゼンテーション(発表)の機会の充実も継続し、国語科全体の学力向上を目指す。

・算数科

課題となっている図形や測定の領域は、苦手とする児童に対して、一対一の対面でフォローをする必要がある。そのため、放課後やサマースクールにおいて少人数指導の場面を設け、つまづきの解消を図る。また、児童の思考力を高めるために、授業では児童による問題解決の時間を十分に確保するとともに、児童同士の学び合いの機会を多く設定する。また、A Iドリルを活用した知識技能の定着の取り組みも引き続き行う。

西新井第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.3	87.9	76.8	92.9	89.4	91.5	91.8	93.9	83.1	72.9	87.1	90.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	78.8	85.5	84.1	93.2	85.7	93.9	84.7	81.4	75.4	80.0	68.2	83.3
平均正答率(R5)	79.8	78.1	84.8	88.3	90.5	88.0	80.1	79.9	74.6	67.4	74.3	73.1
平均正答率(R4)	71.7	77.7	84.7	93.4	81.7	88.5	74.3	77.8	65.5	74.0	63.1	66.5

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

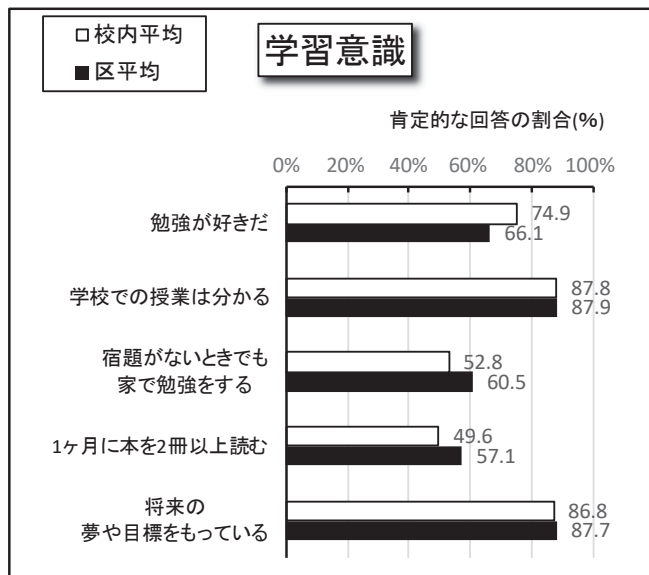
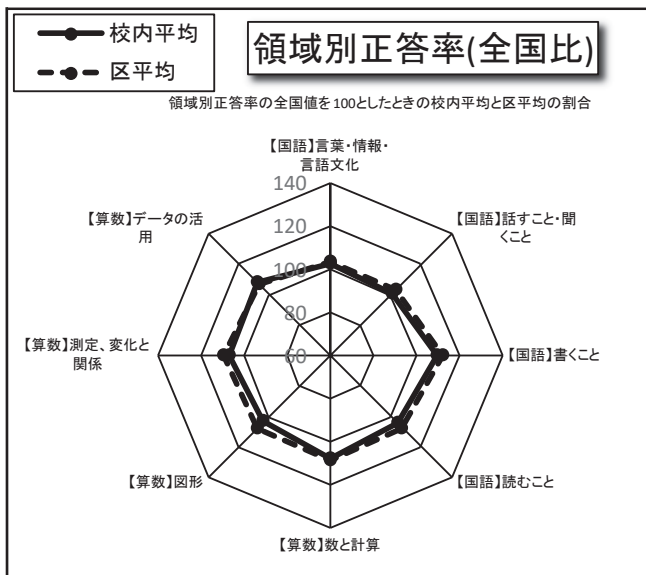
「学習定着度調査」分析結果

- 国語: 昨年度と比較すると正答率が8.1ポイント、通過率が6.5ポイント上回っている。学校全体では、多少の増減があるものの全体的に学力が定着してきたと考えられる。全体的に「思考・判断・表現」の領域の「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。
- 算数: 昨年度と比較すると正答率が0.4ポイント、通過率が2.4ポイント上回っている。5年生以外は9割の児童が目標値を通過し、学校全体で基礎学力が定着してきている。5年生は前年度より通過率、正答率共に低下が見られるので、継続して個に応じた指導が必要である。具体的には国語の語彙力の習得のため各単元の前には辞書で意味調べを行う。算数は各単元のテスト前に必ず復習の時間をとり、学力の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝の時間帯を使い、「A Iドリルタイム」(漢字・計算・読書・読解)を行うと共に、個の課題に応じて苦手な単元を復習したり前学年の問題に取り組んだりする。
- 毎週水曜日の5校時を「西一タイム」と位置づけ、当該学年の国語・算数の復習を継続的に行う。下位層の児童を専科教員が取り出し児童を指導する。
- 1～3年生は、金曜日の放課後、4～6年生は火曜日の放課後に「放課後学習タイム」を行う。当該学年もしくは前学年までの既習事項で理解が不十分な内容を担任、専科、管理職が協力して西一タイム同様に指導し、基礎基本の定着を図る。
- 夏季休業期間に「サマースクール」を10日間実施し学力に課題のある児童を指導し、基礎基本の定着を図る。
- 過去の調査問題を活用するなどして、12月、2月、4月に児童の学力定着度を調べるとともに、次なる課題解決に向けて取り組む。
- S P表をもとに各担任、算数担当が授業改善プランを作成し、データをもとに実態に合わせた授業を行う。

西新井第二小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.5	82.3	81.0	94.8	92.5	77.5	73.6	73.6	81.7	81.7	81.7	81.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.2	86.4	92.3	100.0	73.5	77.6	81.4	86.4	85.2	88.5	73.8	81.0
平均正答率(R5)	77.7	75.8	88.6	91.6	85.5	83.5	70.4	70.1	76.5	70.1	72.3	69.6
平均正答率(R4)	72.8	77.7	86.0	93.1	77.8	82.9	71.6	77.8	69.4	75.1	64.8	65.1

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語について昨年度比で学校全体の通過率は0.3ポイント向上した。しかし学年別でみると3年生、6年生のみが上昇し、他の学年は下降している。中でも、「書くこと」が複数学年で下回っているのが、継続的な取り組みが必要である。

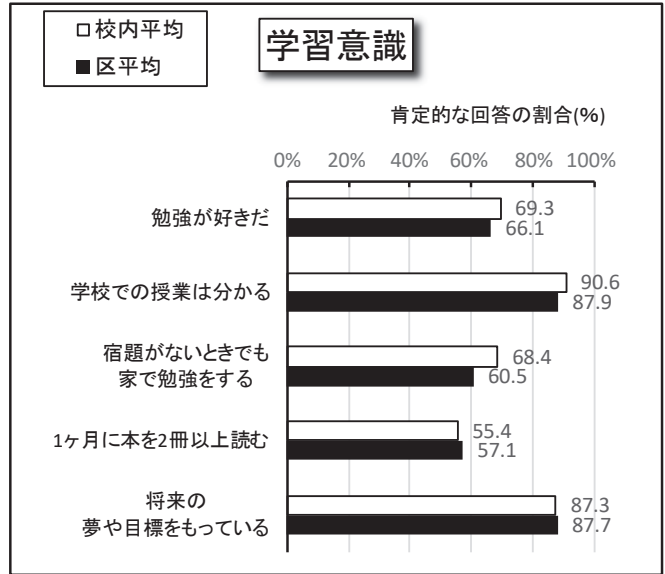
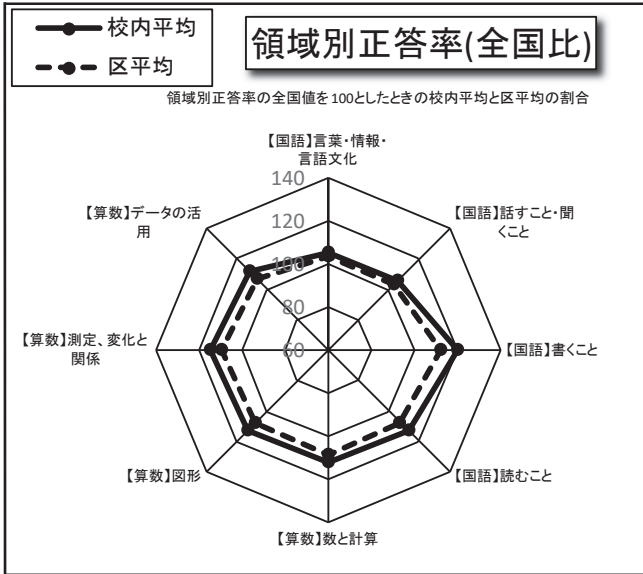
算数については昨年度比で学校全体の通過率は4.1ポイント下回った。どの学年も「図形」単元(平面・立体問わず)の通過率が低い。具体物を用いて、筋道を立てて考える力の育成を目指す。また、実態に応じてA Iドリルを活用し、一人ひとりの学び方に応じた方法で弱点を克服していく。

学習意識について「勉強が好きだ」に関しては区平均を超えており、子どもたちがさらに「勉強好き」になるよう、教員が授業改善を進めていく。一方で、「本を2冊以上読む」の数値が低いので、図書館利活用推進校として読書のさまざまな手立てを講じ、充実をめざす。

学校による学力向上への主な取り組み

- ・ 足立スタンダードを軸に何よりもわかる授業づくりに向けた教員の研さんを推進する。
- ・ 校内研究「進んで自分の考えを表現する児童の育成」をテーマに、年間4本の研究授業を行い、「書くこと」に重点を置いた授業展開や指導方法を研究する。
- ・ 図書利活用推進校として読書活動や調べ学習に適した図書館教育の推進。
- ・ 開かれた学校づくり協議会やPTAとの連携による漢字検定の取り組み。
- ・ 視点を明確にした、少人数(3人)による話し合い活動の取り組み。
- ・ 各家庭に「家庭学習のススメ」を配付し、家庭学習の習慣化を図っている。
- ・ 年間3回の「東京ベーシック週間」を設け、診断テストの定着率80%を目指す。
- ・ 週2回の朝学習の時間で漢字ドリルやA Iドリルに取り組む。
- ・ キャリア教育の充実を図り、将来への夢や目標を育むとともに、体験的な活動の充実を図る。

西伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	90.0	90.7	89.7	96.9	91.3	93.3	91.8	89.0	86.0	78.5	92.3	96.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.2	90.7	82.5	96.1	91.7	88.9	91.4	91.4	78.1	84.4	81.8	89.8
平均正答率(R5)	82.9	81.4	91.2	92.2	89.2	87.1	81.2	78.6	76.1	72.1	76.0	76.4
平均正答率(R4)	76.9	82.1	86.2	92.5	83.5	88.3	75.9	82.3	69.5	77.3	70.4	71.5

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

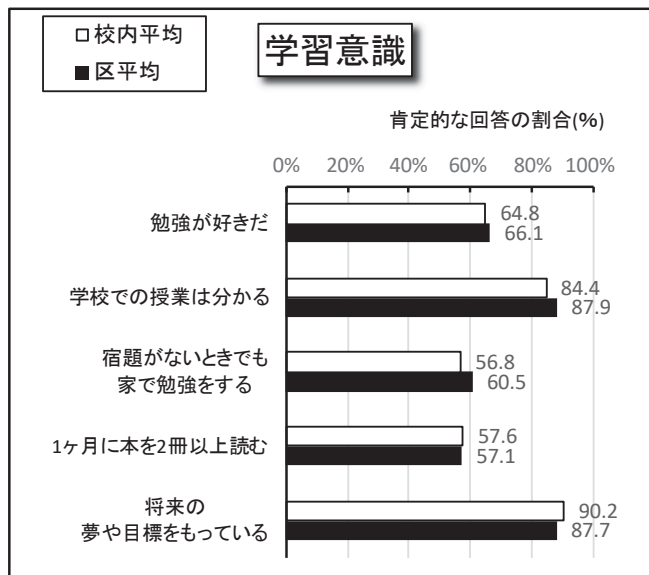
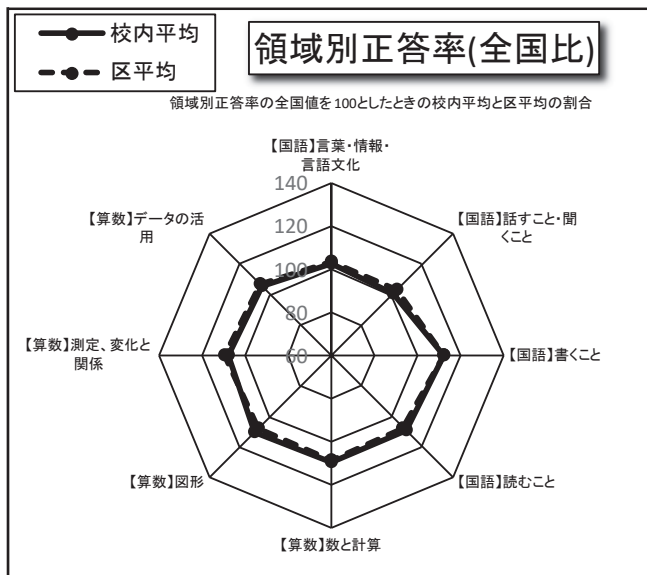
「学習定着度調査」分析結果

学校全体の平均正答率において、国語は6ポイント上がり、算数は0.7ポイント下がった。本校の児童は、ICT機器の操作により調べ学習がスムーズになってきた。しかし、ICT機器に頼っている傾向があり、「友達や家の人の意見を聞く力、その人の考えや気持ちを受け止めようとする力、日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとすることなどの自分で考えたり学んだりする力」が課題であると考えられる。また、思考力・判断力・表現力等の問題に関しては正答率が低い。やることが明確になったらやり遂げる児童は非常に多い。学習意識調査の結果、「学校の先生が出した宿題をきちんとやりとげている」という項目が区平均以上である。しかし、きちんと完璧にやり遂げたいという気持ちから少しでもわからないところがあると白紙で解答する児童が見られる。

学校による学力向上への主な取り組み

- ①朝自習や家庭学習の充実を図り、一単位時間当たりのICTの活用を行う。AIドリル、デジタルMIMを活用し、児童が自分の学びに合わせて、全学年で朝自習や家庭学習を取り組んでいく。算数科は、演習問題を習熟度別にワークブックを配信する。国語科は、漢字の成り立ち、熟語の意味等を動画で配信し、効果的な活用をデザインしている。
- ②主体的な学びにむけて児童に「委ねる」時間を設定する。校内研究の体育科では、1時間の授業で、見通しやふりかえりを重視し、単元の導入は何ができるようになるか、どのように学ぶのかを明確にし授業に取り組む。各教科の特性に応じた見方・考え方を授業で働かせる。今年度は、児童に課題や資料を選択させる「自由進路学習」「課題選択学習」などの児童に委ねる時間の充実を図り、必要な情報や課題を選択し自力解決する力の育成していく。
- ③全教科、領域で自分や他者との関わりから、学びへのメタ認知を行う。学習の中で、友達と話し合う場面や学級全体で意見を交換する時間を意図的に取り入れる。自分の考えを持つだけでなく、他者との関わりを通じて、自分の考えを再思考、再構成する。「自分がどのようなことを学んだのか」「友達との話し合いで何がわかったのか」など自分の学びをメタ認知できるようなカリキュラム・マネジメントを行い、各教科・領域で学びへの自己調整を行う。

西保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.6	85.5	80.8	80.8	96.6	100.0	89.5	89.5	81.8	68.8	80.0	92.0
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	79.7	79.0	79.3	89.7	84.2	84.2	87.9	75.8	72.0	76.0	75.0	71.9
平均正答率(R5)	78.2	76.7	88.7	86.7	90.8	89.4	78.7	72.2	68.3	67.7	70.2	70.6
平均正答率(R4)	70.2	74.7	84.0	90.7	77.4	84.0	68.7	73.2	60.3	70.7	65.9	63.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語について】本年度の通過率は85.6%で、昨年度と比較すると5.9ポイント上昇した。経年変化では、現3年生が+17.3ポイント、現4年生が+5.3ポイント、現6年生が+8.0ポイントと成果が現れた。課題であった「書くこと」「読むこと」は、説明的文章の読み方、自分の考えの理由や根拠を記述する機会を増やすなど指導の工夫が成果をあげ、区平均を上回った。

【算数について】本年度の通過率は85.5%で、昨年度と比較すると6.5ポイント上昇した。領域別でみると、課題であった「図形」は、工夫や繰り返し学習・課題型学習の指導の工夫が成果をあげ、区平均を上回った。

【学習意識について】昨年度は、全ての項目で区平均より下回ったが、本年度は2つ項目が区平均を上回った。昨年度と比較すると、「授業は分かる」は、-3.1ポイントであったが、他の4項目はいずれも+3~5ポイントと肯定的な回答が増えた。足立スタンダードを軸にした、一人ひとりの児童がわかる・できる授業を実施し、学習に積極的に取り組む児童の育成を図り児童が自信をもって意欲的に生活が送れるよう指導・支援する。

学校による学力向上への主な取り組み

学力推進委員会を中心に、指導改善を組織的に行う。また、家庭と連携し児童に家庭学習の習慣化と自主的に学習に取り組む力をつける。

【日々の授業改善】①足立スタンダードによる授業の実施②学習規律の定着③ICTを効果的に活用した授業の実施④AIドリルの積極的な活用⑤習熟度別指導の充実⑥ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくり⑦算数「用語カード」の活用⑧管理職・教科指導専門員による授業観察と指導・助言⑨月1回の西保OJT研修会の実施

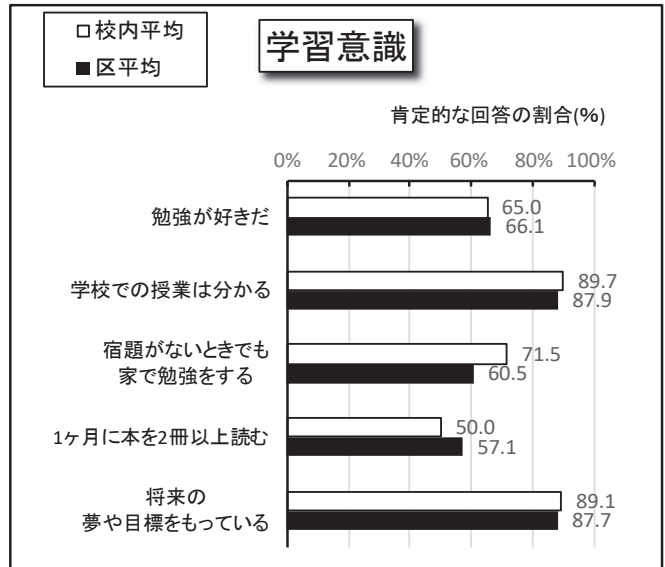
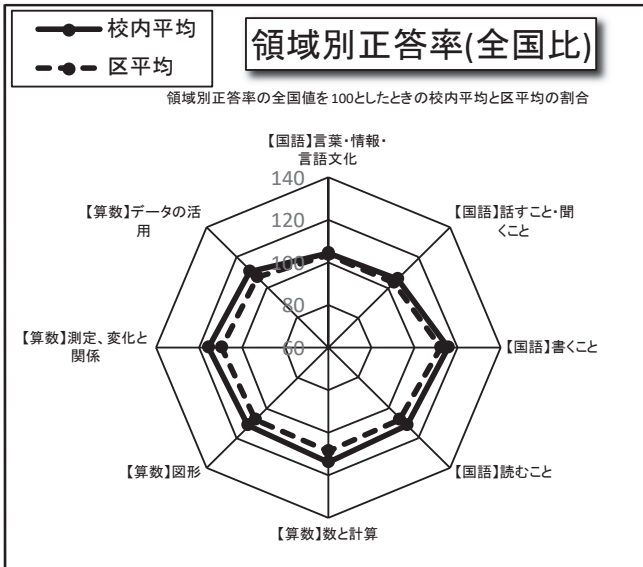
【補充学習】①月1回補充学習の実施(学年全体のつまずきを解消する時間)②週1回程度の放課後補充教室の実施(副担任も指導)③夏季休業中のサマースクールの実施(10日間)

【朝学習】①週3回の朝学習(AIドリル2回・読書1回)

【家庭学習の充実】①年間3回の家庭学習週間②AIドリルの活用

【小中連携】研究主題「自分の考えをもち、表現する力の育成」①年2回の研究授業の実施(小・中学校各1回)②分科会による指導案作成と授業分析

花畑小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	92.0	90.8	92.3	98.1	86.4	81.8	100.0	97.8	94.4	92.6	87.3	83.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	89.3	87.8	91.8	85.7	97.8	95.6	86.4	88.1	90.0	84.0	82.0	86.3
平均正答率(R5)	80.9	80.3	89.9	90.5	85.5	84.5	82.9	83.2	78.4	76.3	72.6	71.5
平均正答率(R4)	76.2	80.0	88.0	90.1	86.1	91.9	71.8	79.2	71.8	75.1	68.8	69.6

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【通過率および平均正答率】学校全体の通過率は、昨年度より上昇し90%を超えている。一方で平均正答率は、正答率の高い児童の割合が少なく、約80%にとどまっている。さかのぼり学習や反復学習に重点を置き基礎的内容の定着を徹底するとともに、応用力向上にも取り組む。

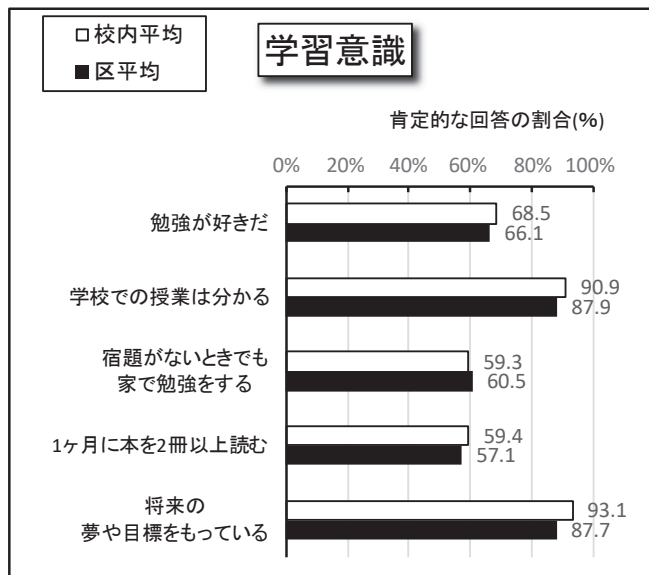
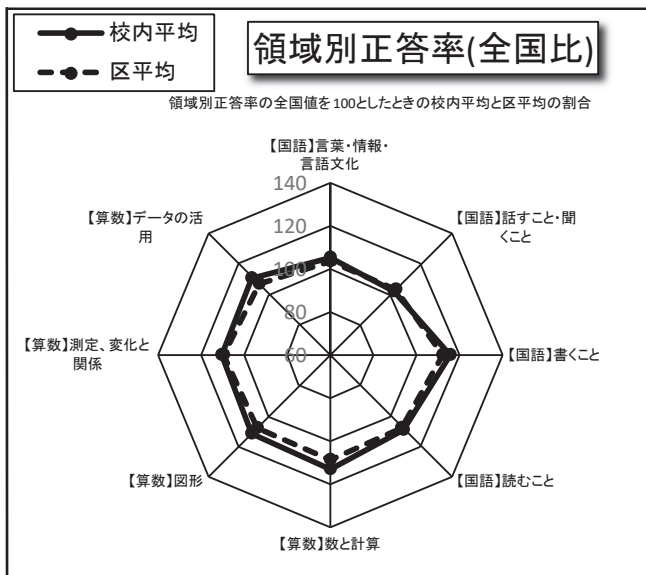
【領域別正答率】国語・算数ともに区平均程度の結果である。国語「話すこと・聞くこと」、「言葉・情報・言語文化」の正答率が、区平均同様低い傾向にある。国語だけでなく、他教科の学習においても話し合い活動や協働的な活動を積極的に行い、自分の考えを分かりやすく伝える力や、友達の考えや気持ちを理解する力を高めていく。また、国語辞典や漢字辞典を活用したり、慣用句やことわざに親しんだりする機会を多く設定し、児童の語彙や知識を増やす。

【学習意識】家庭と連携しながら家庭学習の習慣化に取り組んだ成果として「宿題がないときでも家で勉強をする」では区平均を大きく上回っている。「勉強が好きだ」「1ヶ月に本を2冊以上読む」は、区平均を下回っている。タブレット端末を活用するなどして、児童が学ぶ楽しさを味わうことができるよう授業改善を行っていく。また、授業における学校図書館活用を促進するとともに、読書目標や読書月間の設定、学校図書館ボランティアと連携した「読み聞かせ」などの実践を通して、読書の習慣化を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習(15分間)…水・金曜日は、つまずきの多い内容について、プリントやAIドリルを用いて遡り学習や反復学習を行う。月曜日は「読書」に取り組む。
- 補充学習(放課後・長期休業)…学習内容の定着が不十分な児童を対象に、AIドリルなどを活用して個別指導を行い、つまずきの早期解消を図る。
- 読書活動…年間目標冊数やページ数を低・高学年で設定し、児童自ら記録する。6、10月を読書月間とし、学校図書館ボランティアなどと連携して推進活動を行う。
- 「ニュース見つけた」…4年生以上の児童が新聞から興味のある社会時事を見付け、記事を要約し、自分の意見・考えをまとめ、朝の会等で発表する。
- 家庭学習…「家庭学習の手引き」を配布したり、個に応じた課題を与えたりするなどして、1～3年生30分、4～6年生「10分×学年」の家庭学習に毎日取り組む習慣を身につける。

花畑第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	87.4	89.7	89.7	98.3	86.5	90.5	85.9	87.2	85.9	84.7	89.8	89.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.4	91.0	81.9	91.7	96.3	95.0	81.4	94.3	86.7	90.0	78.7	82.0
平均正答率(R5)	80.4	79.6	91.0	92.1	87.6	87.2	79.8	77.7	74.5	73.0	72.7	72.4
平均正答率(R4)	75.1	80.5	83.8	92.0	85.6	88.9	72.3	80.3	67.7	74.8	65.7	66.6

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の平均正答率は、80.4%で、昨年度を5.3ポイント上回り、区の平均値を5.8ポイント上回った。また、通過率も昨年度を2ポイント上回り、区の通過率も上回った。話すこと・聞くことに関する問題では、何について問われているのかやメモの取り方に課題があると考え。言葉・情報・言語文化の領域において、どの学年も未定着の児童が一定数見られる。パワーアップタイムなどで、メモの取り方や語彙力の向上に一層努めていく。

【算数】学校全体の平均正答率は、79.6%で、昨年度を0.9ポイント下回ったが、区の平均値を上回った。また、通過率は、区全体の通過率よりも5.9ポイント上回ったが、自校の昨年度よりは1.3ポイント下回る結果となった。問題文を正確に理解できていないことや見直しの不徹底、D層の児童への補充学習が充分でなかったことが原因であると考え。

【意識調査】「学校での授業は分かる」が90%を超えた。全教員が授業力向上に努め、基礎学力を身につけさせるために、足立スタンダードを基に「分かる授業」を心掛け日々の授業に臨んだ成果の表れと考える。自主的な家庭学習が区平均を下回っている。A Iドリルの活用等、働きかけていきたい。

学校による学力向上への主な取り組み

◆教師の授業力向上への取り組み

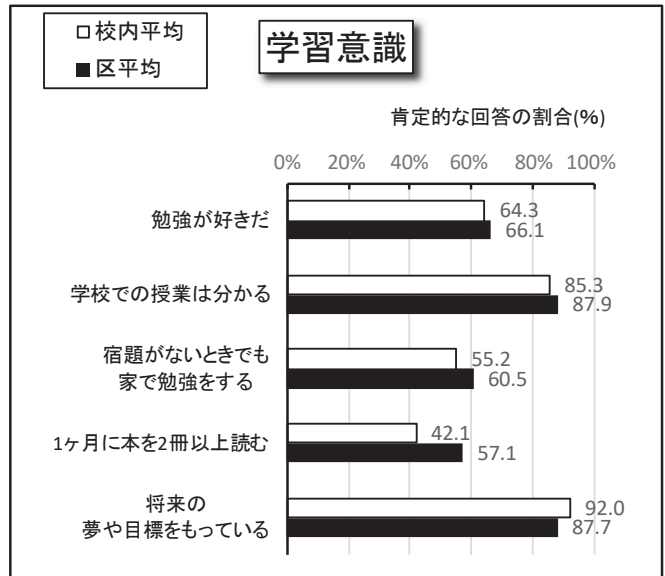
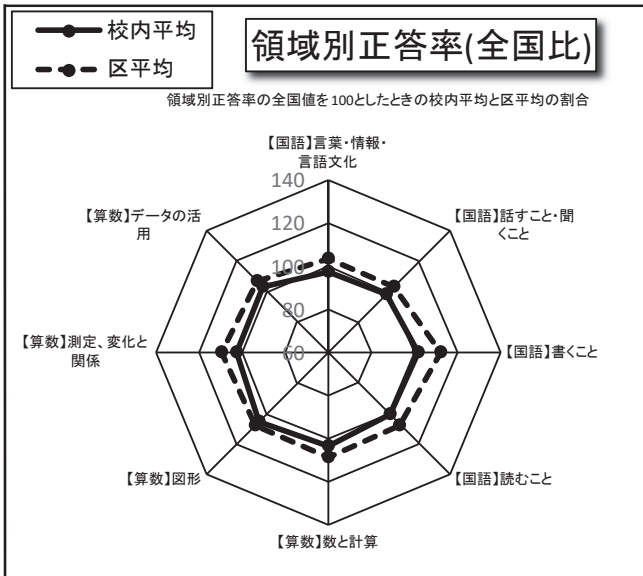
- ・O J Tのペア、グループを編成し、指導案検討・授業観察・事後指導を通して、足立スタンダードの理解を進め、授業実践・改善に全教員で取り組む。校内研究で、国語の読解力を伸ばす指導法を研究し、学習指導力向上を図る。

- ・I C Tを活用した効果的な研修や情報交換を行い、全教員が活用できるようにする。

◆パワーアップタイム・ステップアップタイムへの取り組み・放課後補充学習の実施

- ・週1時間、国語・算数の基礎的基本的な学習の定着の時間を設定し、全教員で指導を行う。
- ・長期休業前に、学力定着度テストを行い、該当学年の学習内容の定着を確認し、実態に応じて補習計画等を見直し、実施する。
- ・該当学年の内容の未定着が多い児童を対象に放課後に補充学習をする。また、個人面談中や長期休業中は、少人数の対象児童に全教員で補充学習を行い、ボトムアップを図る。

花畑西小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	72.0	77.9	83.7	93.0	59.6	74.5	68.0	82.0	75.6	77.8	75.0	67.2
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	64.7	73.4	64.0	86.3	69.4	73.5	66.7	84.4	67.7	64.5	55.1	61.2
平均正答率(R5)	74.3	72.5	85.9	88.2	76.4	78.9	68.4	72.5	75.9	70.3	70.1	61.8
平均正答率(R4)	66.4	71.1	76.0	90.0	75.8	79.0	67.2	75.0	62.2	66.6	56.2	52.0

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

「学習定着度調査」分析結果

学校全体としては昨年度と比較し通過率、平均正答率、共に上がった。しかし、学年・科目によっては通過率が50%台のところもあった。

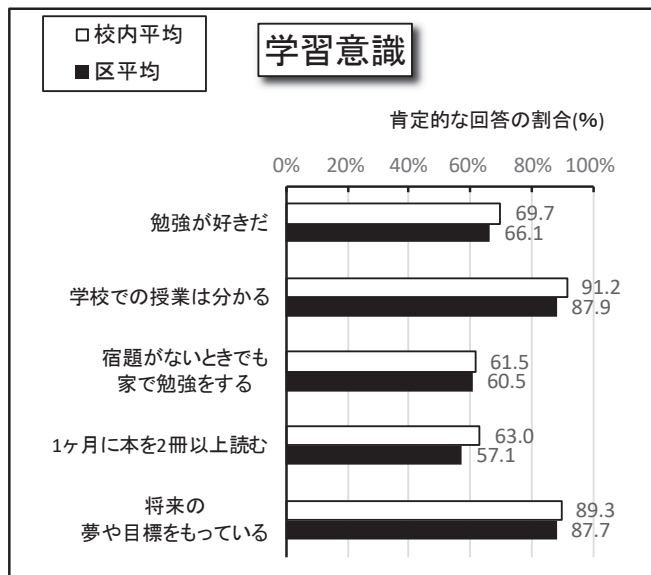
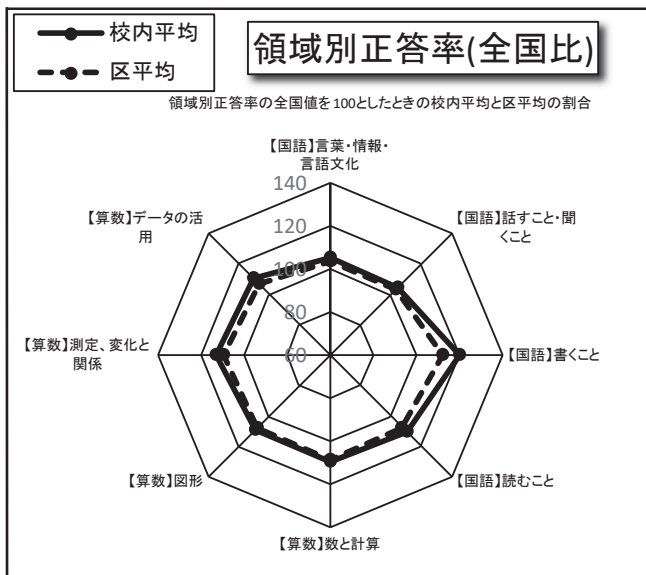
国語では、全学年が、昨年度の平均正答率を上回っている。しかし領域別正答率を見ると区平均を下回っている。特に「書くこと」の正答率が低い。この解消のために国語以外でも授業感想など、教科を横断して自分の考えを文章にまとめる作業を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感を下げるように働きかける。また「読むこと」に関しても正答率が低いためMI・Mやそだちの読みに関する学習を取り入れ、読むことに対する抵抗感を減らす必要がある。

算数では、2～4年生は昨年度の平均正答率を下回っている。領域別正答率では、どの領域でも区平均を下回っている。そのため、足立スタンダードに基づく問題解決型学習を徹底させる。授業参加意欲を高めるとともに、効率化を意識し、指導時間内に問題練習や振り返りまで実施する授業を行う。AIドリルを授業、パワーチャージタイム、家庭学習でも活用できるように働きかける。このことにより、個々の習熟に応じた基礎学力の定着、向上を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

- 読書習慣の定着、向上・・・週3回朝読書の時間を設け、読書の習慣を身に付ける。「読書カード」「読書通帳」を活用し、読書記録を記入することで、読書に対する意欲づけを図るとともに、簡単な紹介文を書かせることで言葉にまとめる力もつけさせる。
- パワーチャージタイム・・・毎日放課後の10分間、学習に取り組む時間を設けている。内容は国語、算数に絞り、国語は、漢字、文章の読み取り、ミニ作文などを今後進めていく。算数はドリルを活用し、その日の授業で取り組んだことの復習問題を行う。A層の児童は困っている児童につき、教え合うことでお互いに内容の定着と深めることを目標としている。
- 日々の授業実践・・・主体的・対話的で深い学びを実現させるため、教科指導専門員の指導の下、足立スタンダードの徹底を行っている。特に授業の終末に児童が学習の振り返りを文章で表現、問題練習させる時間を設けることを目標としている。研究推進で行っている実技研修を普段の授業で実践し教員の指導力向上を図っている。教員の空き時間には、積極的に教員同士授業を見合い、経験年数問わず授業力の改善、向上を図っている。

花保小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.4	88.9	86.0	96.5	95.5	93.2	92.0	88.0	86.1	80.6	81.9	84.5
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	88.2	87.2	94.5	97.8	94.6	95.9	84.6	86.4	85.7	74.1	79.4	80.9
平均正答率(R5)	81.6	79.1	88.6	90.5	91.5	88.5	80.6	77.0	75.7	71.6	73.3	69.8
平均正答率(R4)	76.9	79.4	90.1	94.9	86.2	90.5	72.7	79.6	68.7	69.3	68.4	65.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

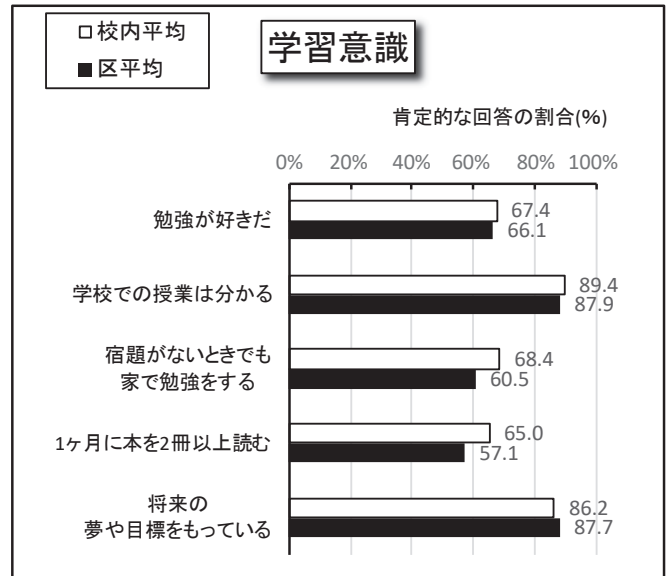
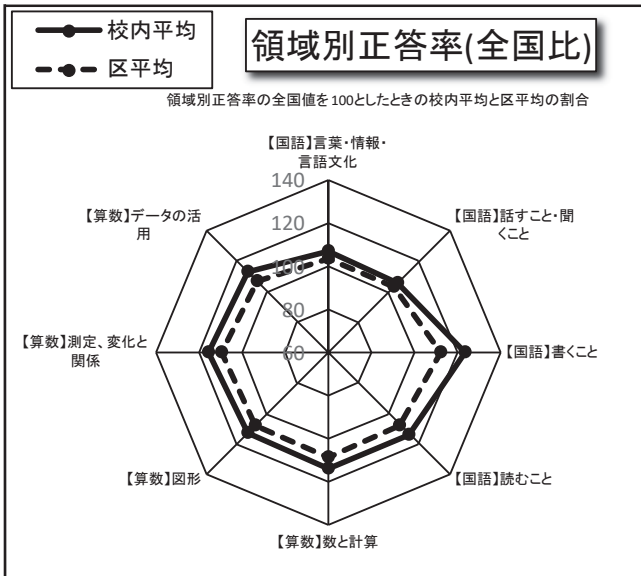
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の通過率は、国語88.4%で算数88.9%である。また、平均正答率は、国語81.6%で、算数79.1%である。年間を通して、かけ算九九検定や前学年と現学年の新出漢字復習テスト等で、学習の復習や放課後学習でつまづいている学習の個別指導を行うことにより、基礎学力の定着を図ることができた。
- 4～6年生の通過率は、国語・算数ともに前年度を上回った。前年度課題となった学習内容を丁寧に指導し、復習をしっかりと行ったことで高学年の基礎学力が定着した結果と考える。
- 領域別正答率は、すべての項目において区平均より上回った。
- 「学校での授業は分かる」と回答した児童が91.2%と区平均より3.3ポイント上回った。足立スタンダードを活用した授業を展開し、めあてをしっかりと理解させることで、児童にとって分かりやすい授業が行えたといえる。

学校による学力向上への主な取り組み

- 朝学習を週3回実施。漢字、ドリルやA Iドリルを活用した算数、読書に取り組む。これらの内容は、水曜日5時間目「花保ステップタイム」でも行う。
- 前学年現学年の漢字確認テストを年8回行い、基礎学力の定着を図る。
- 2年生以上、九九暗唱検定(100秒以内)を行う。1回で合格できなかった児童は、年2回更新検定を行う。
- 学習内容の復習及び基礎学力の定着が十分でない児童の個別指導を放課後行う。
- 個人・三者面談期間に個々に必要な課題をプリント等で補習指導を行う。
- 家庭学習の時間を10分×学年以上を原則として宿題に取り組みせ、家庭学習の習慣化を図る。内容は、国語や算数、音読、自主学習を行う。尚、自主学習(2年生以上)については、調べ学習の他に、苦手学習や力を伸ばす学習等、児童の自主性を大切にしている。
- 夏季チャレンジ教室を夏季休業中の10日間実施し、基礎学力の定着を図る。児童の実態に応じて4コースに分かれて学習する。また、学習教室とは別の時間帯に自学教室も設けている。
- MIM指導を1年生月2回、2年生1回実施。

東綾瀬小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	88.2	90.1	90.4	97.3	87.0	92.8	91.9	90.7	89.2	89.2	81.7	80.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	83.2	80.8	78.3	82.6	86.2	87.4	87.1	87.1	87.7	74.0	70.8	70.8
平均正答率(R5)	82.9	81.2	90.4	92.9	88.2	87.9	82.8	80.6	80.9	76.0	75.4	72.9
平均正答率(R4)	74.3	75.2	84.0	89.9	83.5	86.8	77.5	80.2	68.3	69.6	64.7	59.2

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

国語、算数とも、通過率は区平均を上回っている。昨年度と比べ、国語で5ポイント、算数で9.3ポイント上回り、平均正答率も、昨年比で各教科とも全て上回る結果となっている。

- ・6年生…国語は区の通過率を2.7ポイント上回り、算数は2.2ポイント上回る。
- ・5年生…国語は区の通過率を5.8ポイント上回り、算数は12.6ポイント上回る。
- ・4年生…国語は区の通過率を5.8ポイント上回り、算数は5.9ポイント上回る。
- ・3年生…国語は区の通過率を1.1ポイント上回り、算数は5.8ポイント上回る。
- ・2年生…国語は区の通過率を6.3ポイント上回り、算数は4.4ポイント上回る。

昨年度から進めてきた授業改善の推進や補習教室、AIドリルの活用、朝読書を活用した文字に親しむ時間の増大等が要因と考えられる。また、学習意識調査では、5項目中4項目において区平均を上回っている。「家庭での学習」は7.9ポイント、「1か月に本を2冊以上読む」は7.9ポイントと大きく上回っている。一方、「将来の夢や目標をもっている」は、区平均より1.5ポイント下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

1 足立スタンダードを基本とした学習習慣の徹底

足立スタンダードを基本とした学習の流れを徹底し児童が安心して学習に取り組めるようにする。特に「聞く」「話す」「書く」「話し合う」を軸とした学習習慣を醸成していく。

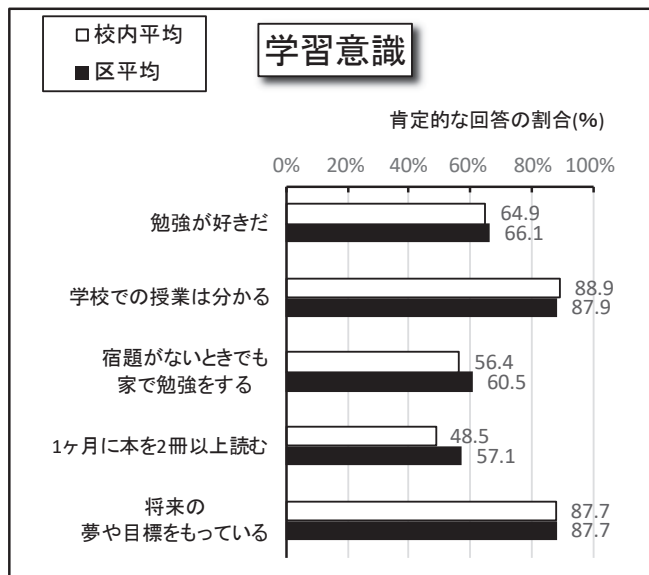
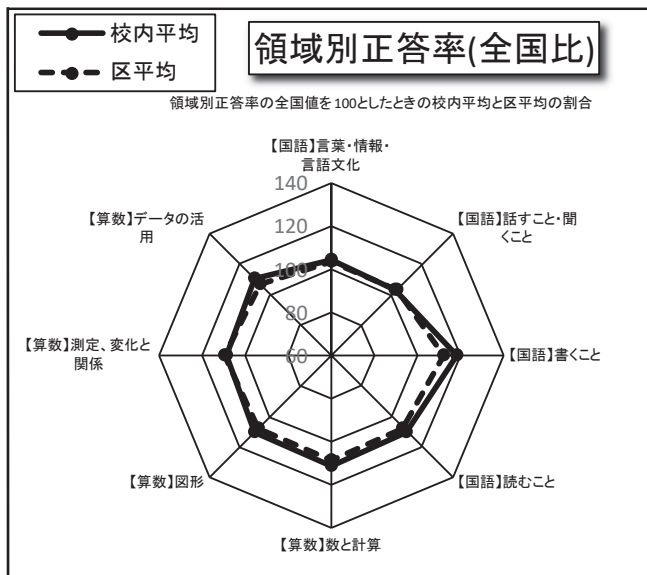
2 学習内容の定着を図るための4つの柱

- (1) 学力調査の分析を学年間で共有することで、さらなる指導の充実を図っていく。
- (2) 朝昼2回のパワーアップタイム(朝は全校読書、昼は基礎・基本習熟)の活用を進める。
- (3) 補習教室の実施を確実にし、AIドリルのさらなる活用など、学習の定着を図る。
- (4) スマイルテスト(区調査の類似問題)を10月、12月、1月に取り組み、重点的に復習する。

3 教員の指導力の向上

- ・ミドルリーダー研修会、スキルアップ研修会の実施方法や内容の拡充を図り、さらなる指導力の向上と職員間の連携を図っていく。
- ・教える側、教えられる側、双方が学びを高められるようにOJTを常に改善していく。

東伊興小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.2	86.2	86.1	97.5	91.0	91.0	88.8	80.9	87.4	78.6	77.2	84.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	85.4	88.7	91.8	96.9	90.9	88.6	83.0	91.0	72.7	75.0	88.2	90.6
平均正答率(R5)	80.3	78.2	89.5	89.4	89.2	87.8	78.2	74.8	77.0	71.1	71.7	72.9
平均正答率(R4)	76.1	80.7	88.2	93.7	83.5	87.7	73.8	80.0	65.8	70.6	71.9	73.6

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【国語・算数】昨年度と比較して、学校全体の通過率は国語で0.8ポイント上昇したが、算数は1.5ポイント下降した。学年別で見ると、国語で6年生が、算数で5年生が80%を下回っている。経年変化で見ると、算数で3・4・5年生が昨年度を下回っている。領域別では、概ね区平均を上回っている。国語の領域別では、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」が区平均と同程度であるので、言語指導や話し合いに焦点を当てた授業改善を行っていく。算数の領域別では、「測定、変化と関係」「データの活用」が区平均と同程度であるので、量感の育成やデータの読み取りに焦点を当てた授業改善を行っていく。

【学習意識】3つの項目で区平均を下回っている。特に「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」が大きく下回っている。「ひがし学習週間」や読書旬間を取り入れているが、それ以外の期間でも自主的に取り組めるように支援していく必要がある。「学校での授業は分かる」が昨年度より2ポイント以上上昇しているため、足立スタンダードを基本とした授業改善の効果ができていると考えられる。

学校による学力向上への主な取り組み

○朝のパワーアップタイム

国語と算数の基礎力向上を目指し、漢字練習や計算練習、読書を行っている。AIドリルも活用している。

○放課後ステップアップ教室

既習事項につまずきのある児童を対象に、つまずきに即した補充プリントを用意するなどして、つまずきの解消を目指している。AIドリルも活用している。

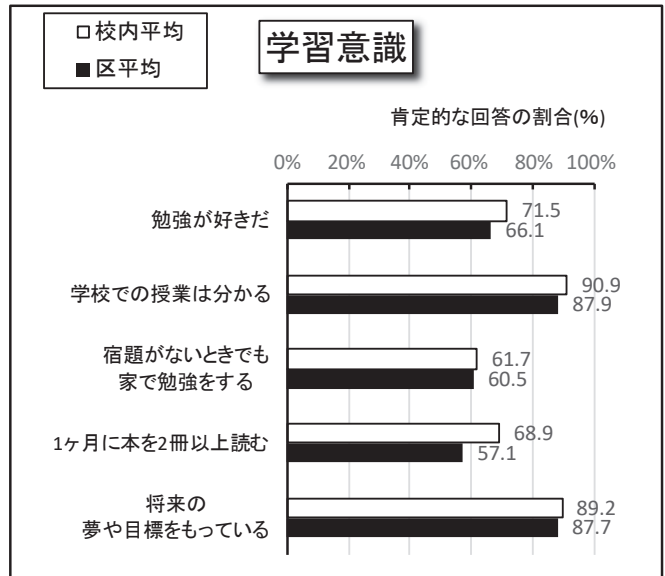
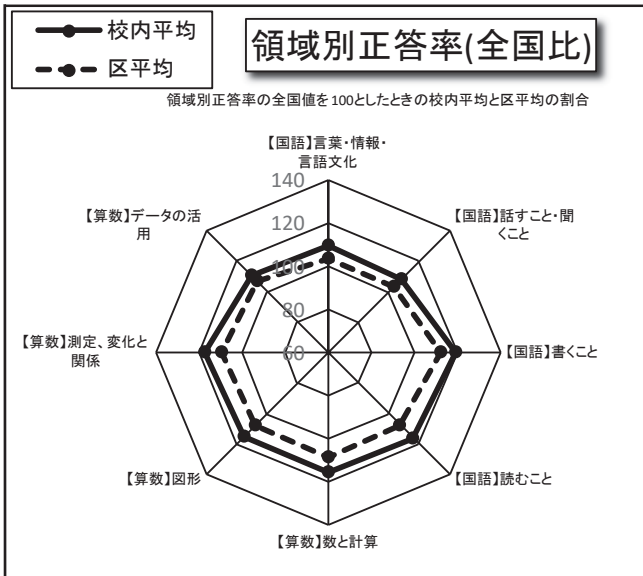
○家庭学習の推進

「家庭学習の手引き」を配布し、自主学習の進め方を示し、「学年×10分+10分」を目標に家庭学習を進めている。「ひがし学習週間」を年2回設け、家庭学習の習慣化を図っている。

○校内研究の充実

校内研究として、算数科で数学的活動の工夫を通して主体的に学ぶ児童の育成を目指している。基礎・基本の定着だけでなく、思考力や表現力の育成も図っていく。

東加平小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	93.4	91.0	93.6	98.2	100.0	98.9	90.0	87.5	94.1	86.1	87.8	81.1
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	95.1	96.2	98.9	100.0	94.8	98.7	96.1	96.1	95.9	89.2	89.0	96.3
平均正答率(R5)	85.2	83.0	93.3	94.7	93.3	91.8	79.7	78.3	80.9	77.4	78.6	72.8
平均正答率(R4)	81.3	85.5	92.2	96.9	85.7	92.6	80.8	85.1	75.4	77.7	74.8	77.7

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

○国語

学校全体の目標値通過率は93.4%となり、R4年度より1.7ポイント低下したが、観点別正答率は、全項目で区の平均を上回っている。特に「読むこと」の領域では全学年で全国平均と比較して5ポイント以上高くなっており、足立スタンダードに基づいた授業の改善、課題の設定、発問の工夫などを行った成果が表れた。今年度は「書くこと」のさらなる向上を図るため、個別指導では、記述式の問題を重点的に行う。

○算数

学校全体の目標値の通過率が91.0%となり、R4年度より5.2ポイント低下したが、観点別、領域別ともに正答率は、全項目で区の平均を上回っている。今年度も引き続き、個別指導やパワーアップタイムで、基礎的な計算から標準的な問題演習を行うとともに、通過率が向上するように、基礎・基本の定着を図る。

学校による学力向上への主な取り組み

○個別指導 (指導者 担任+専科)

少人数のグループで学習を行い、既習内容の習熟や区・全国の学力調査でつまづきが多い内容、発展的な学習など、習熟度に応じた内容に取り組む。

○パワーアップタイム (指導者 担任)

木曜日を除く週4日間の清掃終了後、10分間のパワーアップタイムを設定し、AIドリルやプリントを活用して計算や漢字などの基礎基本の学習に取り組み、基礎・基本の学習内容の定着を図る。

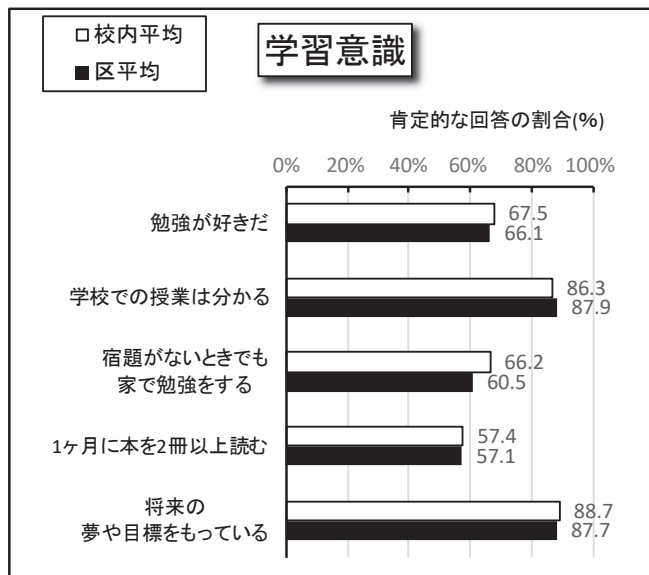
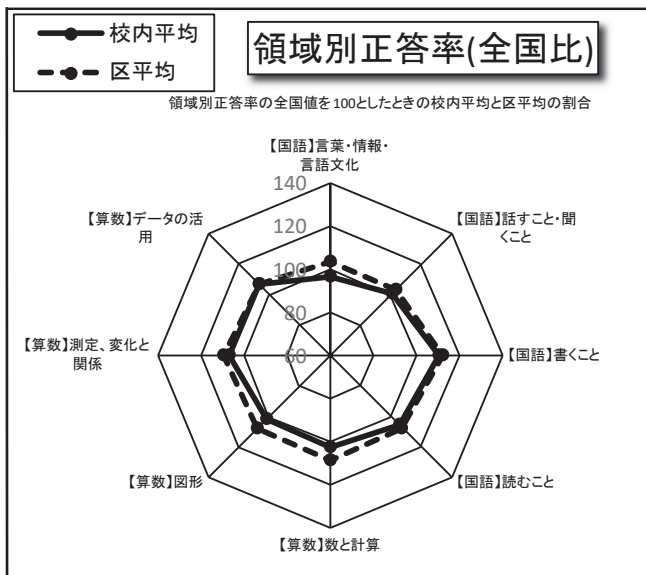
○寺子屋タイム (指導者 担任+専科)

毎週木曜日の放課後に既習内容に関して、習熟、定着していない内容の補習を行う。

○コッおはカード

毎月2週目に生活習慣と家庭学習の内容と時間を家庭で記入してもらい、規則正しい生活と家庭学習の習慣化を促す。学習時間は低学年30分、中学年45分、高学年60分を設定している。

東栗原小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	77.4	78.0	81.5	96.3	79.3	82.8	81.1	75.5	79.4	76.5	68.1	63.9
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	77.6	75.2	92.7	92.7	86.3	76.5	77.3	83.3	62.9	55.7	73.1	71.2
平均正答率(R5)	75.0	72.6	89.0	90.7	85.1	82.5	76.4	72.3	69.9	69.7	64.5	58.6
平均正答率(R4)	70.5	72.3	90.0	92.3	81.2	84.0	67.7	74.4	59.0	59.6	64.3	60.3

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【領域別正答率(全国比)】全ての項目において、区平均とほぼ同様かやや下回っている。国語では、言葉・情報・言語文化の領域の数値が低く、漢字の書き取りなど基礎的な知識の積み重ねが不足していると考えられる。同じ学習集団で今年度と昨年度を比べると、6年生は2教科とも力が伸びた。

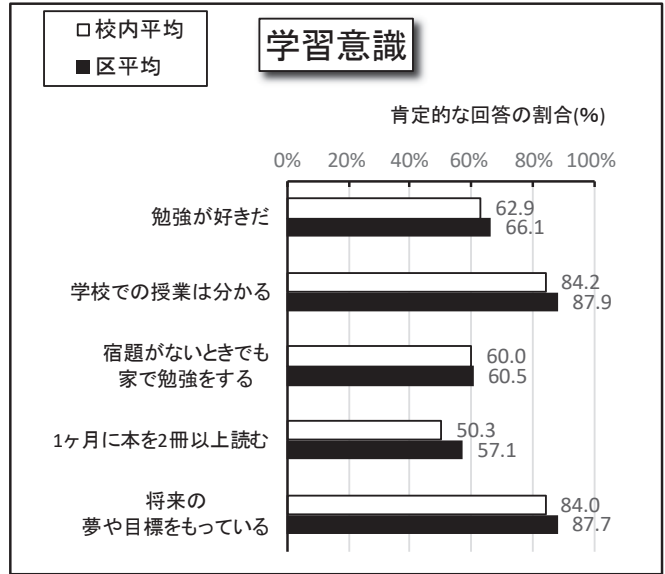
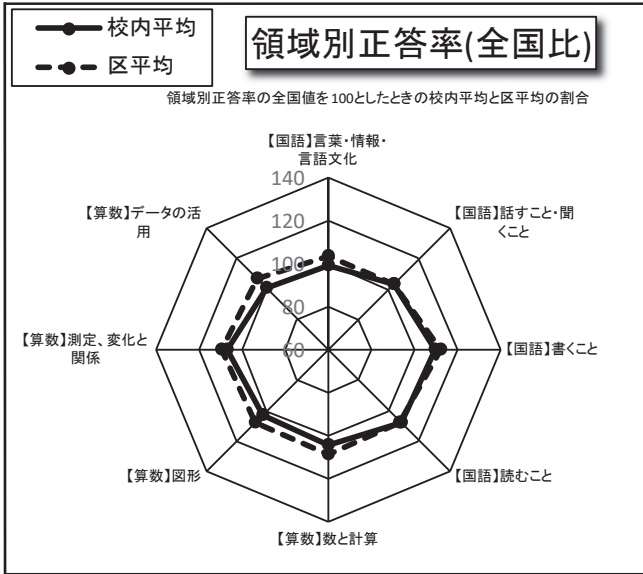
【学習意識】「学校での授業は分かる」の項目のみ、区平均を下回っている。日頃の授業改善や基礎・基本の力の定着方法の改善を図り、児童の思考の流れを大切に授業実践を行っていく。校内の意識調査においても、本校児童の自己肯定感の高さは明らかである。高い学習意欲を学力の定着にしっかり結びつけていく。

【通過率】経年比較で6年生(昨年度5年生)以外の算数の通過率が下がっている。単元別では、3年生立体図形、6年生の面積体積の求積で非常に誤答が多い。数と計算の領域も不得手とする児童が多いことが分かった。概して、学年が上がるに連れて、通過率が下がる傾向がある。6年間を見通した学習の積み重ねを意識した授業実践が必要である。

学校による学力向上への主な取り組み

- パワーアップタイム…週3日の朝学習の時間では、問題を精選して時間をしっかりと確保していくことで、日々の学習の定着度を高めていく。特に、漢字の書き取りや習熟を繰り返す行うことで、着実に力を伸ばしていく。
- 読書タイム、読書旬間…年2回2週間、読書推奨期間を設け、読み取り学習の充実を図る。学校図書を貸し出す機会を増やして、本に親しむ児童を育てていく。
- 夏休み補充教室(サマースクール)…夏休み中の補充学習で、基礎基本の力の定着を図る。
- A Iドリル「Qubena」の活用…学習シートに自分の誤答を集約して、苦手な領域の自己把握と分析を行う。苦手な分野領域の類題学習に挑戦して、読解力や計算力を高める。
- 算数習熟度別指導の工夫…単元によっては3展開を4展開にして授業を実施。算数習熟度担当教員と学年担任間で指導計画を確認。問題を把握する力や解答する力の向上を図る。
- 書く力の向上…校長講話をまとめる、授業の振り返りを徹底することで、向上を図る。
- 放課後学習教室…漢字検定への取り組みなども活かして、書き取りの力を高める。

東洲江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.3	77.8	82.7	92.8	80.4	82.8	83.5	82.4	83.5	65.2	76.4	67.4
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	81.0	83.0	90.2	94.6	79.8	84.3	83.9	87.4	77.0	74.7	74.2	74.2
平均正答率(R5)	77.9	74.0	88.6	89.5	83.9	83.2	76.2	75.8	75.9	66.3	69.1	60.9
平均正答率(R4)	74.4	76.5	90.4	92.4	79.3	82.8	77.1	79.8	63.2	69.9	66.6	62.5

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

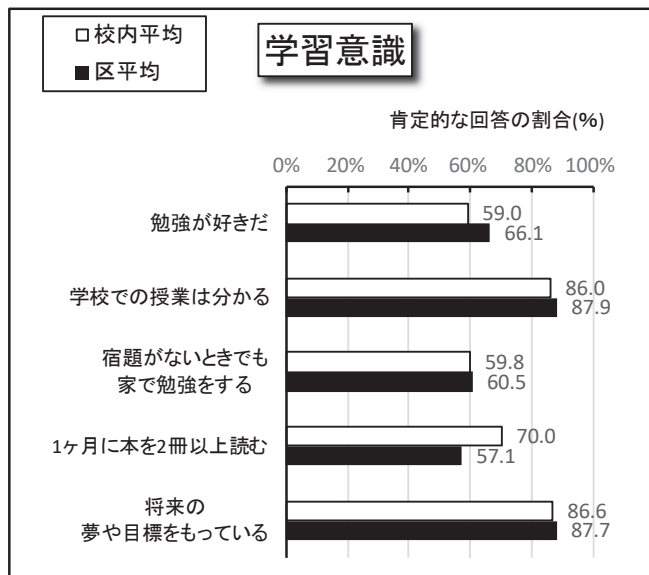
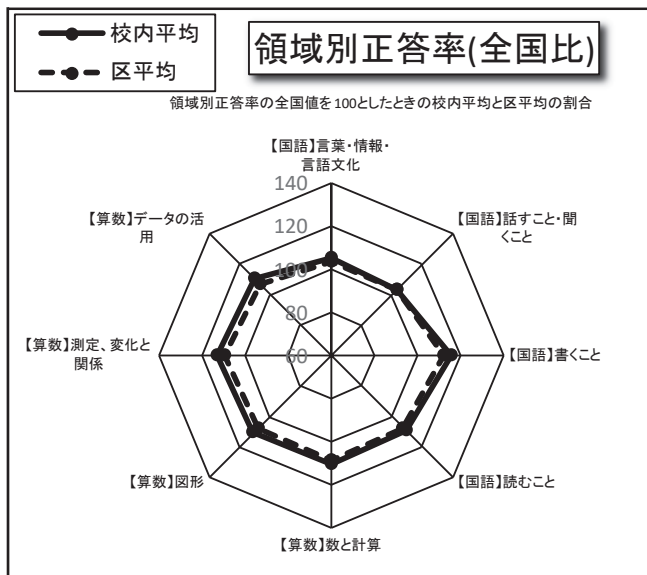
「学習定着度調査」分析結果

【国語】学校全体の通過率は、前年比で0.3ポイント上回ったが、ほぼ横ばいである。しかし、平均正答率と目標値の差を見ると、全ての学年で8ポイントから20ポイント上回っている。3～6年生の「言葉・情報・言語文化」の平均正答率を見ると、区平均から0.5ポイントから7.7ポイント下回っている。漢字の読み書きや主語・述語の対応、漢字辞典の使い方の定着などに課題がある。【算数】学校全体の通過率は、前年比で5.2ポイント下回った。3・5・6年生で出題されている立体図形の平均正答率は、どの学年も区平均より約10ポイント下回っていることから、面や辺、展開図などについての理解に課題がある。また、2つの数量の関係を式で表したり、割合や約分率、速さなどを求めたりするところにつまずきが見られる。【意識】「勉強が好きだ」で、区平均よりは3.2ポイント下回っているが、前年比を2.7ポイント上回った。また、「1ヶ月に本を2冊以上読む」も前年比を1.8ポイント上回った。昨年1年間の児童の実態把握と改善に向けた対策や読書活動への取り組みの成果と言える。

学校による学力向上への主な取り組み

- 校内学力向上プロジェクトを中心に、区調査や単元末テストの分析を行い、学年や学級、さらに個の課題を明確にし、個別最適な学びの保障の実現に向けた取り組みを推進する。
- ・A Iドリルの活用…単元の習熟時間、モジュール、補習教室、家庭学習や長期休業で積極的に活用する。
- ・放課後補充教室…週1回、学習する課題を絞って対象児童を選定し、少人数で適切な指導をする。
- ・夏休み学習教室…1年生は日頃の学習状況をもとに抽出した児童、2～6年生は区調査の目標値未達成の児童や4層分析のB～D層の児童を対象に、つまずきに応じた指導を行う。
- ・九九、あまりのあるわり算補充教室…2～6年生の児童を対象に、個人面談期間に専科教員が実施する。
- ・M I Mの活用…毎月のアセスメントを活用し、低学年で特殊音節のつまずきを解消する。
- ・学力調査と確認テスト後の学年面談…学年ごとに調査結果の分析検討を行い、具体的な対策を検討する。

平野小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	86.9	88.5	85.4	97.6	88.3	87.2	83.3	82.1	86.9	88.1	90.2	87.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	83.3	86.2	82.4	91.2	91.4	91.4	85.9	88.5	82.7	84.0	74.4	75.9
平均正答率(R5)	81.1	79.3	88.9	92.4	86.3	85.6	76.3	77.3	77.7	75.5	78.0	69.0
平均正答率(R4)	74.7	78.7	83.9	89.1	84.5	89.9	74.7	79.2	69.9	75.1	63.8	64.4

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)])の平均値

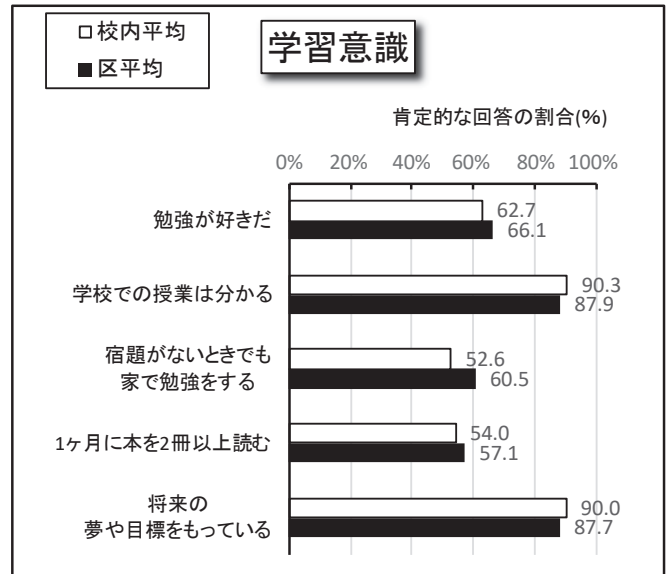
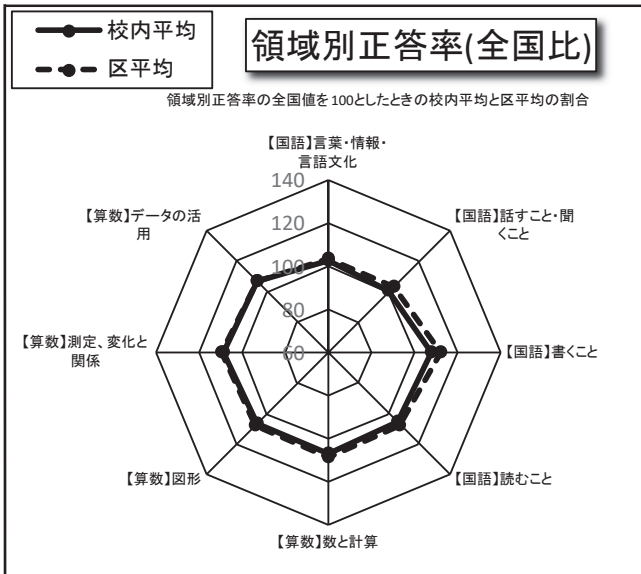
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の平均正答率は、昨年度と比較して、国語は6.4ポイント、算数は0.6ポイント上がった。通過率においても、国語は3.6ポイント・算数は2.3ポイント上がった。平均正答率と通過率は国語・算数ともに上がっているが、各学年の結果を細かく見ると、本校の児童は、算数よりも国語に課題をもっている児童がいることがわかる。
- 国語の領域別正答率では、「読むこと」の領域が区平均と同等か3ポイント近く下回る学年がみられる。読書などを通して文章を読むことに慣れさせていくとともに、初見の文章でも要点を絞り、内容を正しく読み取らせる指導を充実させていく。
- 算数の観点別正答率では、「思考・判断・表現」が区平均と同等か最大で2ポイント近く下回る学年がみられる。まずは、基礎・基本となる知識と技能を確実に身につけさせ、場面に合う計算を正しく選択できる判断力や筋道を立てながら自分なりの考えを文章や図で表現できる力を伸ばしていけるような授業を展開していく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 全児童を対象に「平野スキルアップタイム」を放課後に設定し、毎日15分間の補習を実施する。国語・算数の基礎学力向上をめざす。
- 週2日間「朝学習」を設定し、基礎学力向上をめざす。
- 区調査で目標値に達しない児童を対象に長期休業中(夏・冬)の補充教室の実施。
- 中学年における「そだち指導員」による個別指導の実施。
- 低学年を対象に「MIMアセスメント」を実施し、基準点が未到達の児童に個別指導を実施。「読む力」の基礎を固める。
- 朝読書や読書旬間・月間を設け、読書に親しませ、「読む力」を向上させる。
- 足立スタンダードを基に授業展開し、問題解決型の学習を実践する。
- 家庭学習の徹底(10分×学年+αをめやすに取り組みせる)。
- 毎週末必ずA Iドリルを活用した家庭学習に取り組みせる。個別最適化された問題に取り組むことを通して、学校と家庭間で切れ目のない指導を行い基礎学力の定着をめざす。

澁江小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	81.3	81.3	80.7	94.7	90.7	92.6	91.8	86.9	77.6	62.1	68.1	72.5
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	78.4	81.1	88.9	88.9	90.0	91.8	72.6	82.3	65.6	62.5	77.3	81.6
平均正答率(R5)	77.5	75.5	86.4	90.0	89.5	89.1	80.1	77.5	71.1	62.6	67.7	66.1
平均正答率(R4)	71.7	76.2	86.6	91.0	81.7	89.6	66.8	77.5	61.8	64.3	68.5	67.8

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

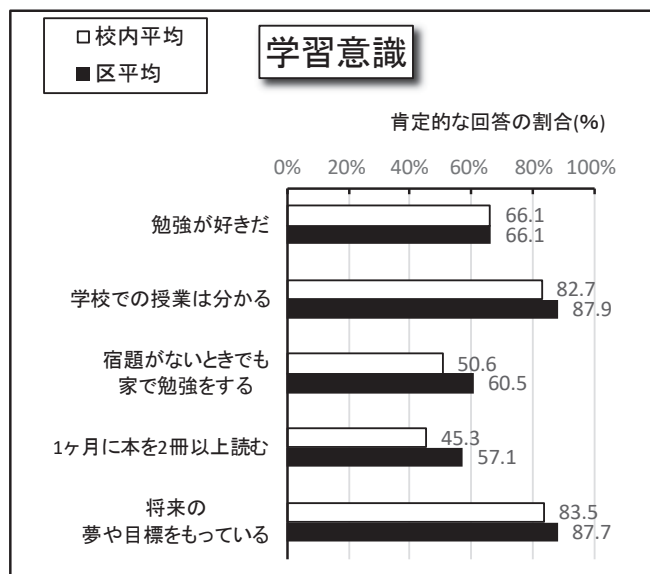
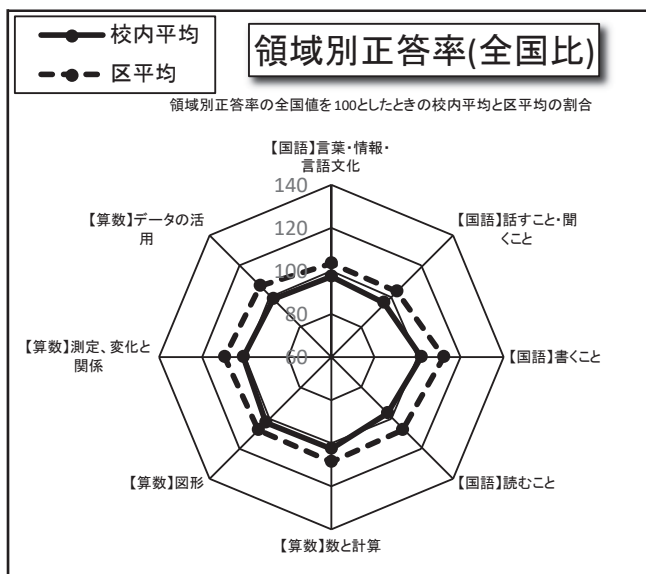
「学習定着度調査」分析結果

- 通過率は国語では81.3%で、昨年度の78.4%と比較して2.9ポイント上回った。算数では81.3%となり、昨年度の81.1%と比較して0.2ポイント上回った。領域別正答率は、国語の「言葉・情報・言語文化」、算数の「データ活用」以外、区平均を下回っている。特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を今後の指導の重点とし、定着させていく。
- 通過率80%を下回ったのは、5年生国語77.6%、算数62.1%、6年生国語68.1%、算数72.5%となっている。5年生の算数は、昨年度の4年生時と比較して通過率が20.2ポイント下回った。定着が不十分な面積・体積の改善を図っていく。6年生の算数は、昨年度の5年生時と比較して通過率が10.0ポイント上回った。指導の成果である。引き続き定着を図る。
- 学習意識では「授業は分かる」「夢や目標をもっている」が区平均を上回り「勉強が好き」「家で勉強をする」が下回っている。この結果から自己肯定感はあるが、わかる喜びを味わわせ、主体性を育てる必要がある。本校の児童にとっては学校が重要な役割である。また読書は、取組時間を設定しているが区平均を下回っているため、読書への意識を高めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 低学年は木曜日の5校時、高学年は6校時に、週1回「けやきタイム」を設定し、読解力向上に特化した指導を行う。
- 朝のパワーアップタイム(15分間)を週4回実施する。
 - ・漢字: 下学年からの既習の漢字を復習する。(デジタルドリル)
 - ・計算: 測定、変化と関係などの習熟の低い内容に取り組む。(デジタルドリル)
 - ・作文: 条件付き短作文に取り組む。
 - ・読書
- 授業の中でICTを活用する。
- 放課後補習教室を週2回実施し、つまづきをさかのぼり、個別指導で補習を行う。
- 長期休業前に「算数・漢字コンテスト」として定着度テストを実施する。
- 足立読書通帳を活用する。年間低学年80冊以上、中学年50冊以上、高学年30冊以上を目標とする。

渚江第一小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	73.8	76.1	68.4	82.1	66.3	67.4	85.5	80.7	76.2	70.2	73.9	79.3
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	77.9	81.1	75.6	85.4	85.2	86.4	72.8	81.5	84.1	80.9	70.9	70.9
平均正答率(R5)	73.7	72.7	80.2	83.3	77.2	75.8	75.3	74.4	70.3	65.6	67.8	66.4
平均正答率(R4)	71.8	76.0	79.7	88.3	83.4	87.0	67.8	76.4	69.3	72.0	62.1	61.2

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)]) の平均値

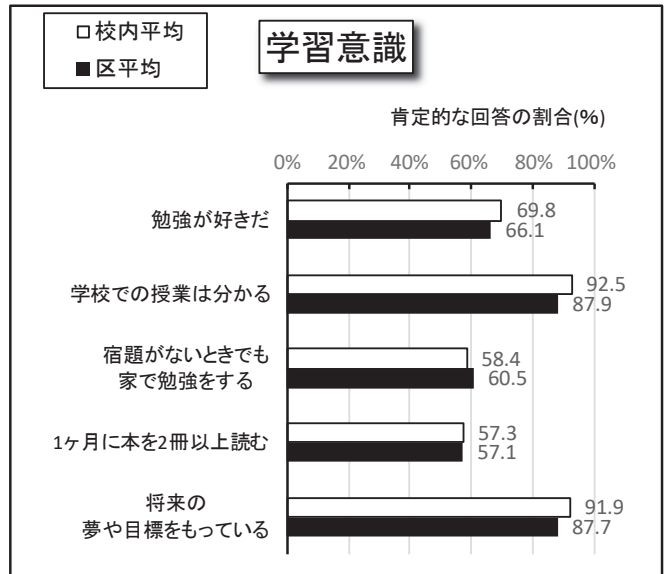
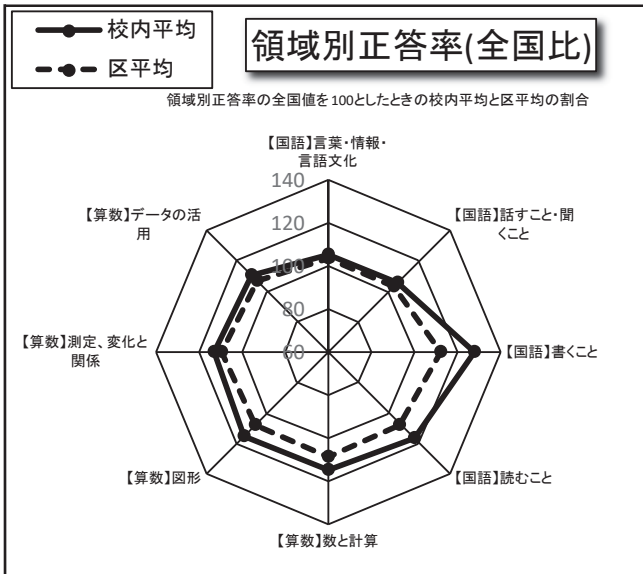
「学習定着度調査」分析結果

- 校内で目標と定めた通過率 (国語、算数ともに80%) を実現できたのは、国語は4年生、算数は2・4年生であった。昨年度に比べ、基礎的な内容が未定着である児童の割合が多い。
- 2年生の国語は書くことと読むことに課題があり、特に書くことについては正答率が下位の児童の未定着が顕著である。
- 3年生の経年変化を見ると、昨年は2教科とも通過率は良好である。しかし、今年度は2教科とも通過率が約66~67%と大幅に下がってしまっている。これは、あと一步のところまで単純な間違いをしている児童が多かったためと考えられる。
- 4年生の国語では読み取ることに課題が見られ、特に説明的文章では、A層とD層の差が大きかった。算数では、特に文章題から立式して答えを求めることに課題がある。
- 5年生の国語では、漢字の書き取りと文章を記述して回答することに課題がある。算数では特にデータの活用に課題がある。(区平均に比べ-18ポイント)。
- 6年生の国語では、漢字の書き(-20ポイント)など基礎的な内容に課題が見られる。定着を確実にする指導の在り方を再検討する必要がある。算数は割合や平均の問題に課題がある。

学校による学力向上への主な取り組み

- ◎基礎的な基本的な学習内容の定着を図りながら、活用する力を付けていくことをめざす。
 - ・年間を通じて、始業前の学習時間 (パワーアップタイム) を実質15分間確保する。
 - ・パワーアップタイムを活用して、物語文や説明文を読み解く問題に取り組む。
 - ・かけ算九九テストを2年生以上の児童を対象に年2回行い、完全習得を目指す。
 - ・図書支援員を活用し、読書旬間の活性化など読書活動を充実し、児童の読書を習慣付ける。
 - ・サマースクールの内容は、課題となる単元に特化した集中指導として、これにつまずいている児童の指導を行う。夏季休業以後の内容定着度について調査する。
 - ・単元テストの結果等を基に放課後補習教室の対象児童を選定するなど、効率よく学力向上に取り組む。
 - ・生活・総合の学習について、身近なものから課題を見つけ、調べ、まとめ、発表、意見交流を行うことによって学習に向かう意欲を高め、考える力、発表する力の向上をめざす。

保木間小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	90.1	91.1	92.9	100.0	91.1	88.9	92.1	94.7	94.7	89.5	80.0	82.5
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	88.7	91.5	97.9	100.0	97.3	97.3	90.2	92.7	80.5	85.4	78.3	83.0
平均正答率(R5)	82.9	81.5	91.7	93.9	90.2	88.9	84.1	82.0	80.2	77.3	70.9	68.3
平均正答率(R4)	78.1	82.0	89.5	96.5	90.1	92.8	79.4	85.6	68.3	73.8	68.8	67.9

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【学習意識】: 5つの項目の中で1項目が区の平均より低かった。R4の調査と比較すると、「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」の項目がそれぞれ下降傾向にある。家庭学習や読書への取り組みにさらに力を入れる必要がある。「学校での授業は分かる」の項目は、R4から3.8ポイント上昇している。確実に理解ができる授業づくりへの取り組みの効果が現れている。

【通過率】: 学校全体の平均正答率は2教科とも90%を上回った。R4と比べると、国語が1.4ポイント上昇しており、授業改善の成果が見られる。学年が上がると通過率が低くなる傾向にある。国語・算数ともに、中学年以降の指導法の改善や、児童の学習意欲の向上に努める必要がある。

【領域別正答率(全国比)】: それぞれの項目で区の平均を上回ることができた。国語では、「書くこと」の数値が高く、百文字要約などの取り組みの成果が出ている。「言葉・情報・言語文化」については比較的数値が低く、言葉や漢字の学習への取り組み、読書習慣の定着を図る必要がある。算数では、根拠をもって立式する力や考えを説明する力を更に伸ばしていく。

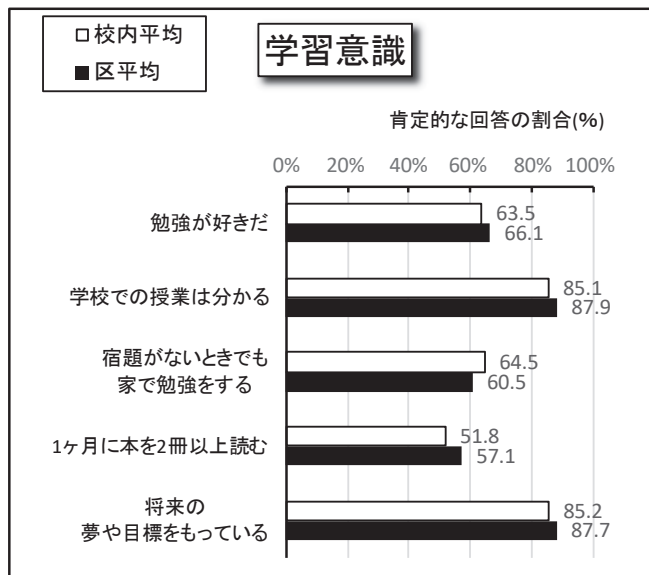
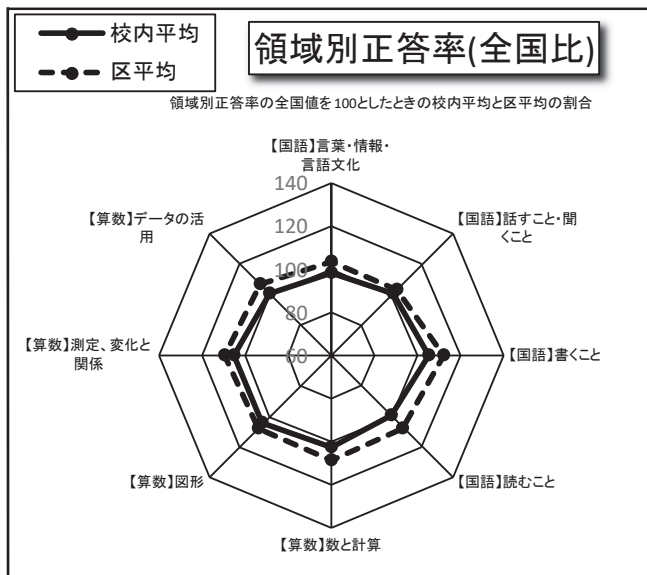
学校による学力向上への主な取り組み

【放課後学習教室】「ぴかぴかスタディ」として、算数で全学年で習熟が必要な児童を選出し、週に1回、木曜日に個別指導のための時間を放課後に設けている。個別最適な学びをねらい、学習の系統表に理解できていない内容がわかるように記入し、教員間で共有することでどの教員でも、児童に必要な学習を提供できる体制を取っている。

【伝え合い・話し合い】校内の研究として「伝え合い・話し合い」をテーマにしている。発表やグループでの話し合いで使う「話型」を示し、学年ごとに、充実した話し方や発表ができるよう、考えの述べ方や質問の仕方を教室に掲示して、使いこなせるよう指導している。

【朝学習(保木間タイム)】基礎基本の学力定着、読解力向上のため、保木間タイムを週3回全学年実施している。また、「かけ算チャレンジ」「わり算チャレンジ」(九九や商が一桁のわり算100問を5分以内に全問正解する)で算数の基礎・基本の定着、「百文字要約」(朝会の講話や、学習内容を5分程度で要約する)で国語の書く力の向上を図っている。

宮城小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	75.9	78.3	76.1	85.9	84.1	87.8	66.2	69.4	70.9	72.2	80.8	75.6
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	80.4	82.4	88.0	90.4	69.3	76.0	80.0	81.5	82.7	78.4	81.0	84.8
平均正答率(R5)	75.4	73.5	84.1	84.7	85.7	86.7	69.6	69.1	68.4	66.9	71.6	64.4
平均正答率(R4)	73.5	78.1	86.4	91.3	77.1	82.4	70.3	74.8	68.0	74.3	68.3	70.4

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数 ÷ 受検者数 × 100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率 (出題数中何問正解したかの割合 [正答数 ÷ 出題数 × 100(%)] の平均値)

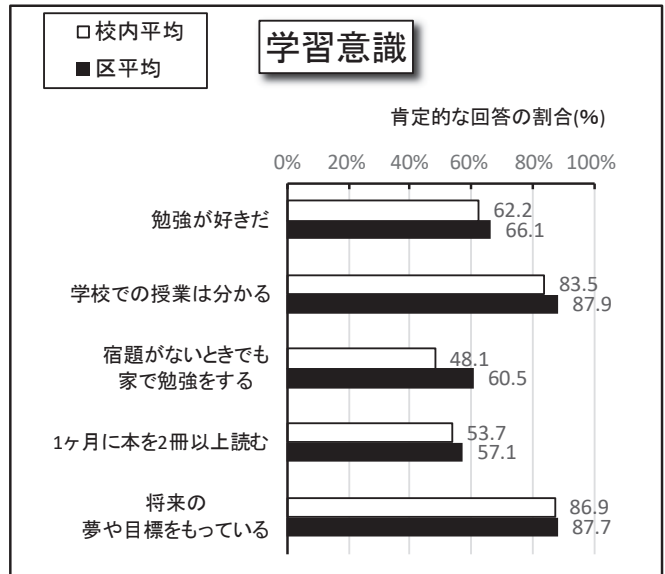
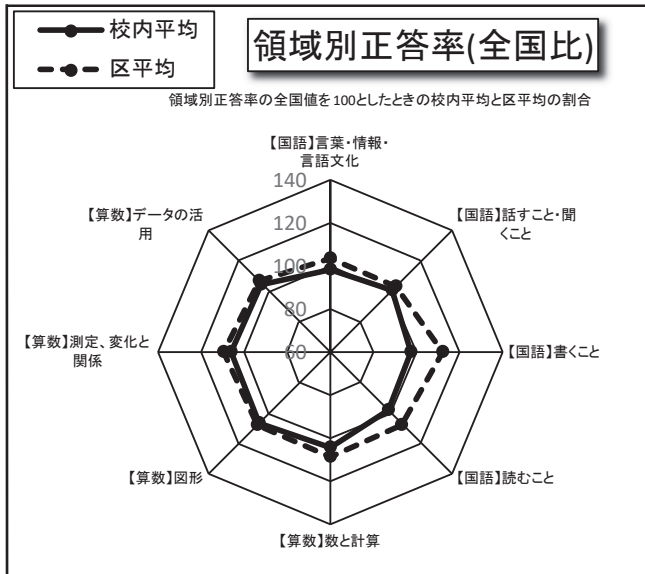
「学習定着度調査」分析結果

- 学校全体の結果を昨年度と比較すると、通過率では、国語4.5ポイント、算数4.1ポイントとどちらも下回った。平均正答率では、国語1.9ポイント上回り、算数4.6ポイント下回った。このことから、上位層の児童が国語では増えたが、算数では減り、どちらも下位層の児童が増えていると考えられる。基礎的な内容の再指導が必要である。
- 各学年の結果を昨年度と比較すると、3年生以外は通過率が下回った。4, 5, 6年生はR4年度でも通過率が前の年を下回っていた。このことから、基礎的な内容のつまづきを克服する前に、次の学年に上がっていることが分かる。前学年以前にも立ち返り、児童一人ひとりの状況を把握し、苦手克服を図る必要がある。
- 学習意識調査では、「1ヶ月に本を2冊以上読む」に肯定的な回答をした割合が最も低く、区の平均を5.3ポイント下回った。低学年で下位層の児童は、文字を追うよりも、絵や写真を見ていることが多い。言葉の意味を説明しながら読み聞かせをするなどして、自分で言葉や文としてとらえて読もうという気持ちを育むことが、読解力の向上につながると思う。

学校による学力向上への主な取り組み

- 教科指導専門員による指導・校内研究や年次研修などの授業研究の機会を活用し、授業を見合い、フィードバックを行う機会を増やすことで、若手教員の授業力向上につなげていく。また、学年内での授業の進め方についての共通理解を図り、経験年数に関係なく、全教員が足立スタンダードの確実な実施をして、児童が主体的に学ぶ授業づくりを行う。
- 1～6年生までの全学年で、算数習熟度別指導を行い、学力層ごとに対応した指導の充実を図る。
- 放課後補充教室では授業形式や個別指導を通して、一人ひとりの苦手な単元を克服し、基礎的な学習内容の定着を図る。
- 長期休業中の補充教室は、指導する教員や学習ボランティアの人員を増やすことで、個に対応した指導が可能になっている。学力調査における苦手分野や、前学年までの学習に立ち返って学習することで、基礎的な学習内容の定着を図る。
- A Iドリルを活用し、児童の理解度に合わせた学習教材を使用し、確実に身に付けさせる。

六木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	74.2	81.9	77.8	100.0	66.7	85.7	88.3	96.1	76.1	76.1	62.0	55.7
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	76.0	82.5	86.9	98.4	90.9	93.5	71.9	89.1	69.6	68.4	62.8	67.9
平均正答率(R5)	74.1	73.4	86.8	91.1	80.7	85.1	79.7	82.8	69.7	67.1	61.4	51.9
平均正答率(R4)	69.8	74.9	85.7	93.9	85.4	90.1	63.4	78.5	59.9	64.0	61.9	59.1

◎目標値: 本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率: 本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

【通過率および領域別正答率に関して】

- 学校全体の通過率は、昨年度と比較し、国語は1.8ポイント、算数は0.6ポイント下回った。また、算数は学校経営目標の通過率80%を上回ったが、国語は約6ポイントの差がある。
- 学年別・教科別の通過率は、2年生の国語と3・6年生の国語・算数が下回ったものの、2年生の算数および4・5年生の国語・算数は昨年度を上回った。
- 領域別正答率は、全ての項目においてまだ区平均に届いてないが算数の領域については区平均に近づいた。しかし、国語の観点の「書くこと」「読むこと」は区平均を特に大きく下回っている。

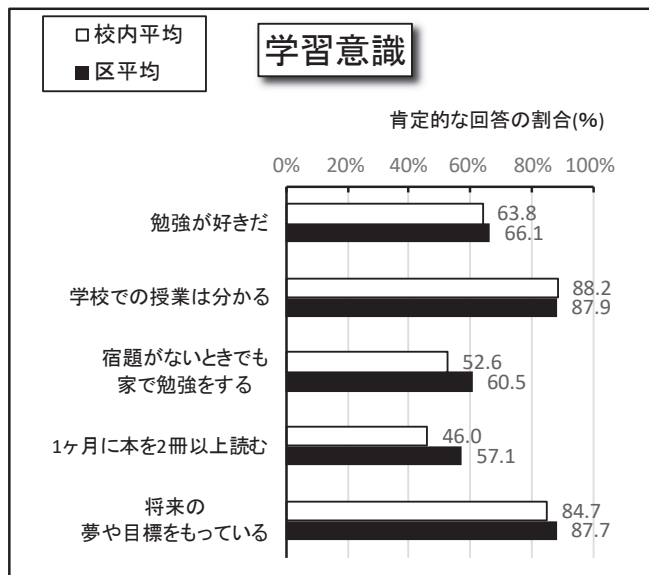
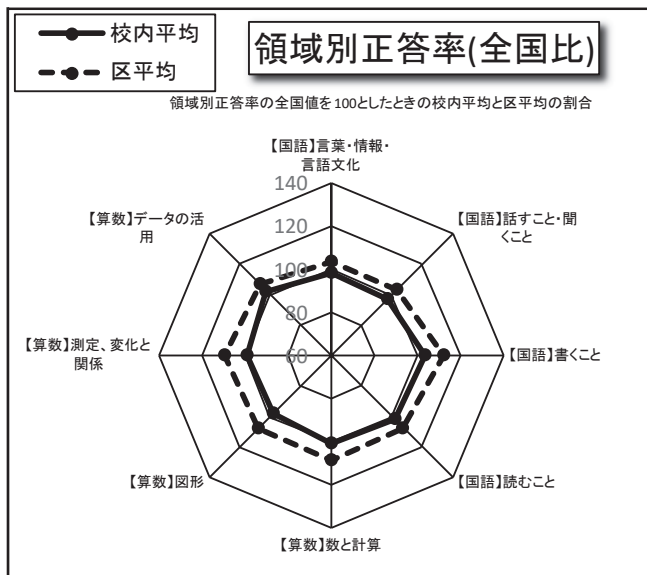
【学習意識に関して】

- 学習意識は、「将来の夢や目標をもっている」以外、大きく区平均を下回っている。特に、「宿題がないときでも家で勉強をする」に関しては、12.4%下回っている。

学校による学力向上への主な取り組み

- 足立スタンダードの徹底により、算数では練習問題までを授業時間内に終わることを心がけている。校内研究は昨年度に引き続き算数科に視点をおいた。「自分の考えをもち、主体的に学び合う児童の育成～基礎的・基本的な力の定着を目指して～」をテーマとし、過去2年間の学力調査結果の分析により洗い出された各学年のつまずきの多い単元を選んで、研究授業を実施している。つまずきの多い単元でも、自分の考えをもてるようにし、「わかった」「できた」という喜びを感じさせ、自ら学ぶ姿が見られるようになることを目指すことで学力向上につなげたい。
- 放課後補充教室を実施し、算数の授業のつまずきを、その日のうちに解消できるようにしている。
- 週4日、8時15分からの1分間を計算タイムとし、各学年の実態に合わせた計算問題に取り組みさせている。また、お昼の放送で九九の歌や単位の歌を流している。このような取り組みを通して、算数における基礎的・基本的な力の定着を目指している。
- 週1回の朝読書、読書週間等の取り組みにより、児童が本に親しむ機会を確保している。

本木小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	74.3	72.4	78.0	86.4	74.6	71.4	75.8	71.0	71.7	61.7	71.8	71.8
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	79.0	80.3	85.2	91.8	83.3	81.7	72.1	72.1	69.1	66.2	86.7	91.7
平均正答率(R5)	74.7	70.7	85.9	85.8	82.4	82.5	75.0	68.5	68.3	62.1	67.0	61.2
平均正答率(R4)	72.4	74.8	84.6	91.2	81.4	84.1	66.6	70.3	62.3	64.0	71.3	69.6

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合[目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

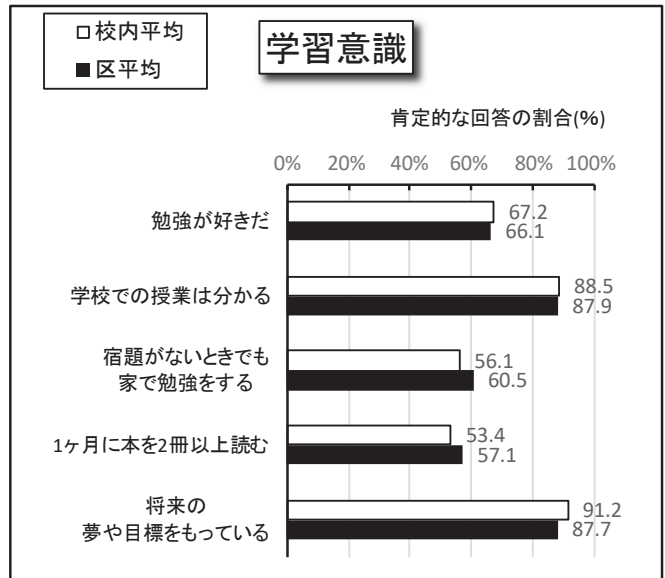
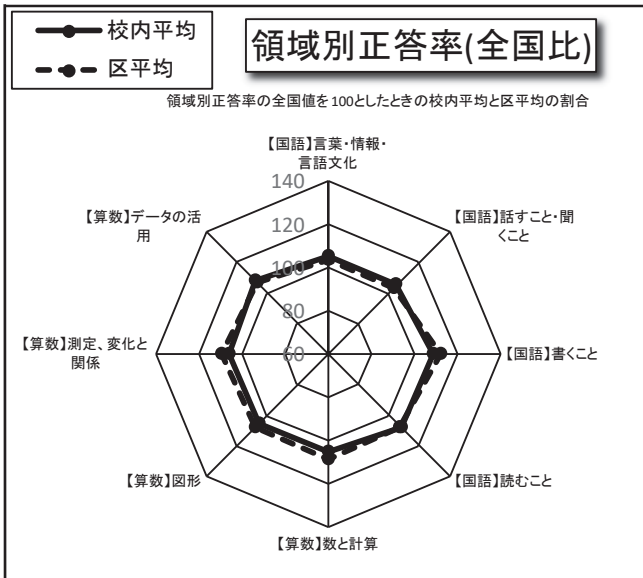
「学習定着度調査」分析結果

- 平均正答率については、すべての学年・教科で目標値を上回っている。しかし、区平均正答率と本校平均正答率を比べると、どの領域でも区平均を下回っていることがわかる。分かる・楽しい授業が展開できる授業力の向上に努めるとともに、児童の習熟度に応じた個別指導のより一層の充実を図る。
- 各学年の通過率では、4・5年生の国語で昨年度の通過率を上回ったが、その他の学年・教科では、昨年度より下回っている。ただし、6年生の通過率を経年比較すると、前年度(5年生時)より、国語も算数も結果が上昇した。習熟度別指導や教科担任制により、多くの教員が関わった成果と考える。
- 学習意識では、「授業が分かる」を除く4項目が区平均を下回った。特に、「宿題がないときでも家で勉強をする」「1ヶ月に本を2冊以上読む」のポイントが、区平均より大きく下回っている。ICT機器の有効活用や読書活動の活性化を図り、改善を進めていく。

学校による学力向上への主な取り組み

- 中・高学年では教科担任制、低学年では単元担任制で授業を進めることで、教員の専門性を高め、指導力を向上させる。また、より多くの教員が児童に関わることで、一人ひとりの児童に対して多面的な視点をもって児童理解を深め、指導ができるようにする。
- 月・火・金・土曜日放課後に、自力解決タイムを行い、基礎的な学習内容の習得を確実にする。対象の児童に、自力で解決する体験を積ませることで、学習に対する意欲の向上にも繋がるようにする。
- A Iドリルの活用をすすめ、児童自身が自分の課題に即した学習内容に取り組むことで、各自の課題を克服するための機会を増やす。
- 読書通帳の活用や読書月間・親子読書週間の取り組み、図書ボランティアによる読み聞かせなどを通して、読書への関心・意欲を高め、読む力や語彙力を伸ばす。年間で低学年100冊、中学年70冊、高学年50冊を目標に、読書に取り組ませる。

弥生小学校



	学校全体		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
目標値(R5)			74.4	74.8	72.7	71.3	58.1	60.4	56.0	60.1	60.9	50.5
通過率(R5)	85.3	80.8	85.3	92.6	81.9	81.9	89.0	85.6	86.0	64.5	84.4	83.1
目標値(R4)			69.2	77.2	68.1	71.4	56.8	62.1	53.8	60.1	56.9	48.3
通過率(R4)	87.0	84.2	89.4	87.2	93.5	86.2	90.5	85.4	82.1	78.2	77.9	82.6
平均正答率(R5)	80.4	75.0	88.2	87.6	86.3	81.3	78.7	75.4	76.3	66.1	75.8	69.4
平均正答率(R4)	76.2	78.2	88.1	89.5	83.8	87.5	75.9	79.1	67.0	72.0	67.9	65.0

◎目標値:本調査において、前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値

◎通過率:目標値以上の正答があった児童・生徒の割合 [目標値以上の児童・生徒数÷受検者数×100(%)]

◎平均正答率:本調査を受検した児童・生徒の正答率(出題数中何問正解したかの割合[正答数÷出題数×100(%)]の平均値

「学習定着度調査」分析結果

- ・通過率が令和4年度に比べ、国語が1.7ポイント、算数が3.4ポイント下回る結果となった。学年別で見ると、国語に関しては2～4年生が下降傾向にあり、5、6年生が上昇傾向にある。算数に関しては2、4、6年生が上昇傾向にあるが、3、5年生は下降傾向にある。両教科とも、区の平均前後の値ではあるものの、3年生の国語については、前年度の通過率と比べて10ポイント以上下回る結果になるなど、早急な分析と対策が必要である。
- ・平均正答率は、令和4年度と比べ、国語が4.2ポイント上回ったものの算数が3.2ポイント下回った。学年別で見ても、国語は全学年で前年度を上回っていたが、算数は6年生以外の学年で前年度平均を下回る結果となった。
- ・領域別正答率は、概ね区平均と同程度であった。算数の図形分野がやや平均を下回っているため、対策が必要である。
- ・学習意識調査についても、区平均と同程度であったが、「勉強が好きだ」と答えている児童が67.2%に留まり、授業改善等の対策をする必要がある。

学校による学力向上への主な取り組み

①基礎学力の定着(漢字)

→S Uタイム(朝学習)に、新出漢字を2～3字扱う。読みに重点を置き、教科書には振り仮名を書き込まず、国語の教科書をすらすらと音読できるようにする。また、漢字コンテストを年間2回実施し、前年度までの漢字の読み書きの定着を図る。

②A Lタイム(個別学習)の実施

→A Iドリルを使用し、児童のつまづきを見つけ、個別指導を行う。

③B Sタイムの実施

→学力調査や単元テストの解説、解き直し、全体的なつまづきに対する補充学習を行う。また、漢字コンテストや計算コンテスト(年間2回ずつ実施)の取り組みを行う。

④家庭学習の習慣化

→発達段階に応じて、宿題と自主学習を組み合わせた家庭学習を習慣化させる。高学年においては、タブレット端末を利用するなどした予習型自主学習を推進する。